INST.NO. KS-32-1

CHINO

DB600 設定ソフト

INSTRUCTIONS

株式会社チノー

目　次

１．はじめに 1

２．動作環境 3

２－１．ソフトの動作条件 3

３．セットアップ方法 4

３－１．インストール 4

３－１－１．新規インストール 4

３－１－２．バージョンアップ時のインストール 7

３－２．アンインストール 8

４．本ソフトの起動と終了 10

４－１．起動 10

４－２．終了 11

５．操作方法 12

５－１．操作の流れ 12

５－２．ホームの操作 14

５－２－１．ポート登録画面 15

５－２－２．機器登録画面 17

５－２－３．サマリ表示画面 24

５－２－４．バージョン情報画面 28

５－３．パラメータ設定の操作 29

５－３－１．パラメータ設定画面 30

５－４．データ集録の操作 59

５－４－１．データ登録画面 61

５－４－２．グループ登録画面 63

５－４－３．集録グループ管理画面 65

５－４－４．警報表示画面 66

５－４－５．データメモリー操作画面 67

５－４－６．トレンドグラフ表示画面 69

５－４－７．リアルタイムデーター覧表示画面 75

５－５．データ解析の操作 77

５－５－１．データ解析画面 78

５－６．お気に入りの操作 100

６．トラブルシューティング 104

１．はじめに

このたびは、DB600 設定ソフトをご利用いただきまして誠にありがとうございます。
本ソフトは、DB600 に対するパラメータの設定・データ集録・データ解析の各機能と各機能間の
連携を提供するアプリケーションです。

本取扱説明書は、ハードウェアの準備やプログラムインストール、操作方法等について記載しています。
本ソフトを充分にご理解いただき、かつトラブルなどを未然に防ぐためにも、本取扱説明書を必ず事前に
お読み下さい。

ご 注 意

１．適　用
以下の事項は、今回ご利用いただくチノー製品に対し適用いたします。

２．著作権
本ソフトは著作権法および国際著作権条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律ならびに条約により保護されています。本ソフトに関する特許、著作権、商業的機密、商標権など一切の知的所有権は株式会社チノーに属します。

３．使用許諾の範囲
お買い上げいただいた機器に対してのみ使用することができます。その使用の範囲においては、複数のユーザーが複数のパソコンへインストールして使用することが可能です。

４．第三者使用の禁止
本ソフトを再使用許諾、譲渡、頒布、貸与その他の方法により第三者に使用もしくは利用させることはできません。

５．コピーの制限
お客様は、記憶媒体で提供されている本ソフトに限り、これをバックアップの目的のために複製することができます。

６．改造の禁止
お客様は、本ソフト及び付属物の全部または一部を修正、改変することはできません（本ソフトの一部分を他のソフトに組み込むことを含む）。

７．保証
本ソフトは無償提供品の為、弊社によるサポート・動作補償はいたしません。またソフトの不具合については修正の義務を負いません。

８．免責
本ソフトの使用に付随または関連して生じた直接的または間接的な損失、損害などについて、如何なる場合においても一切責任を負わず、また本ソフトの使用に起因または関連してお客様と第三者との間に生じた如何なる紛争についても一切責任を負いません。

９．停電時の動作
停電等の電源の供給が不可能な状況では本ソフトは停止します。また、電源復帰時も手動による起動を必要としますので予めご了承下さい。

１０．その他
弊社は、本ソフトを改良その他により仕様を予告なしに変更することがあります。
また、本取扱説明書作成時の画面イメージと実際の画面とで差異がある場合があります。

お断り

１．本書の全部、または一部を無断で複写、または転載することを禁じます。
２．本書の記載内容は、お断わりなく変更する場合があります。
３．本書の内容については、万全を期しておりますが、万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどがありましたら、最寄りの弊社営業所までご連絡下さい。
４．運用した結果につきましては、いかなる場合でも責任を負いかねますので、ご了承下さい。

商　標

１．Microsoft、Windows、Windows XP、Windows 7、.NET Framework、Office は、
　　米国 Microsoft Corporation およびその関連会社の商標です。
２．その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標及び登録商品です。
３．なお、本文中では、TM 及び®マークは省略して記載しております。ご了承下さい。

お 願 い

１．本取扱説明書は、本ソフトを廃棄するまで、大切に保管して下さい。
２．廃棄する際、各地方自治体の定めるゴミ収集方法に応じて分別し、リサイクル等にご協力下さい。

２．動作環境

本ソフトは、以下の環境でご使用下さい。

２－１．ソフトの動作条件

準備	内容・条件	
PC	CPU	1GHz 32 bit または 64 bit。
	メモリー	1GB 以上(32bit)、2GB 以上(64bit)。
	ハードディスク容量	2GB 以上の空きハードディスク領域。
	リムーバブルディスクドライブ	CF 対応の物。
	動作 OS	Windows XP SP3（32bit）日本語版 Windows 7（32bit/64bit）日本語版 ※上記 OS に、.NET Framework4.0 以降がインストール可能なこと。
インストール	.NET Framework4.0	
	Microsoft Office2007 / 2010 ※インストールされていない場合一部のファイル出力機能が制限されます。	
ディスプレイ	画面解像度 1024×700 以上。	

３．セットアップ方法

３－１．インストール

３－１－１．新規インストール

ご使用前にインストール媒体からパソコンへインストールして下さい。
インストールは、次の手順で行います。

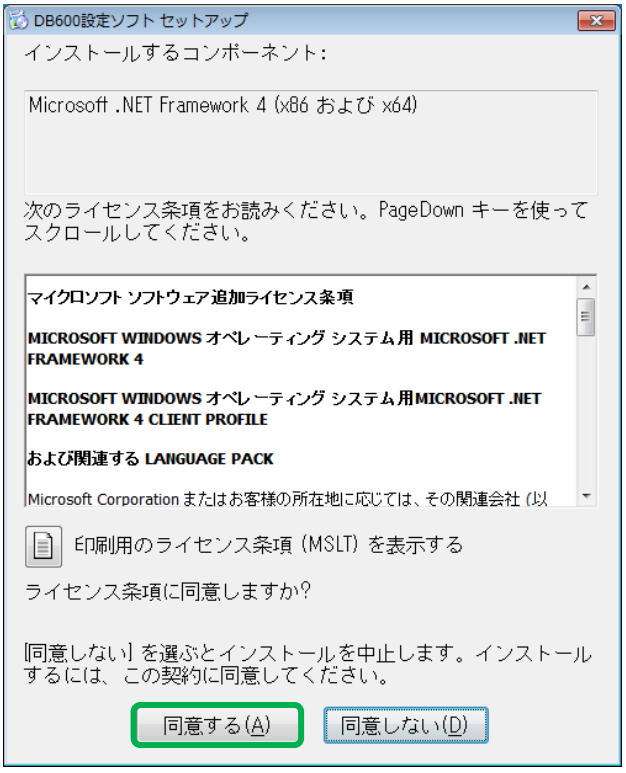
＜手順＞

①インストーラを起動

Windows を起動させ、インストール媒体から「setup.exe」を起動させます。

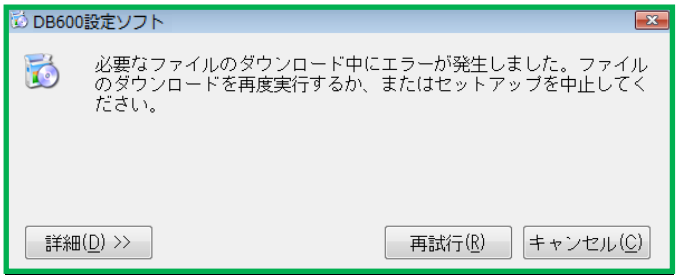
②ライセンスの同意

事前に「Microsoft .NET Framework 4 」のインストールを要求されます。
［同意する］ボタンをクリックします。
※既にインストール済みの場合は表示されない可能性があります。



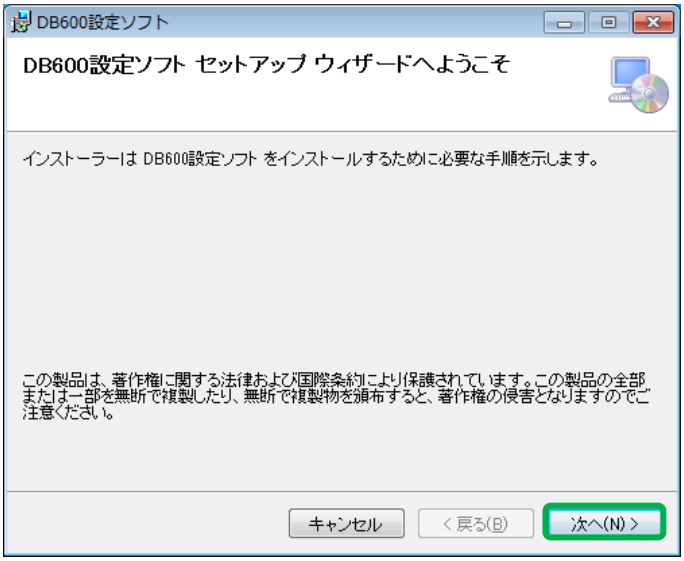
※ライセンスの同意時の注意

本画面が表示された場合はネットワークに接続されているかを確認し、ネットワークに接続された状態で再度インストールを実行して下さい。



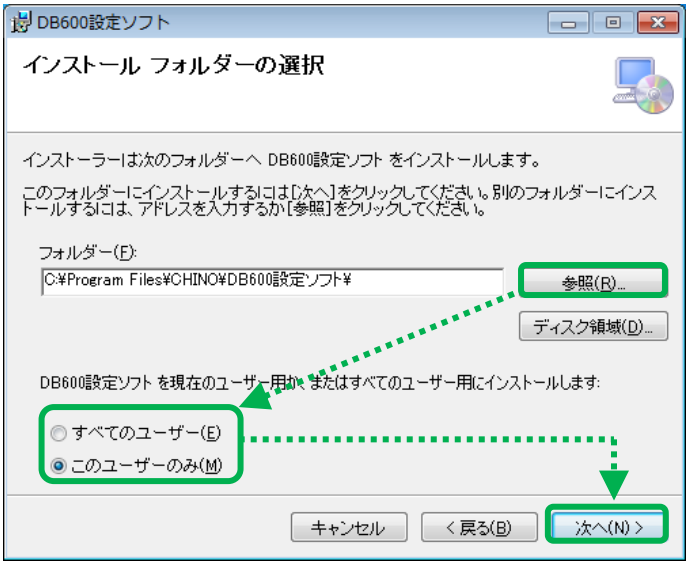
③インストールウィザードの開始

DB600 設定ソフト セットアップ
ウィザード画面が起動します。
［次へ］ボタンをクリックします。



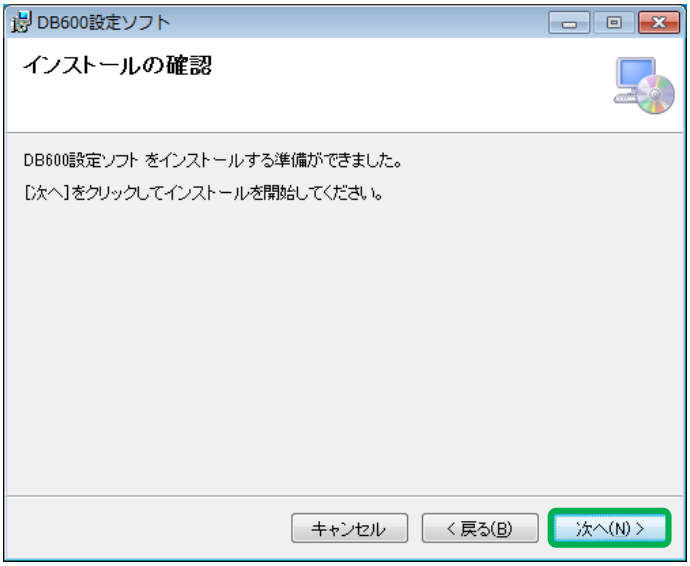
④インストールフォルダーの選択

インストールフォルダーの選択画面で、
［インストールフォルダー］［ユーザー］
の選択を行います。
［次へ］ボタンをクリックします。



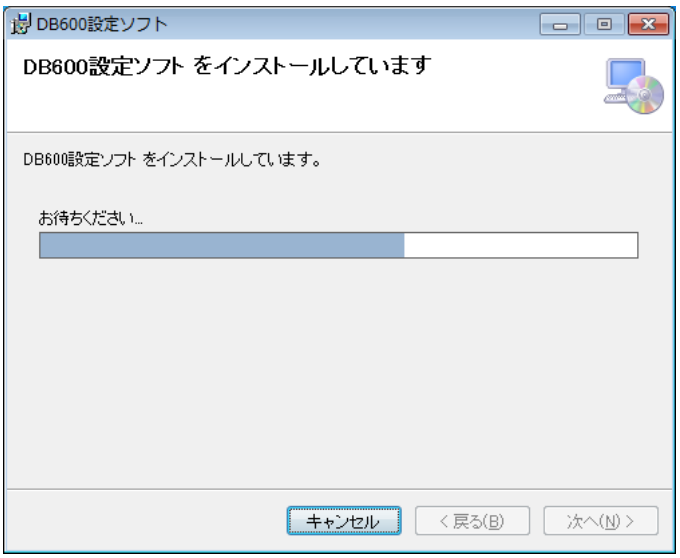
⑤インストールの確認

インストールの確認画面で、
［次へ］ボタンをクリックします。



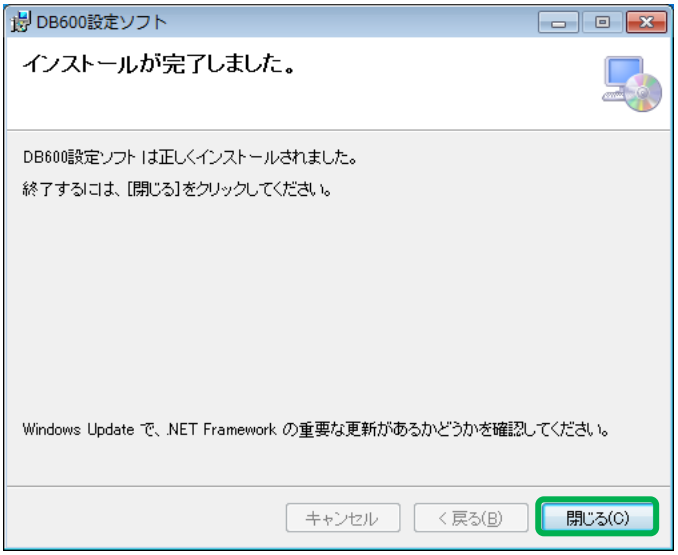
⑥インストールの開始

インストールが開始されます。
インストールの進行状況を示す画面が表示されますので、インストール完了までこのままお待ち下さい。



⑦インストールの完了

インストール完了画面が表示されます。［閉じる］ボタンをクリックして終了して下さい。



３－１－２．バージョンアップ時のインストール

本ソフトは、機能追加や不具合修正のために、バージョンアップを行うことがあります。
バージョンアップは次の手順で行います。

＜手順＞

①現在のバージョンをアンインストールする（３－２項参照）。
②新しいバージョンをインストールする（３－１－１項参照）。

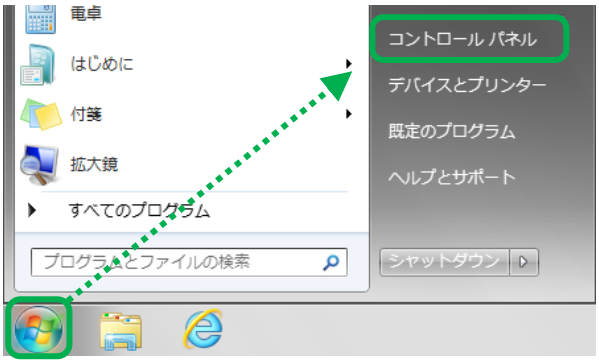
３－２．アンインストール

本ソフトをハードディスクから削除する方法を説明します。
アンインストールを始める前に、本ソフトに関係するプログラムを全て終了させて下さい。

＜手順＞

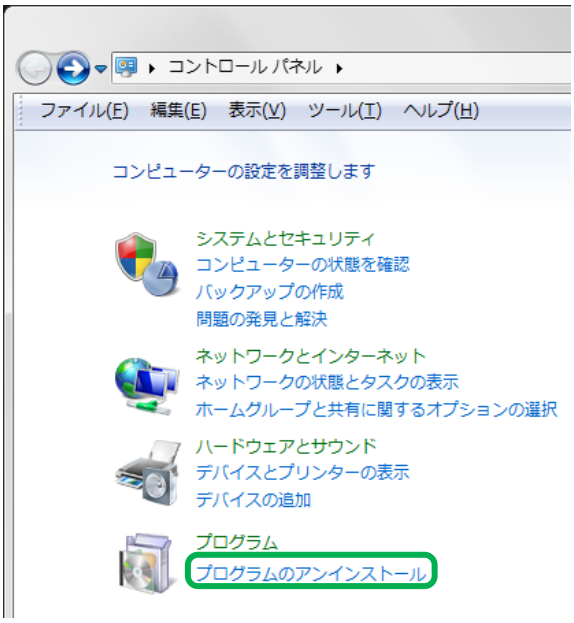
①コントロールパネルを開く

［スタート］→［コントロールパネル］の順にクリックします。



②［プログラムのアンインストール］をクリック

コントロールパネルが表示されたら、［プログラムのアンインストール］をクリックします。

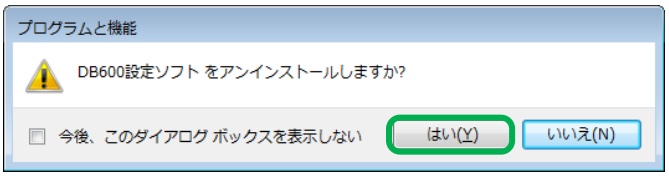


③［DB600 設定ソフト］を削除

一覧から［DB600 設定ソフト］を選択し、［アンインストール］をクリックします。

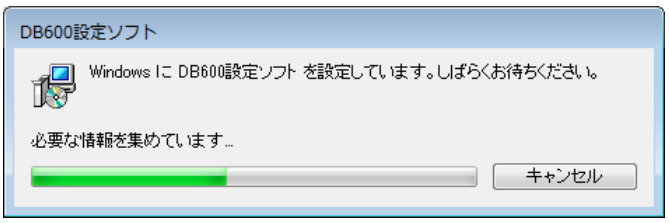
④［はい］をクリック

プログラムと機能の画面で、
［はい］をクリックします。



⑤アンインストール開始

アンインストールが開始されます。
進行状況を示す画面が表示されますので
アンインストール完了まで、このままで
お待ち下さい。
アンインストールが終了すると、自動で
右画面が閉じます。



※この時点では、本ソフトに関するフォルダが残っています。全て削除するにはエクスプローラ等から、関連するフォルダ「DB600 設定ソフト」を削除して下さい。
フォルダの場所は下表の通りです。

【本ソフトに関するフォルダの場所】

OS	フォルダの場所
Windows XP	C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥DB600 設定ソフト
Windows Vista、Windows 7	C:¥ProgramData¥ DB600 設定ソフト

４．本ソフトの起動と終了

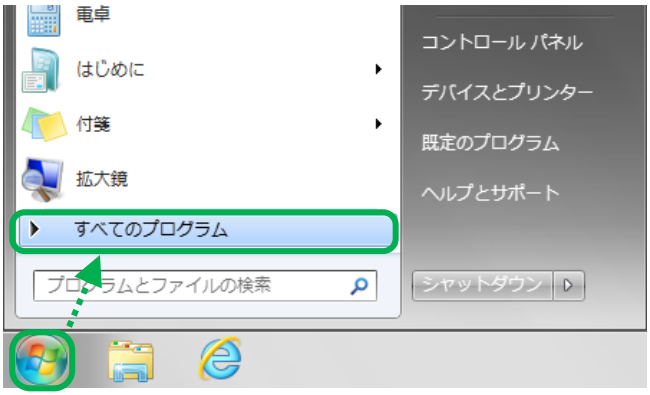
４－１．起動

本ソフトを起動する方法について説明します。

＜手順＞

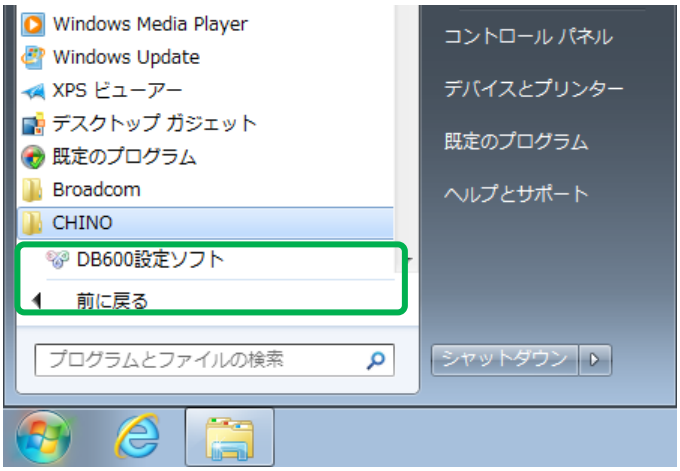
①［すべてのプログラム］を表示

［スタート］→［すべてのプログラム］の順にクリックします。



②DB600 設定ソフトを起動

続いて［CHINO］→［DB600 設定ソフト］の順にクリックすると、本ソフトが起動します。



４－２．終了

本ソフトを終了する方法について説明します。

＜手順＞

タイトルバー右端の［×］ボタンをクリックし、メインオペレーション画面を閉じます。

５．操作方法

本アプリケーションの操作方法を説明します。

※説明に使用される画面は開発段階のものです。実際の画面とは多少の差異がある可能性がありますのであらかじめご了承下さい。

５－１．操作の流れ

＜手順＞

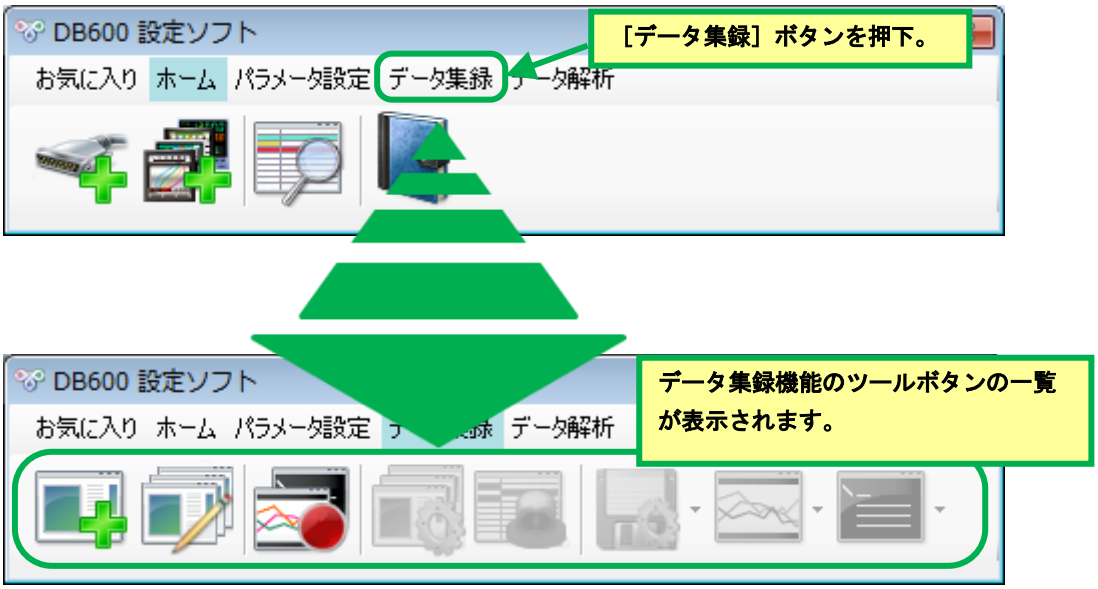
① 本ソフトを起動

起動すると、メインオペレーション用のランチャー画面が表示されます。

② 機能の選択

ランチャー画面上では大きく分けて５つの機能選択が可能です。

メニューバーの左から、[お気に入り][ホーム][パラメータ設定][データ集録][データ解析]となっており、各々のメニューボタンを押下することで下段のツールボタンが該当する機能のものに切り替わります。

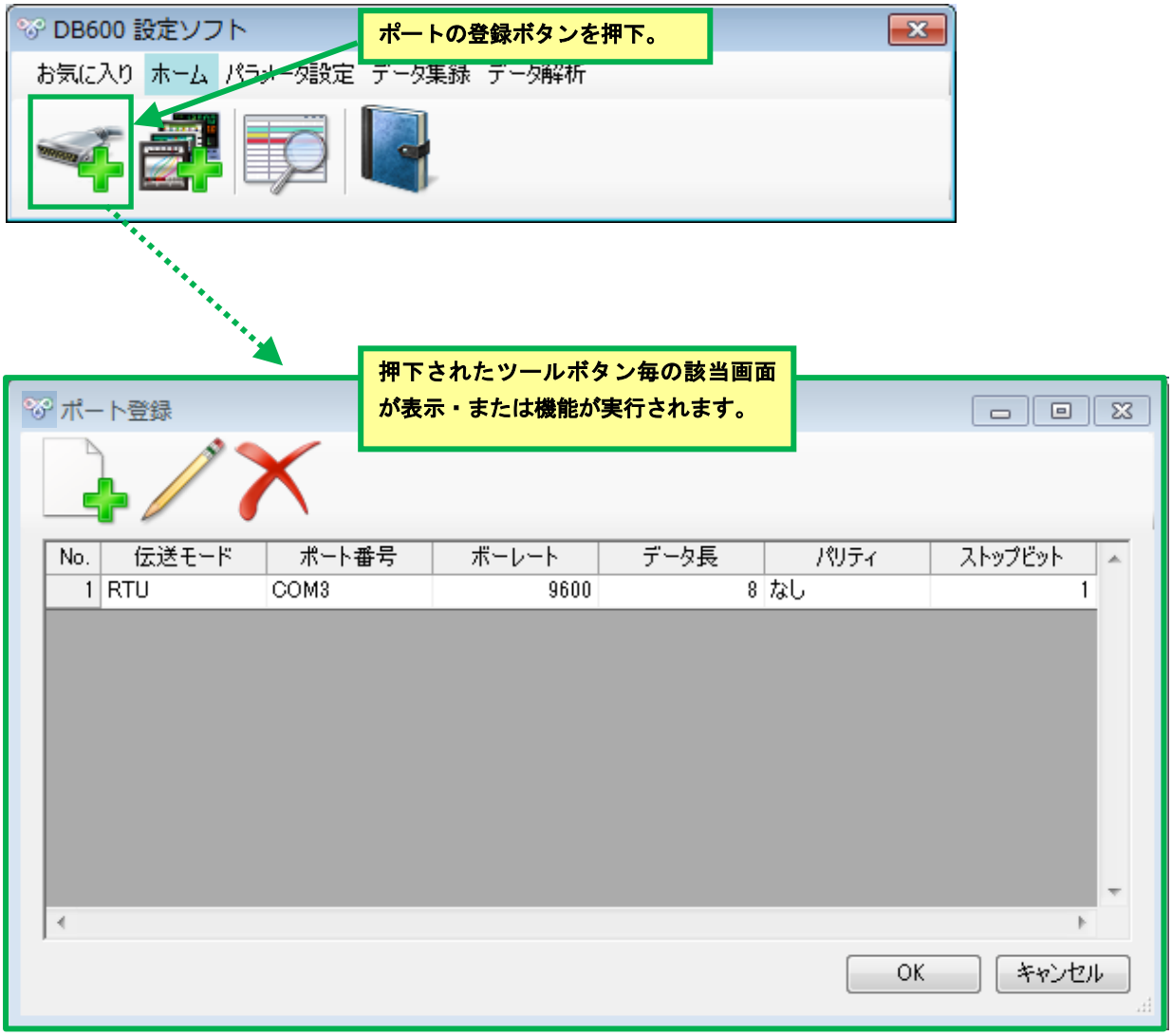


③ 各種機能の起動

②機能の選択後、下段のツールボタンを押下します。
ツールボタン押下することで該当する機能・画面を起動することができます。

※起動可能な画面数は最大で 10 画面です。但し以下の画面は除外されます。

- **「５－２－１．ポート登録画面」**
- **「５－２－２．機器登録画面」**
- **「５－２－３．バージョン情報画面」**
- **「５－４－１．データ登録画面」**
- **「５－４－２．グループ登録画面」**



④ 本ソフトを終了

メインオペレーション用 ランチャー画面を閉じます。

注 記　終了時の注意

設定・集録・解析 機能のいずれかを起動中にランチャー画面を閉じるとランチャー画面の終了と共に関連する各機能・画面も同様に終了してしまいます。アプリケーションの終了に関しましては、その他の関連する機能を終了した上でランチャー画面の終了に遷移する流れを推奨します。

５－２．ホームの操作

ホームでは、本アプリケーション全体に関連する設定情報の登録・状態の監視等の機能を提供します。

＜ランチャー画面 ホーム 各部名称＞

下図 ①ポート登録、②機器登録、③サマリ表示、④バージョン情報表示 機能を用いて本アプリケーションにおける基本設定情報の管理を行います。

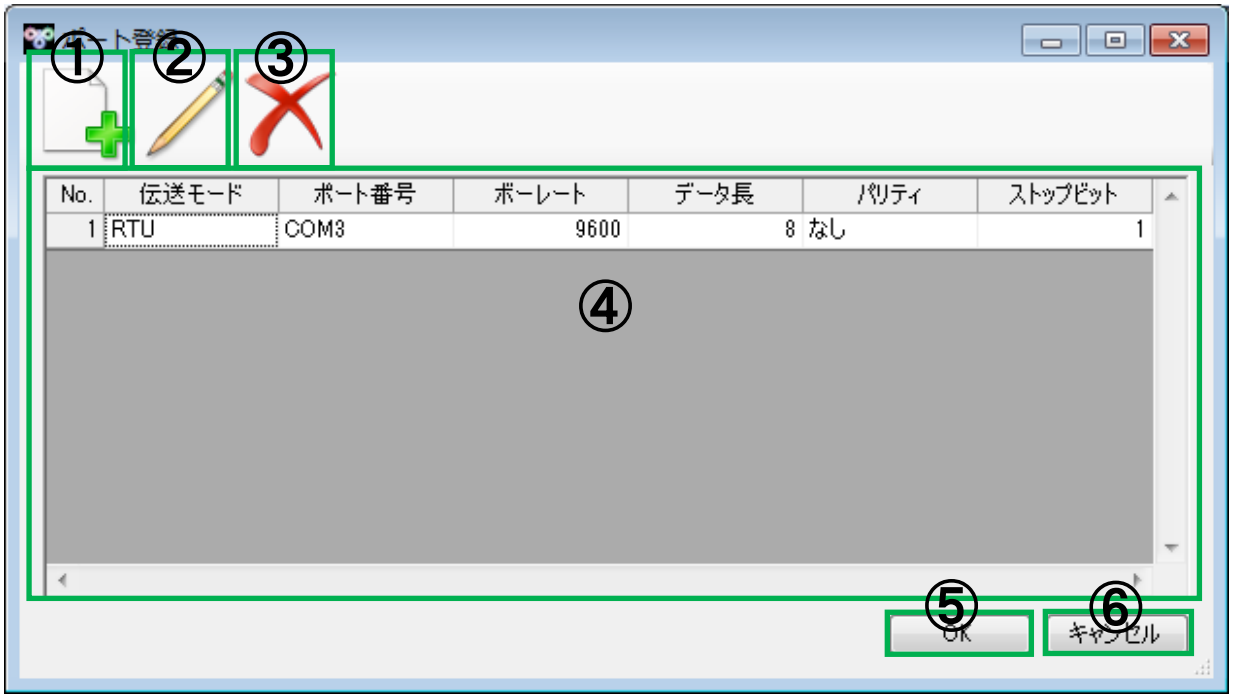
番号	名称	説明	参照
①	ポート登録	ポート登録画面を表示します。ポート設定の登録・編集・削除機能を提供します。	５－２－１
②	機器登録	機器登録画面を表示します。接続機器設定の登録・編集・削除機能を提供します。	５－２－２
③	サマリ表示	サマリー覧を表示します。表示に関連した設定も提供します。	５－２－３
④	バージョン情報表示	本アプリケーション並びに、保持している各機器 DLL のバージョン情報の一覧を表示します。	５－２－４

５－２－１．ポート登録画面

アプリケーション内のシリアルポート通信における設定情報の登録・編集・削除を提供します。

＜ポート登録画面 各部名称＞

下図 ①新規登録、②編集、③削除、④登録ポート一覧表示部、⑤OK、⑥キャンセル の機能を用いてシリアルポート通信の設定を行います。



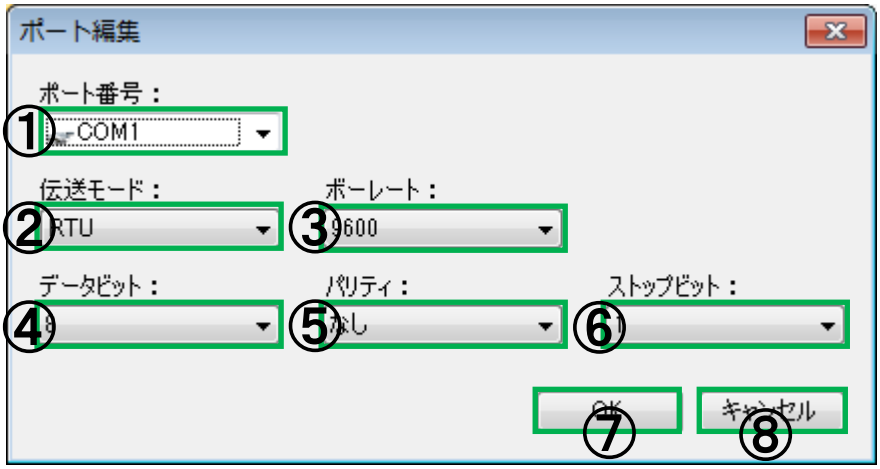
番号	名称	説明	参照
①	新規登録	ポート編集画面を表示します。ポート一覧情報に新規追加します。 ※1 ポートの登録が可能です。	５－２－１－１
②	編集	登録済みのポート設定情報から、ポート編集画面を表示します。 ※編集に限り、④登録ポート一覧表示部 ダブルクリックからのポート編集画面表示が可能です。	５－２－１－１
③	削除	登録済みのポート設定情報から、選択したものを削除します。	-
④	登録ポート一覧表示部	現在登録されているポート設定情報の一覧が表示されます。	-
⑤	OK	ポート登録画面を起動してから新規登録・編集・削除した内容を反映します。	-
⑥	キャンセル	ポート登録画面を起動してから新規登録・編集・削除した内容をキャンセルします。	-

５－２－１－１．ポート編集画面

ポート登録画面 ポート設定情報の編集機能を提供します。

＜ポート編集画面 各部名称＞

下図 ①ポート番号、②伝送モード、③ボーレート、④データビット、⑤パリティ、⑥ストップビット ⑦OK、⑧キャンセル を用いて１ポート設定情報の編集またはキャンセルを行います。



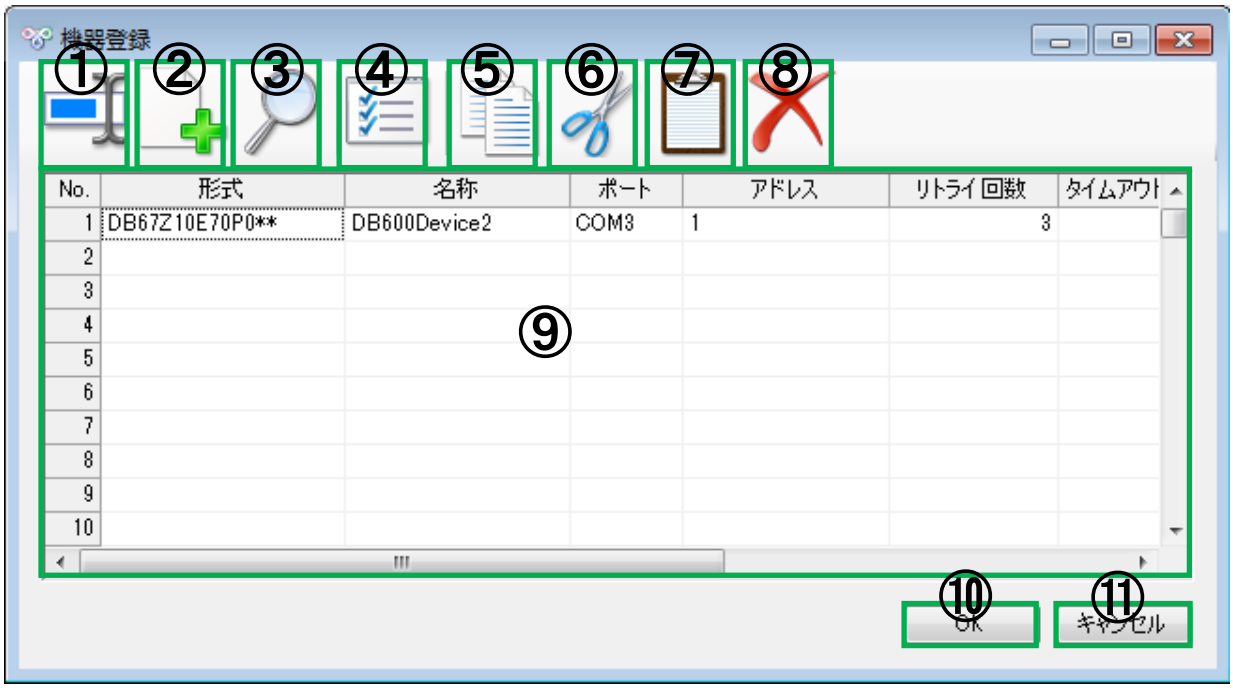
番号	名称	説明
①	ポート番号	COM1～COM256 の範囲からポート番号を選択します。 ※使用可能なポート番号には下記のアイコンが表示されます。
②	伝送モード	RTU／ASCII のどちらかを選択します。
③	ボーレート	9600／19200／38400 から選択します。
④	データビット	7／8 のどちらかを選択します。
⑤	パリティ	なし／偶数／奇数 から選択します。
⑥	ストップビット	1／2 のどちらかを選択します。
⑦	OK	編集したポート設定情報をポート登録画面に反映します。
⑧	キャンセル	編集したポート設定情報をキャンセルします。新規登録だった場合は追加を取り消し、 登録済みポート設定の編集だった場合は編集前の状態に戻ります。

５－２－２．機器登録画面

アプリケーション内で通信する機器の設定情報の登録・編集・削除を提供します。

＜機器登録画面 各部名称＞

下図 ①形式コード直接入力、②ウィザード登録、③機器スキャン、④登録機器詳細設定、⑤コピー、⑥切り取り、⑦貼り付け、⑧削除、⑨登録機器一覧 表示部、⑩OK、⑪キャンセル の機能を用いて機器登録情報の設定を行います。



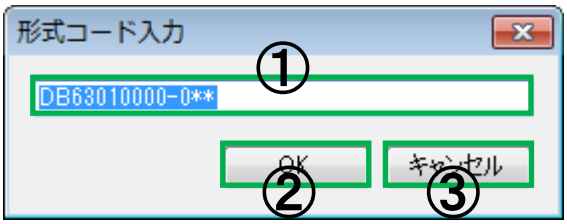
番号	名称	説明	参照
①	形式コード入力	形式コード入力画面を表示します。登録したい機器の形式コードを直接入力します。	５－２－２－１
②	ウィザード登録	機器登録ウィザードが開始されます。登録したい機器・各種設定等を選択方式で指定します。	５－２－２－２
③	機器スキャン	機器スキャン画面を表示します。通信設定を指定し現在接続中の機器から形式コードを取得します。	５－２－２－３
④	登録機器詳細設定	機器設定編集画面を表示します。形式コードの確定した機器の詳細設定情報を編集します。	５－２－２－４
⑤	コピー	登録機器一覧上の選択した範囲の機器情報をコピーします。 ※Ctrl＋C キーでショートカット可能です。	-
⑥	切り取り	登録機器一覧上の選択した範囲の機器情報を切り取ります。 ※Ctrl＋X キーでショートカット可能です。	-
⑦	貼り付け	⑤コピーまたは⑥切り取りにて保持した機器情報を選択した行以降に貼り付けます。 ※Ctrl＋V キーでショートカット可能です。	-
⑧	削除	登録済みの機器情報から、選択したものを削除します。 ※複数削除が可能です。	-
⑨	登録機器一覧表示部	現在登録されている機器設定情報の一覧が表示されます。 ※機器 10 台の登録が可能です。	-
⑩	OK	機器登録画面を起動してから新規登録・編集・削除した内容を反映します。	-
⑪	キャンセル	機器登録画面を起動してから新規登録・編集・削除した内容をキャンセルします。	-

５－２－２－１．形式コード入力画面

機器登録画面 形式コード直接入力からの機器情報の登録機能を提供します。

＜形式コード入力画面 各部名称＞

下図 ①形式コード 入力欄、②OK、③キャンセル の機能を用いて機器情報の登録またはキャンセルを行います。



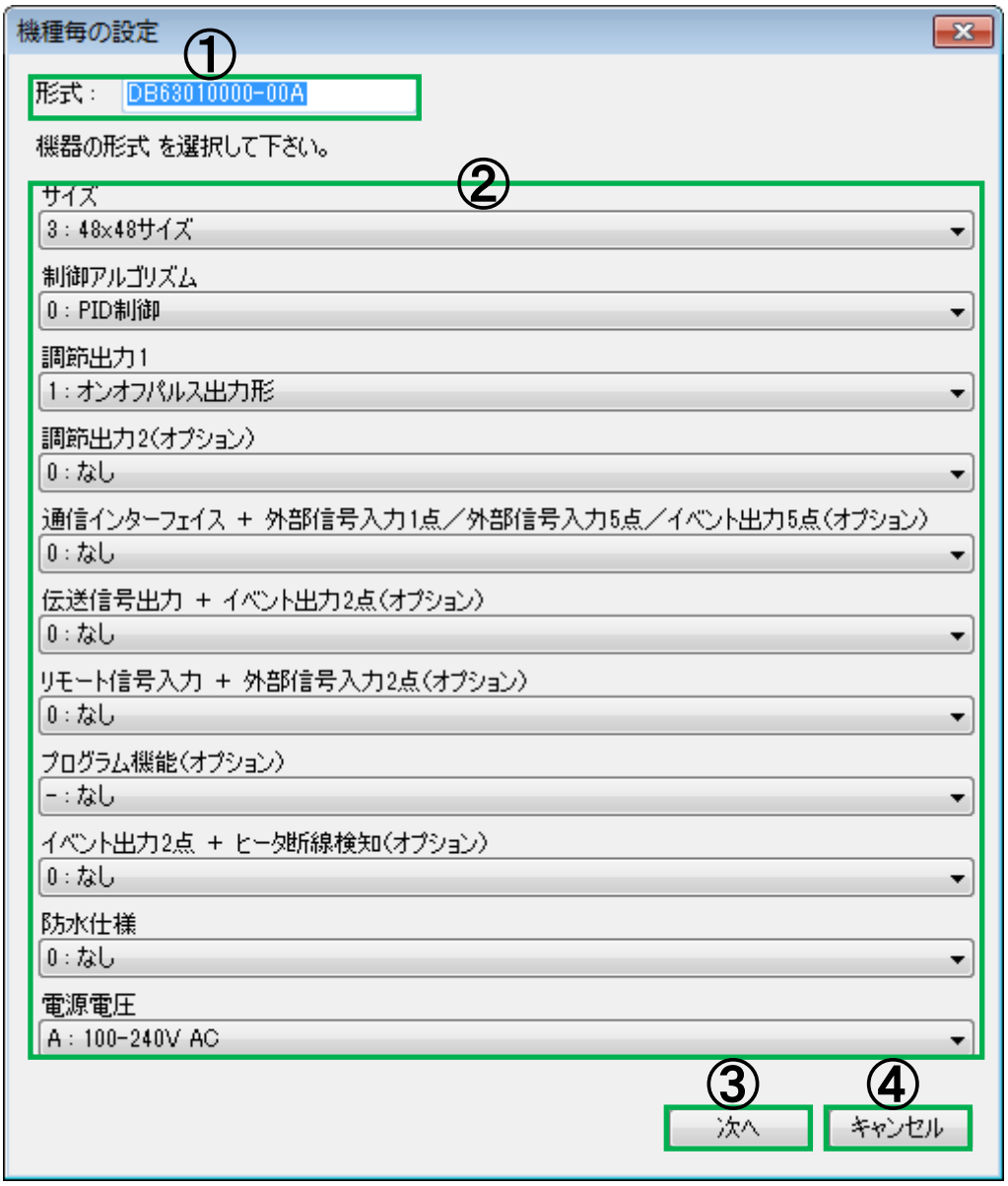
番号	名称	説明
①	形式コード入力 欄	登録したい形式コード直接入力します。
②	OK	入力された形式コードを元に機器情報を作成・登録します。 ※入力された形式コードが登録可能な形式コードに含まれない場合は登録不可能の旨のメッセージを表示します。
③	キャンセル	入力された形式コードを無視し、形式コード入力画面を終了します。

５－２－２－２．機器登録ウィザード画面

機器登録画面 ウィザードからの機器情報の登録機能を提供します。

＜1. 機器登録ウィザード （機種毎の設定）画面 各部名称＞

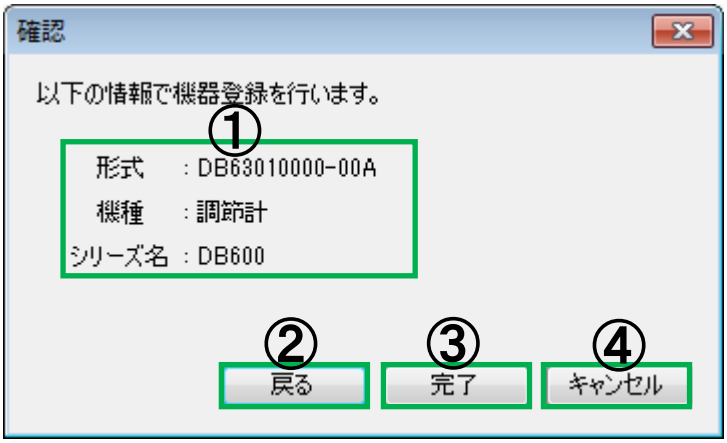
下図 ①形式、②形式の選択、③次へ、④キャンセル を用いて機器登録ウィザードの進行、またはキャンセルを行います。



番号	名称	説明
①	形式	現在の形式コードを表示します。②形式の選択 を行うことで内容が変化します。 ※直接編集は行えません。
②	形式の選択	各選択肢を選ぶことで形式を決定します。各項目を選択することで①形式 の内容が変化します。
③	次へ	指定した形式で機器を登録する為、確認画面に遷移します。
④	キャンセル	指定した形式を無視し、機器登録ウィザード画面を終了します。

＜2. 機器登録ウィザード （確認）画面 各部名称＞

下図 ①確認内容、②戻る、③完了、④キャンセル を用いて機器登録ウィザードの完了・退行、またはキャンセルを行います。



番号	名称	説明
①	確認内容	登録される 形式／機種／シリーズ名 が表示されます。
②	戻る	2. 機器登録ウィザード（形式の選択）画面 に戻ります。
③	完了	確認した内容で機器を登録します。
④	キャンセル	確認した内容を無視し、機器登録ウィザード画面を終了します。

５－２－２－３．機器スキャン画面

機器登録画面 接続機器の形式コードスキャンからの登録、または設定機能を提供します。

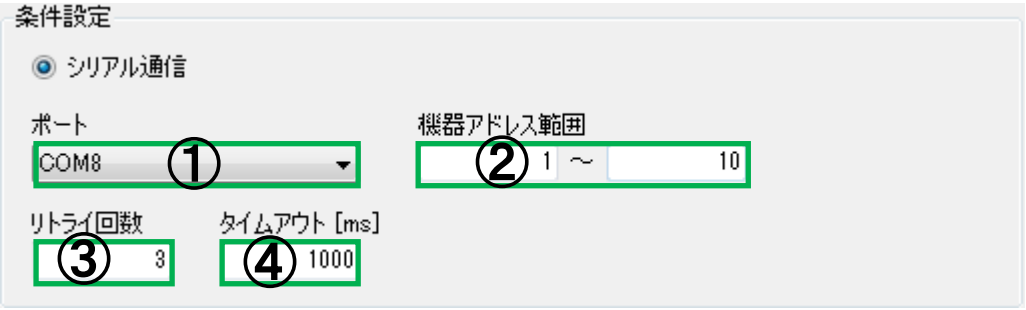
＜1. 機器スキャン画面 各部名称＞

下図 ①通信方式、②通信条件設定部、③スキャン を用いて機器スキャンを実行します。

番号	名称	説明	参照
①	通信方式	接続機器との通信方式はシリアル通信がサポートされています。	-
②	通信条件設定部	通信方式毎の設定を行います。	＜2.＞
③	スキャン	条件設定の内容を元に機器スキャンを開始します。	＜3.＞

＜2. 機器スキャン画面 シリアル通信 条件設定 各部名称＞

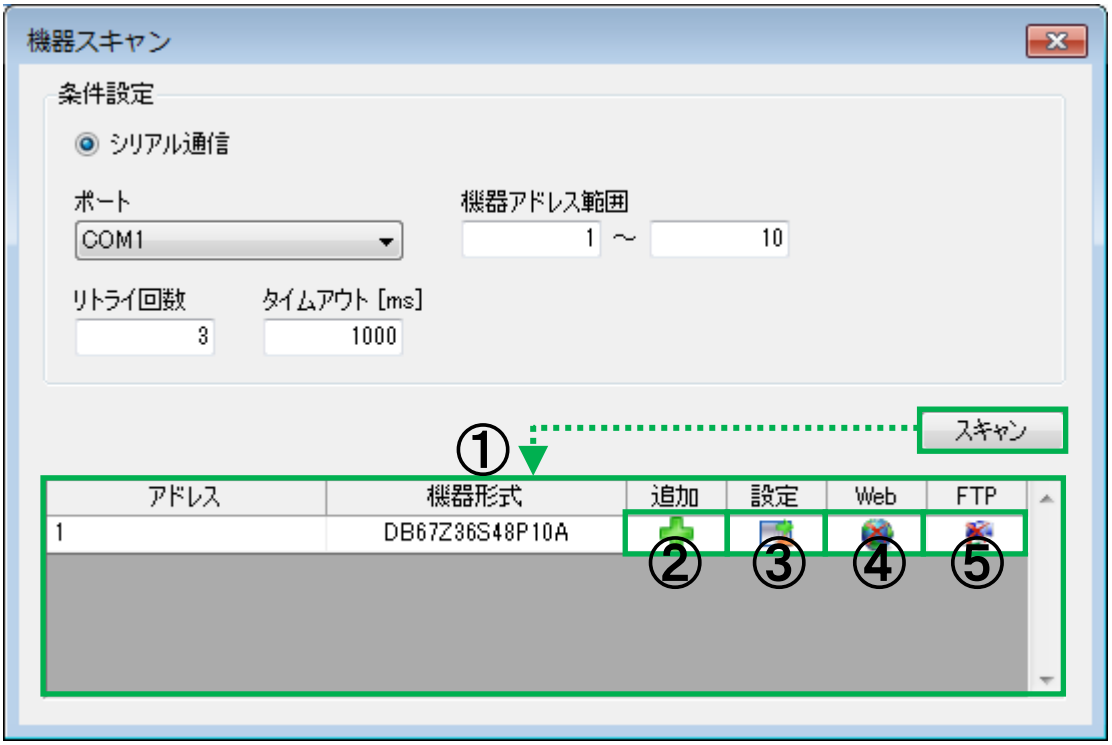
下図 ①ポート、②機器アドレス範囲、③リトライ回数、④タイムアウト を用いて条件を指定します。



番号	名称	説明
①	ポート	５－２－１．ポート登録画面 にて登録したポートの一覧から任意のポートを選択します。
②	機器アドレス範囲	スキャンしたい機器アドレスの範囲を 1～99 の範囲内で指定します。
③	リトライ回数	スキャン時通信のリトライ回数を 0～50 の範囲内で指定します。
④	タイムアウト	スキャン時通信のタイムアウト時間を 0～10000 の範囲内で指定します。

＜3. 機器スキャン画面 スキャン後画面 各部名称＞

下図 ①スキャン結果一覧、②追加ボタン、②設定ボタン、③Web 接続ボタン、④FTP 接続ボタンの機能を用いて機器情報の登録または設定を行います。



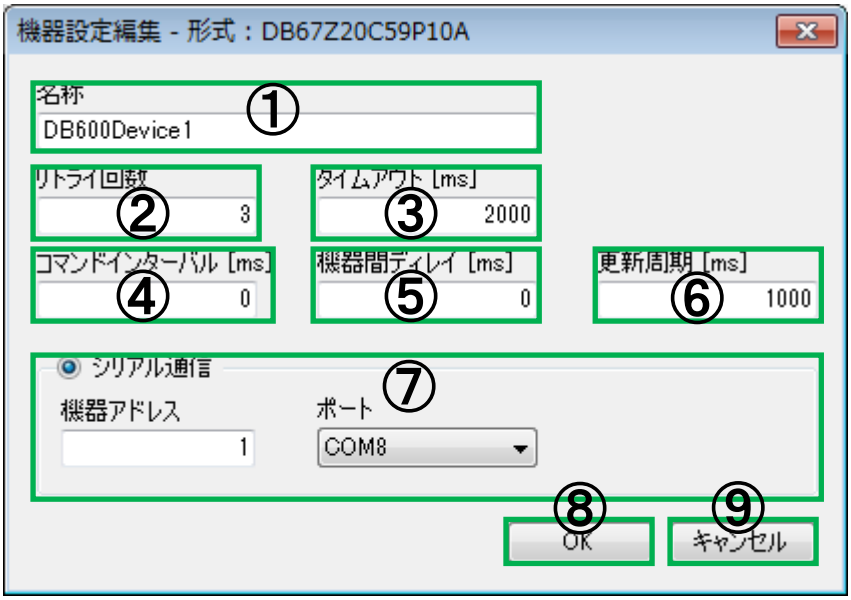
番号	名称	説明
①	スキャン結果一覧	接続機器のスキャン後、形式コードが読み取れたアドレス・機器の形式コードの一覧を表示します。※スキャン前は非表示となっています。
②	追加 ボタン	対象の行の機器形式コードを使用して機器登録一覧に機器情報を追加します。
③	設定 ボタン	機器スキャンで見つかった機器を対象にして、パラメータ設定画面を起動します。 ※詳細は５－３－１．パラメータ設定 を参照して下さい。
④	Web 接続 ボタン	規定のブラウザを使用し対象機器の Web 設定画面を表示します。 ※対象機器が Web 設定をサポートしている場合のみ操作可能です。
⑤	FTP 接続 ボタン	規定のブラウザを使用し対象機器の FTP 設定画面を表示します。 ※対象機器が FTP 設定をサポートしている場合のみ操作可能です。

５－２－２－４．機器設定編集画面

機器登録画面 機器設定情報の編集機能を提供します。

＜機器設定編集画面 各部名称＞

下図 ①名称、②リトライ回数、③タイムアウト［ms］、④コマンドインターバル［ms］、⑤機器間ディレイ［ms］、⑥更新周期［ms］、⑦シリアル通信 設定部、⑧OK、⑨キャンセル の機能を用いて機器設定情報の編集またはキャンセルを行います。



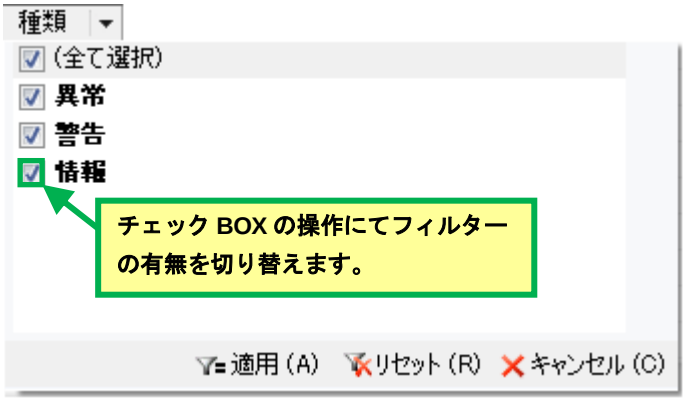
番号	名称	説明
①	名称	機器の表示用名称を指定します。30 文字まで入力可能です。
②	リトライ回数	通信時リトライ回数を 0～50 の範囲内で指定します。
③	タイムアウト［ms］	通信時応答タイムアウト［ms］を 0～10000 の範囲内で指定します。
④	コマンド インターバル［ms］	通信時送信コマンドインターバル［ms］を 0～10000 の範囲内で指定します。
⑤	機器間 ディレイ［ms］	集録時機器間のディレイ［ms］を 0～10000 の範囲内で指定します。
⑥	更新周期［ms］	通信の周期［ms］を 0～3600 の範囲内で指定します。
⑦	シリアル通信設定部	シリアル通信に使用される機器アドレスを 1～99 の範囲内で指定、ポートを５－２－１．ポート登録画面 で登録したポートの中から選択し指定します。
⑧	OK	機器設定編集画面上の設定情報を保持し、機器登録画面へ設定内容を反映します。
⑨	キャンセル	機器設定編集画面上の設定情報を無視し、機器登録画面への設定内容の反映をキャンセルします。

５－２－３．サマリ表示画面

アプリケーション内の断片的な処理情報を集計し一覧として表示する機能を提供します。

＜サマリ表示画面 各部名称＞

下図 ①エクスポート、②サマリ検索、③設定、④削除、⑤印刷、⑥サマリー覧表示部 の機能を用いてサマリ情報の閲覧を行います。

番号	名称	説明	参照
①	エクスポート	現在表示中のサマリー覧情報をファイル出力します。 ※CSV／テキスト／Excel のいずれかのファイル形式を選択します。	-
②	サマリ検索	サマリ検索画面を表示します。検索条件の入力で指定のサマリ情報を検索します。	５－２－３－１
③	設定	サマリ表示画面における各種設定を行います。	５－２－３－２
④	削除	表示中のサマリ情報から、選択したものを削除します。 ※複数削除が可能です。	-
⑤	印刷	現在表示中のサマリー覧情報を印刷出力します。	-
⑥	サマリー覧 表示部	アプリケーション内の断片的な処理情報を集計し表示します。 さらに各列ヘッダーにソート・フィルター機能を有します。下記フィルターウィンドウを使用して表示したいイベント種類を指定します。  ※チェック有り：表示／チェックなし：非表示 となります。 ※右クリックサブメニュー：ソート解除 押下によりソート状態を解除します。	-

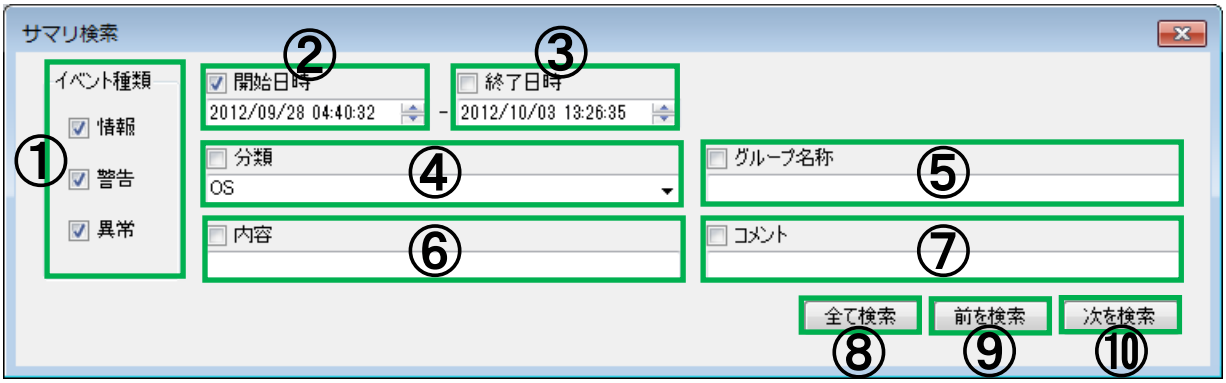
５－２－３－１．サマリ検索画面

サマリ表示画面 複合的な検索条件を指定してのサマリー覧上からの検索機能を提供します。

＜1. サマリ検索画面 各部名称＞

下図 ①イベント種類 選択、②開始日時、③終了日時、④分類、⑤グループ名称、⑥内容、⑦コメント、⑧全て検索、⑨前を検索、⑩次を検索 を用いてサマリー覧の検索処理を行います。

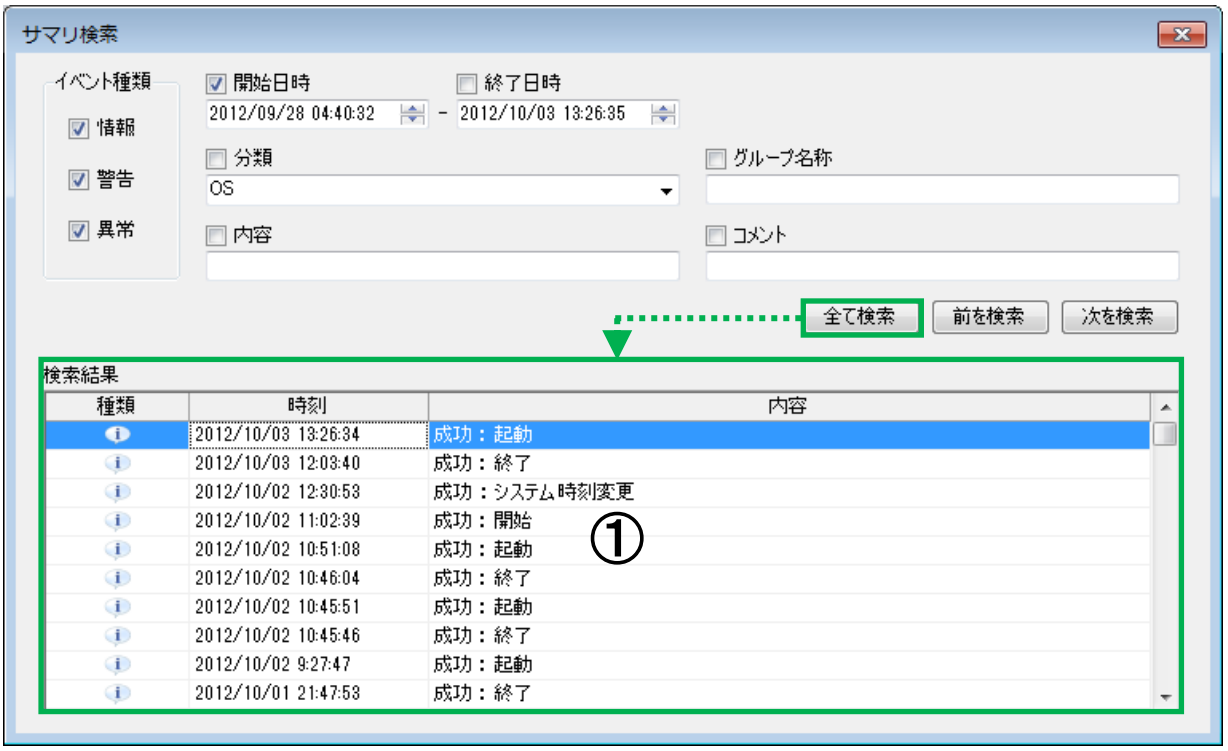
※イベント種類以外の複数条件指定は、全て AND 条件での検索となります。



番号	名称	説明	参照
①	イベント種類選択	イベント種類を指定します。デフォルト値は 情報／警告／異常 の３種類が全て指定されており限定したイベント情報のみを検索したい場合にチェックを外して無効にして下さい。	-
②	開始日時	開始日時を指定します。チェックを入れることにより有効になります。	-
③	終了日時	終了日時を指定します。チェックを入れることにより有効になります。	-
④	分類	サマリイベント分類を選択肢から指定、または直接入力します。チェックを入れることにより有効になります。	-
⑤	グループ名称	グループ名称を直接入力で指定します。チェックを入れることにより有効になります。	-
⑥	内容	内容を直接入力で指定します。チェックを入れることにより有効になります。	-
⑦	コメント	コメントを直接入力で指定します。チェックを入れることにより有効になります。	-
⑧	全て検索	サマリー覧から条件に一致する全ての情報を検索し、検索結果一覧に表示します。	＜2.＞
⑨	前を検索	サマリー覧から条件に一致する情報を上向きに検索します。	-
⑩	次を検索	サマリー覧から条件に一致する情報を下向きに検索します。	-

＜2. サマリ検索画面（検索結果一覧表示部） 各部名称＞

下図 ①検索結果 一覧表示部 を用いてサマリ一覧の検索処理を行います。



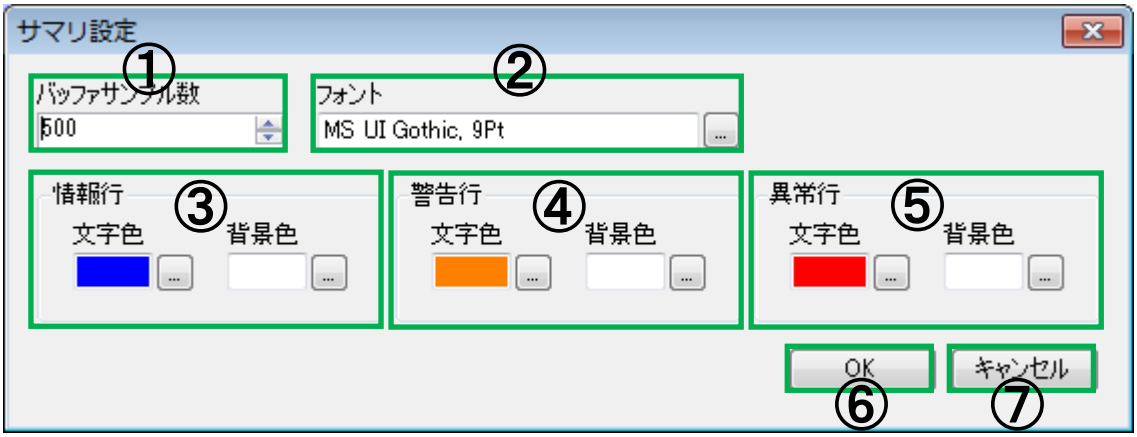
番号	名称	説明
①	検索結果 一覧表示部	検索条件に一致した検索結果の一覧が全て表示されます。更に、一覧上のサマリ情報をダブルクリックすることでサマリ表示画面上の対象サマリ情報を強調表示します。 ※全て検索 押下前は非表示となっています。

５－２－３－２．サマリ設定画面

サマリ表示画面 サマリー覧表示部の各種設定機能を提供します。

＜サマリ設定画面 各部名称＞

下図 ①バッファサンプル数、②フォント、③情報行設定、④警告行設定、⑤異常行設定、⑥OK、⑦キャンセル を用いてサマリー覧表示部の設定処理を行います。



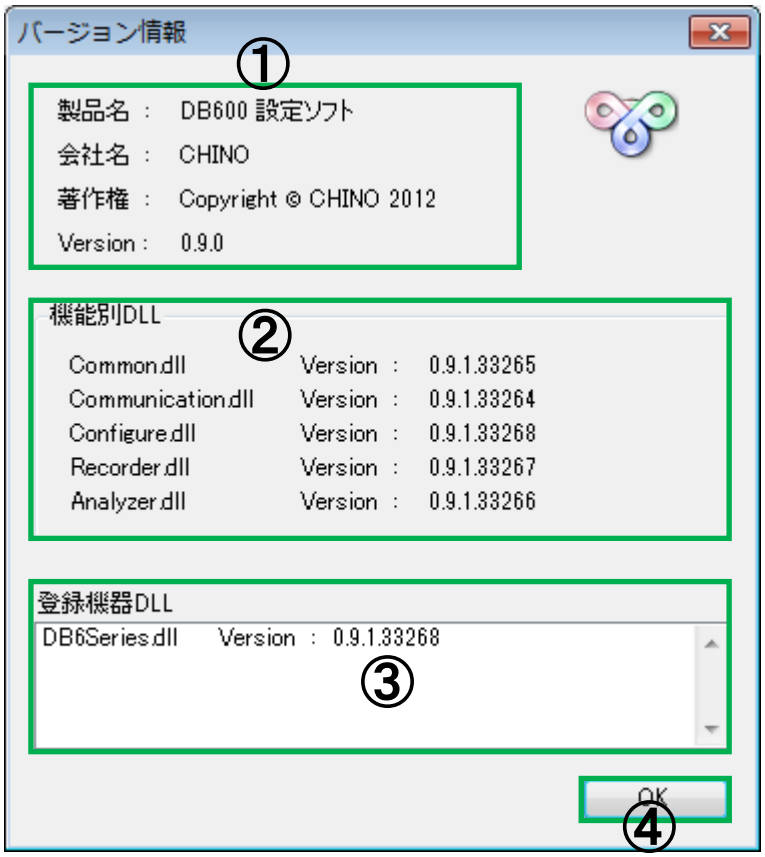
番号	名称	説明
①	バッファサンプル数	本アプリケーションが保持するサマリ情報数を 50～5000 の範囲内で指定します。 指定数内のサマリ情報はアプリケーションが終了しても保持され、次回起動時には閲覧可能です。
②	フォント	サマリ表示画面のフォント情報を指定します。
③	情報行 設定	情報イベント サマリの文字色・背景色 を指定します。
④	警告行 設定	警告イベント サマリの文字色・背景色 を指定します。
⑤	異常行 設定	異常イベント サマリの文字色・背景色 を指定します。
⑥	OK	サマリ設定画面上の設定情報を保持し、サマリ表示画面へ設定内容を反映します。
⑦	キャンセル	サマリ設定画面上の設定情報を無視し、サマリ表示画面への設定内容の反映をキャンセルします。

５－２－４．バージョン情報画面

本アプリケーションならびに、本アプリケーションが保持している機器 DLL のバージョン情報一覧を表示する機能を提供します。

＜バージョン情報画面 各部名称＞

下図 ①アプリケーション基本情報部、②機能別 DLL 情報部、③登録機器 DLL 情報部、④OK の機能を用いてバージョン情報表示を行います。



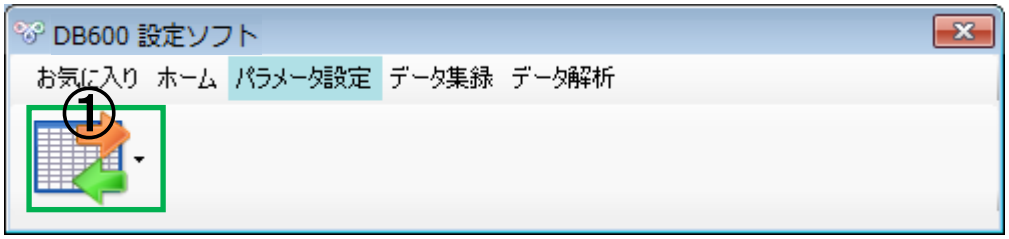
番号	名称	説明
①	アプリケーション 基本情報部	本アプリケーションのメイン EXE バージョン情報を表示します。
②	機能別 DLL 情報部	本アプリケーションにて使用される各機能を有する DLL のバージョン情報を表示します。
③	登録機器 DLL 情報部	本アプリケーションで扱う接続機器情報を有する DLL のバージョン情報を表示します。 ※登録 DLL の拡張によって情報が変動します。
④	OK	バージョン情報画面を閉じます。

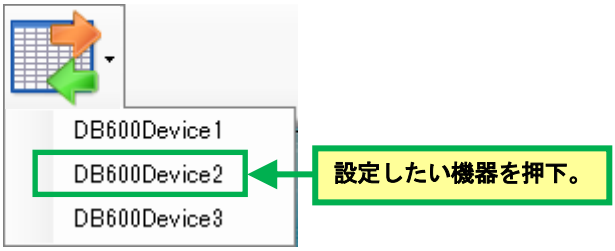
５－３．パラメータ設定の操作

パラメータ設定では、５－２－２．機器登録画面 にて登録された機器に対して、パラメータの設定を行う機能を提供します。

＜ランチャー画面 パラメータ設定 各部名称＞

下図 ①登録機器設定 の機能を用いて登録済みの機器に対しパラメータ毎の設定を行います。



番号	名称	説明	参照
①	登録機器設定	・ドロップダウンボタン押下により登録機器の一覧が表示されます。 ・登録機器の一覧から設定したい機器を選択し対象の機器を押下します。  ・パラメータ設定画面を表示します。 ※設定項目の内容は指定した機器により異なります。	５－３－１

５－３－１．パラメータ設定画面

登録済みの機器へ対するパラメータ設定機能を提供します。
画面起動時、対象の登録機器へ対しての設定値読込み 機能を起動します。読込みが成功すると画面上に現在の設定値が反映されます。

＜パラメータ設定画面 各部名称＞

下図 ①登録機器情報、②新規、③ファイルを開く、④名前をつけて保存、⑤コピー、⑥切り取り、⑦貼り付け、⑧設定値の書込み、⑨設定値の読込み、⑩印刷、⑪設定値カテゴリー一覧、⑫設定値入力部らの機能を用いて登録機器に対してパラメータの設定を行います。

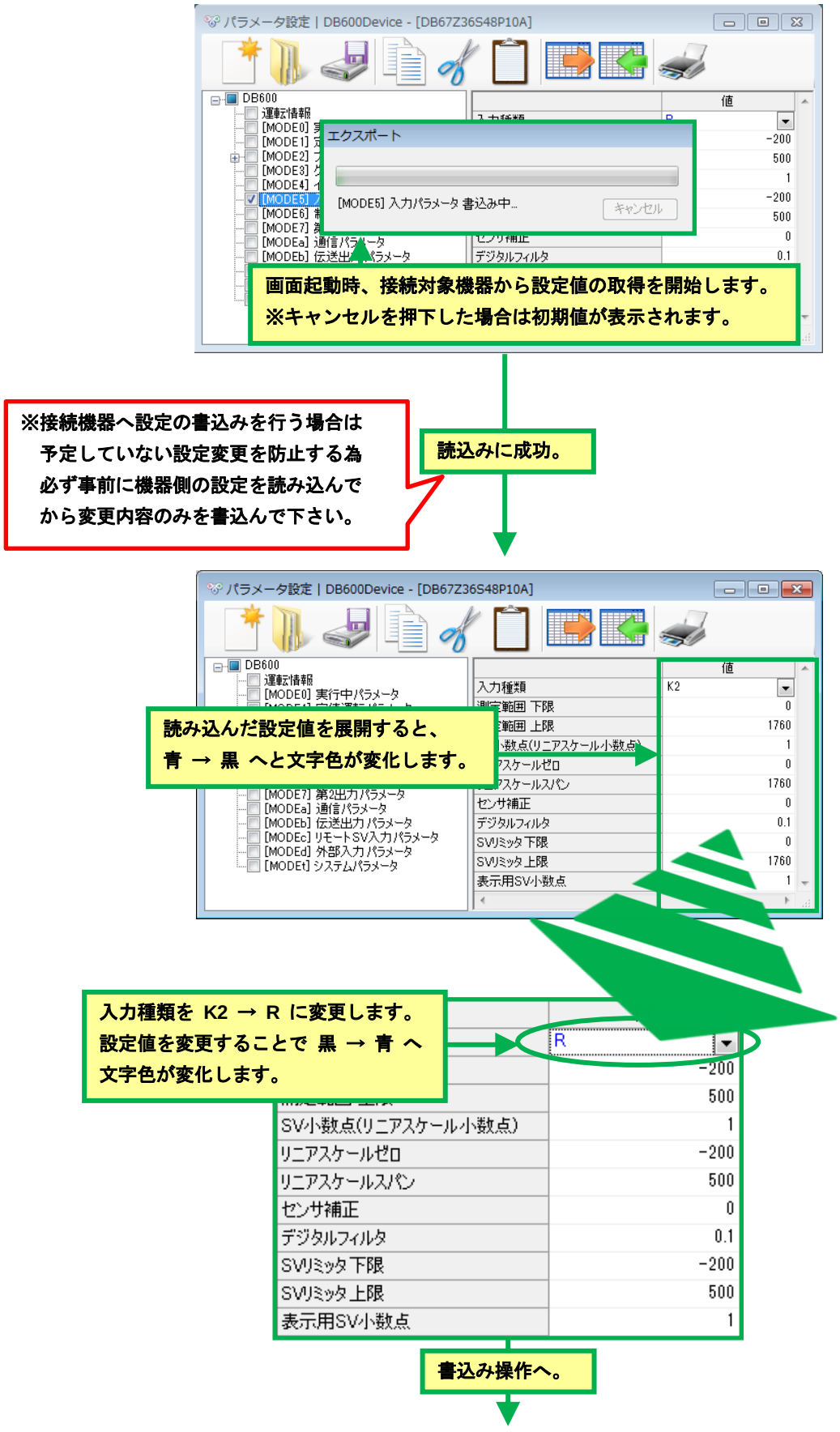
番号	名称	説明	参照
①	登録機器情報	登録機器の表示名称・形式コードを表示します。	-
②	新規	新規の設定ファイルを画面上に展開します。 ※画面上の設定内容が初期化されてしまう為、必要な場合は④名前をつけて保存 を行って下さい。	-
③	ファイルを開く	機器パラメータ設定ファイル（*.passconf ）を指定し画面上に展開します。 ※形式コードの異なる設定ファイルは読み込めません。	-
④	名前をつけて保存	現在の設定内容を機器パラメータ設定ファイル（*.passconf ）形式でファイル名を指定し保存します。	-
⑤	コピー	⑫設定値入力部上の選択した範囲のセル情報をコピーします。 ※Ctrl + C キーでショートカット可能です。	-
⑥	切り取り	⑫設定値入力部上の選択した範囲のセル情報を切り取ります。 切り取り後のセルは初期値（②新規 の設定ファイルを展開した場合と同じ値）となります。 ※Ctrl + X キーでショートカット可能です。	-
⑦	貼り付け	⑤コピーまたは⑥切り取りにて保持したセル情報を選択したセル以降に貼り付けます。 ※セルのデータ型が異なる場合は貼り付けることはできません。 ※Ctrl + V キーでショートカット可能です。	-

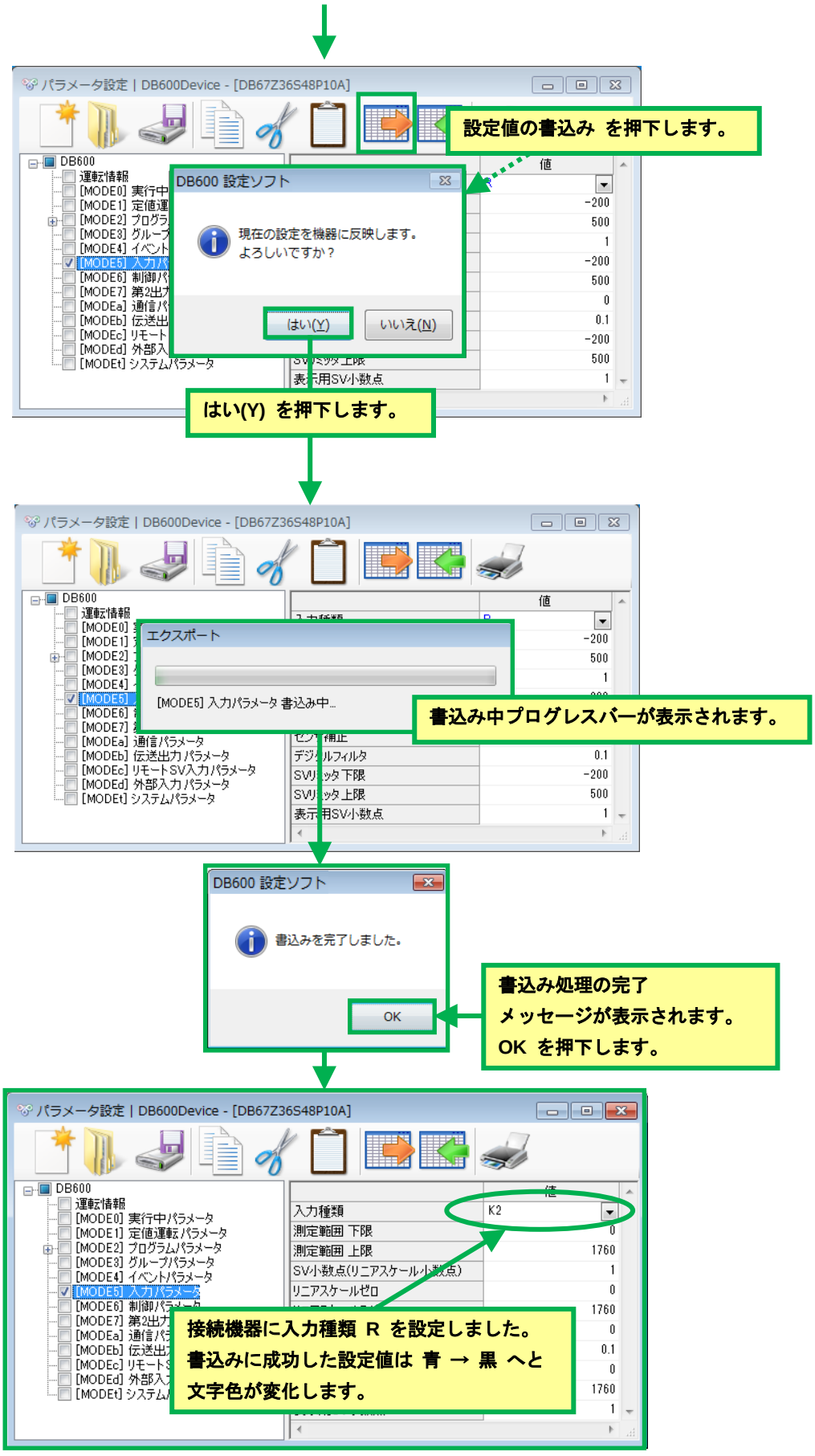
⑧	設定値の 書込み	⑪設定値カテゴリー一覧 にてチェックされている項目の設定値を機器に書込みます。	５－３－１－１
⑨	設定値の 読込み	⑪設定値カテゴリー一覧 にてチェックされている項目の設定値を機器から読み込みます。	５－３－１－１
⑩	印刷	⑪設定値カテゴリー一覧 にてチェックされている項目の設定値を印刷します。	-
⑪	設定値カテゴリー一覧	対象の登録済み機器の設定値カテゴリー一覧をツリー表示します。 カテゴリー毎にチェックボックスを有しており、チェック有りの場合は処理対象に含めチェックなしの場合は処理対象から除外されます。 また、対象の項目を選択することで⑫設定値入力部 にカテゴリー毎の設定値群を展開します。	５－３－１－２
⑫	設定値入力部	⑪設定値カテゴリー一覧 上で選択されている項目が持つ設定値群が展開・表示されます。ここで入力・変更された値を⑧設定値の書込みを行うことでパラメータの設定を行います。 ※設定可能な値は機器の形式コードまたは関連する周辺設定値により変動する場合があります。	-

５－３－１－１．パラメータ設定の流れ

機器と通信を行い、パラメータ設定の読込み／書込みを行うまでの操作をパラメータ設定画面起動時の状態から流れ図で説明します。

＜パラメータ設定画面 操作イメージ＞



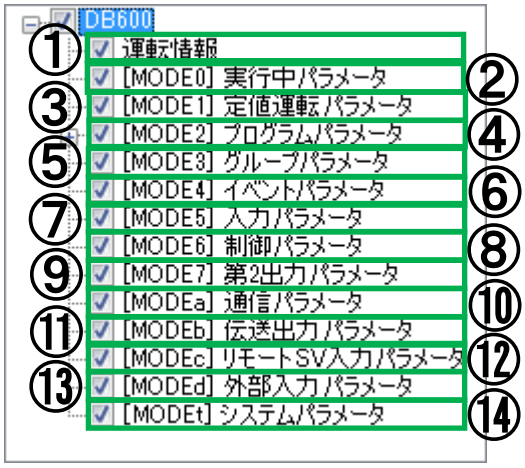

パラメータ設定 | DB600Device - [DB67Z36S48P10A]
設定値の書込み を押下します。
DB600 設定ソフト
現在の設定を機器に反映します。
よろしいですか？
はい(Y)
いいえ(N)
はい(Y) を押下します。
エクスポート
[MODE5] 入力パラメータ 書込み中...
書込み中プログレスバーが表示されます。
書込みを完了しました。
OK
書込み処理の完了
メッセージが表示されます。
OK を押下します。
入力種類
K2
接続機器に入力種類 R を設定しました。
書込みに成功した設定値は 青 → 黒 へと
文字色が変化します。

５－３－１－２．設定値カテゴリー一覧（DB600）

通信対象機器の設定値カテゴリーの一覧を表示し、選択時には指定カテゴリーが持つ設定パラメータをパラメータ設定画面 設定値入力部 に展開する機能を提供します。
その他カテゴリー毎にチェック BOX を有し、処理対象に含めるかどうかの切り替えも可能です。

＜設定値カテゴリー一覧 各部名称＞

下図 ①運転情報、②[MODE0] 実行中パラメータ、③[MODE1] 定値運転パラメータ、④[MODE2] プログラムパラメータ、⑤[MODE3] グループパラメータ、⑥[MODE4] イベントパラメータ、⑦[MODE5] 入力パラメータ、⑧[MODE6] 制御パラメータ、⑨[MODE7] 第 2 出力パラメータ、⑩[MODEa] 通信パラメータ、⑪[MODEb] 伝送出力パラメータ、⑫[MODEc] リモート SV 入力パラメータ、⑬[MODEd] 外部入力パラメータ、⑭[MODEt] システムパラメータのカテゴリーに対して設定を行います。



番号	名称	説明	参照
①	運転情報	運転情報 カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(a)
②	[MODE0] 実行中パラメータ	実行中パラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(b)
③	[MODE1] 定値運転パラメータ	定値運転パラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(c)
④	[MODE2] プログラムパラメータ	プログラムラパラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(d)
⑤	[MODE3] グループパラメータ	グループパラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(e)
⑥	[MODE4] イベントパラメータ	イベントパラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(f)
⑦	[MODE5] 入力パラメータ	入力パラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(g)
⑧	[MODE6] 制御パラメータ	制御パラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(h)
⑨	[MODE7] 第 2 出力パラメータ	第 2 出力パラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(i)
⑩	[MODEa] 通信パラメータ	通信パラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(j)
⑪	[MODEb] 伝送出力パラメータ	伝送出力パラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(k)

⑫	[MODEc] リモート SV 入力 パラメータ	リモート SV 入力パラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(l)
⑬	[MODEd] 外部入力パラメータ	外部入力パラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(m)
⑭	[MODEt] システムパラメータ	システムパラメータ カテゴリーを表示します。 指定された際、設定値入力部に設定パラメータを展開します。	本項 ・(n)

(a) 運転情報

運転情報を編集する機能を提供します。

＜運転情報 － 各設定値名称＞

下図 ①手動入力、②手動入力[第 2]、③A/M 切替、④警報リセット、⑤オートチューニング、⑥FB チューニング、⑦Run／Ready 切替、⑧定値運転用実行 No.、⑨プログラム運転用実行パターン No、⑩プログラム駆動 の各種設定値を用いて運転情報を編集します。

番号	名称	説明
①	手動出力	手動出力値を -5～105 の範囲内で指定します。 ※③A／M 切替 に MANUAL（手動出力運転）が指定されている場合のみ書込み可能です。
②	手動出力［第 2］	手動出力値［第 2］を -5～105 の範囲内で指定します。 ※③A／M 切替 に MANUAL（手動出力運転）が指定されている場合のみ書込み可能です。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
③	A／M 切替	Auto／Manual 切替を AUTO（自動出力運転）／MANUAL（手動出力運転）のいずれかから選択し指定します。 ※第 1 出力・第 2 出力共に切り替わります。
④	警報リセット	警報リセット設定を NON／RESET（警報解除）のいずれかから選択し指定します。 ※RESET（警報解除）の書込み後、即 NON に切り替わります。
⑤	オート チューニング	オートチューニングを END（オートチューニング終了）／START（オートチューニング開始）のいずれかから選択し指定します。 ※接続機器のオートチューニングが END（オートチューニング終了）以外の時は START（オートチューニング開始）を書込みできません。 ※オートチューニング中に強制終了させる場合は END（オートチューニング終了）を書込んで下さい。 ※⑩プログラム駆動 に プログラム運転 RESET が指定されている場合は書込みできません（定値運転時を除きます）。
⑥	FB チューニング	FB チューニング設定を END（FB チューニング終了）／START（FB チューニング開始）のいずれかから選択し指定します。 ※⑩プログラム駆動 に プログラム運転 RESET が指定されている場合のみ START（FB チューニング開始）の書込みが可能です。 ※接続機器のオートチューニング、または FB チューニングが実行中の場合は START（オートチューニング開始）を書込みできません。 ※接続機器にオンオフサーボ出力形仕様が付加されている場合のみ書込み可能です。
⑦	Run／Ready 切替	Run／Ready 切替を RUN 状態／READY 状態 のいずれかから選択し指定します。 ※(m) 外部入力パラメータ 外部信号入力割付 No.1～7 に READY（定値運転 RUN／READY 切替）が指定されている場合は書込みできません。

⑧	定値運転用実行No.	定値運転用実行No.を 実行No.1／実行No.2／実行No.3／実行No.4／実行No.5／実行No.6／実行No.7／実行No.8 の中から選択し指定します。 ※(m) 外部入力パラメータ ①外部信号入力割付No.1～7にて SEL1（実行No.選択1_bit0）／SEL2（実行No.選択2_bit1）／SEL4（実行No.選択3_bit2）／SEL8（実行No.選択8_bit3）が指定されている場合は書込みできません。
⑨	プログラム運転用実行パターンNo	プログラム運転用実行パターンNoを パターン1／パターン2／パターン3／パターン4 の中から選択し指定します。 ※⑩プログラム駆動の指定値に プログラム運転 RESET 以外が指定されている場合は書込みできません。 ※(d) プログラムパラメータ － 全般 プログラム／定値運転切替 の指定値に定値運転が指定されている場合は書込みできません。
⑩	プログラム駆動	プログラム駆動設定を RESET（プログラム運転RESET）／RUN（プログラム運転RUN）／STOP（プログラム運転STOP）／ADV（プログラム運転ADVANCE）の中から選択し指定します。 ※(d) プログラムパラメータ － 全般 プログラム／定値運転切替 の指定値に定値運転が指定されている場合は書込みできません。 ※接続機器が RESET（プログラム運転RESET）中の場合は STOP（プログラム運転STOP）／ADV（プログラム運転ADVANCE）の書込みができません。 ※接続機器が END（プログラム運転END）中の場合は RUN（プログラム運転RUN）／STOP（プログラム運転STOP）／ADV（プログラム運転ADVANCE）の書込みができません。

(b) [MODE0] 実行中パラメータ

実行中パラメータ設定値を編集する機能を提供します。

＜実行中パラメータ ― 各設定値名称＞

下図 ①SV、②ステップ時間「時」or「分」、③ステップ時間「分」or「秒」、④イベント 1、⑤イベント 2、⑥イベント 3、⑦イベント 4、⑧P、⑨I、⑩D、⑪出力リミッタ 下限、⑫出力リミッタ 上限、⑬実温度補償 の各種設定値を用いて実行中パラメータを編集します。

番号	名称	説明
①	SV	SV 値を (g) 入力パラメータ SV リミッタ上下限 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は (g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動します。
②	ステップ時間 「時間」or「分」	ステップ時間「時間」or「分」を 0～999 の範囲内で指定します。 ※「時間」or「分」の単位は (d) プログラムパラメータ ― 全般 時間単位 と連動します。 ※(d) プログラムパラメータ ― 全般 プログラム／定値運転切替 の指定値が定値運転切替の場合は書込みできません。
③	ステップ時間 「分」or「秒」	ステップ時間「分」or「秒」を 0～59 の範囲内で指定します。 ※「分」or「秒」の単位は (d) プログラムパラメータ ― 全般 時間単位 と連動します。 ※(d) プログラムパラメータ ― 全般 プログラム／定値運転切替 の指定値が定値運転切替の場合は書込みできません。

④	イベント 1	イベント値 1～4 を -19999～30000 の範囲内で指定します。 ※少数点位置は (f) イベントパラメータ イベントモード毎に下記のように指定されます。 【 PV.H（絶対値上限警報）／PV.L（絶対値下限警報）／ DV.H（偏差上限警報）／DV.L（偏差下限警報）／ ADV.H（絶対値偏差上限警報）／ADV.L（絶対値偏差下限警報）／ SV.H（設定値上限警報）／SV.L（設定値下限警報） 】 ・SV 小数点 と連動します。 【 MV.H（出力値上限警報）／MV.L（出力値下限警報）／ CT.H（ヒーター上限警報）／CT.L（ヒーター下限警報） 】 ・1 桁を指定します。 【TIME1（タイマー1 警報）／TIME2（タイマー2 警報）】 ・小数点なし とします。 ※(f) イベントパラメータ イベントモードが FAIL（FAIL 警報）または状態イベントの場合、書込みできません。
⑤	イベント 2	
⑥	イベント 3	
⑦	イベント 4	
⑧	P	PID「P」を 0～999.9 の範囲内で指定します。 ※0 = 二位置制御 を表します。
⑨	I	PID「I」を 0～9999 の範囲内で指定します。 ※0 = ∞ を表します。
⑩	D	PID「D」を 0～9999 の範囲内で指定します。 ※0 = 演算 OFF を表します。
⑪	出力リミッタ下限	出力リミッタ 下限値を -5～100 の範囲内で指定します。 ※指定した値が ⑫出力リミッタ上限 と正規関係にない場合は書込みできません。
⑫	出力リミッタ上限	出力リミッタ 上限値を 0～105 の範囲内で指定します。 ※指定した値が ⑪出力リミッタ下限 と正規関係にない場合は書込みできません。
⑬	実温度補償	実温度補償値を 0～30000 の範囲内で指定します。 ※0 = 機能 OFF を表します。 ※小数点位置は (g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動します。 ※(d) プログラムパラメータ ー 全般 プログラム／定値運転切替 の指定値が定値運転の場合は書込みできません。

(c) [MODE1] 定値運転パラメータ

定値運転パラメータ設定値を編集する機能を提供します。

＜定値運転パラメータ ー 各設定値名称＞

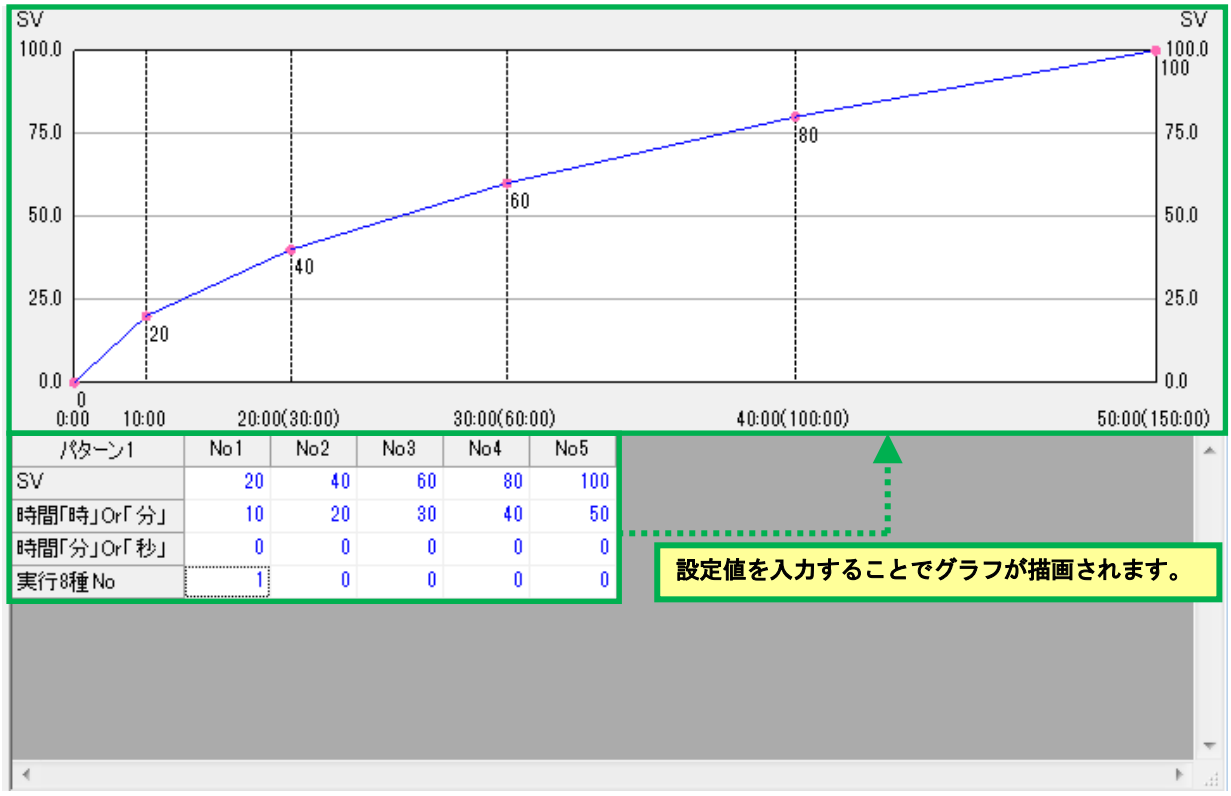
下図 ①SV 変化率下降、②SV 変化率上昇、③SV 変化率時間単位、④PV スタート、⑤Ready 時警報出力 の各種設定値を用いて定値運転パラメータを編集します。

番号	名称	説明
①	SV 変化率下降	SV 変化率 下降値を -1999.9～0 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は (g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動します。
②	SV 変化率上昇	SV 変化率 上昇値を 0～2000 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は (g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動します。
③	SV 変化率時間単位	SV 変化率時間単位を S（秒）／M（分）／H（時）のいずれかから選択し指定します。
④	PV スタート	PV スタート設定を SV スタート／PV スタート のいずれかから選択し指定します。
⑤	Ready 時警報出力	Ready 時警報出力設定を OFF（警報イベント演算なし）／ON（警報イベント演算あり）のいずれかから選択し指定します。

(d) [MODE2] プログラムパラメータ

プログラムパラメータを編集する機能を提供します。

＜プログラムパラメータ 設定イメージ＞



＜プログラムパラメータ ― 全般 各設定値名称＞

下図 ①プログラム／定値運転切替、②時間単位、③パターンリピート、④運転画面の時間表示、⑤パターンクリア、⑥パターンコピー元、⑦パターンコピー先 の各種設定値を用いてプログラムパラメーター全般を編集します。

番号	名称	説明
①	プログラム／ 定値運転切替	プログラム／定値運転切替を プログラム運転／定値運転 いずれかから選択し指定します。 ※接続機器にプログラム仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
②	時間単位	時間単位設定を H:M（時:分）／M:S（分:秒）のいずれかから選択し指定します。 ※(a) 運転情報 プログラム駆動の指定値に プログラム運転 RESET 以外が指定されている場合は書込みできません。
③	パターンリピート	パターンリピート設定値を 0～9999 の範囲内で指定します。
④	運転画面の時間表示	運転画面の時間表示を ステップ経過時間／ステップ残時間 のいずれかから選択し指定します。 ※接続機器にプログラム機能付き仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。

⑤	パターンクリア	パターンクリア設定を パターン 1／パターン 2／パターン 3／パターン 4／全パターンの中から選択し指定します。 ※(a) 運転情報 プログラム駆動の指定値に プログラム運転 RESET 以外が指定されている場合は書込みできません。 ※本パラメータの書込みを行う場合はパターン 1～4 の設定書込みは行わないよう注意して下さい。
⑥	パターンコピー元	パターンコピー元を パターン 1／パターン 2／パターン 3／パターン 4 の中から選択し指定します。 ※コピー元パターンが未設定（ステップ数が 0）の場合は書込みできません。 ※コピー先パターンが消去されていない（ステップ数が 0 以外）の場合は書込みできません。 ※コピー元パターンとコピー先パターンが同一の場合は書込みできません。 ※⑤パターンクリア にてコピー先パターンの消去を行ってから パターンコピーを実行して下さい。 ※本パラメータの書込みを行う場合はパターン 1～4 の設定書込みは行わないよう注意して下さい。 ※(a) 運転情報 プログラム駆動の指定値に プログラム運転 RESET 以外が指定されている場合は書込みできません。 ※パターンコピー実行後はプログラムパラメータ 全般の再読み込みを行って下さい。
⑦	パターンコピー先	パターンコピー先を パターン 1／パターン 2／パターン 3／パターン 4 の中から選択し指定します。 ※コピー元パターンが未設定（ステップ数が 0）の場合は書込みできません。 ※コピー先パターンが消去されていない（ステップ数が 0 以外）の場合は書込みできません。 ※コピー元パターンとコピー先パターンが同一の場合は書込みできません。 ※⑤パターンクリア にてコピー先パターンの消去を行ってから パターンコピーを実行して下さい。 ※本パラメータの書込みを行う場合はパターン 1～4 の設定書込みは行わないよう注意して下さい。 ※(a) 運転情報 プログラム駆動の指定値に プログラム運転 RESET 以外が指定されている場合は書込みできません。 ※パターンコピー実行後はプログラムパラメータ 全般の再読み込みを行って下さい。

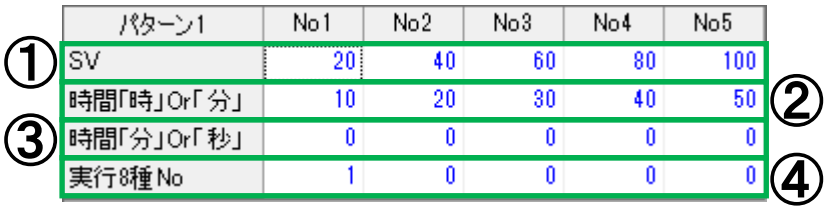
＜プログラムパラメーターパターン 1～4 設定 － 全般 各設定値名称＞

下図 ①ステップ数、②PV スタート、③スタート SV、④End 時の出力 1、⑤End 時の出力 2、⑥リンク先パターン の各種設定値を用いてプログラムパターン設定－全般を編集します。

番号	名称	説明
①	ステップ数	ステップ数を 0～12 の範囲内で指定します。 ※ステップ数を 1 以上に指定することで ステップ設定 を行うことができます。
②	PV スタート	PV スタート設定を SV スタート／PV スタートのいずれかから選択し指定します。
③	スタート SV	スタート SV 設定値を (g) 入力パラメータ SV リミッタ上下限 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は (g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動します。
④	End 時の出力 1	End 時の出力 1 設定を CONTROL または -5～105 の範囲内で指定します。
⑤	End 時の出力 2	End 時の出力 2 設定を CONTROL または -5～105 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑥	リンク先パターン	リンク先パターン設定を パターンリンクなし／パターン 1 へリンク／パターン 2 へリンク／パターン 3 へリンク／パターン 4 へリンク の中から選択し指定します。

＜プログラムパラメーターパターン 1～4 設定 － ステップ設定 各設定値名称＞

下図 ①SV、②時間「時」Or「分」、③時間「分」Or「秒」、④実行 8 種 No の各種設定値を用いてプログラムパターン設定－No.毎のステップ設定を編集します。



番号	名称	説明
①	SV	対象 No.の SV 設定値を (g) 入力パラメータ SV リミッタ上下限 の範囲内で指定します。
②	時間「時」Or「分」	対象 No.の時間「時」Or「分」を 0～999 の範囲内で指定します。
③	時間「分」Or「秒」	対象 No.の時間「分」Or「秒」を 0～59 の範囲内で指定します。
④	実行 8 種 No	実行 8 種 No を 0～8 の範囲内で指定します。 ※ 0 を指定した場合は前ステップ No.の継続となります。

(e) [MODE3] グループパラメータ

グループパラメータを編集する機能を提供します。

<グループパラメータ ー 各設定値名称>

下図 ①SV 値、②イベント 1、③イベント 2、④イベント 3、⑤イベント 4、⑥P、⑦I、⑧D、⑨出力リミッタ下限、⑩出力リミッタ上限、⑪実温度補償、の各種設定値を用いて 8 種パラメータを編集します。

	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8
① SV値	0	0	0	0	0	0	0	0
② イベント1	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000
③ イベント2	-1999.9	-1999.9	-1999.9	-1999.9	-1999.9	-1999.9	-1999.9	-1999.9
④ イベント3	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000
⑤ イベント4	-1999.9	-1999.9	-1999.9	-1999.9	-1999.9	-1999.9	-1999.9	-1999.9
⑥ P	5	5	5	5	5	5	5	5
⑦ I	60	60	60	60	60	60	60	60
⑧ D	30	30	30	30	30	30	30	30
⑨ 出力リミッタ 下限	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩ 出力リミッタ 上限	100	100	100	100	100	100	100	100
⑪ 実温度補償	0	0	0	0	0	0	0	0

番号	名称	説明
①	SV 値	対象 No.の SV 値を(g) 入力パラメータ SV リミッタ上下限 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は (g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動します。
②	イベント 1	対象 No.のイベント値 1～4 を -19999～30000 の範囲内で指定します。 ※少数点位置は (f) イベントパラメータ イベントモード毎に下記のように指定されます。 【 PV.H（絶対値上限警報）／PV.L（絶対値下限警報）／ DV.H（偏差上限警報）／DV.L（偏差下限警報）／ ADV.H（絶対値偏差上限警報）／ADV.L（絶対値偏差下限警報）／ SV.H（設定値上限警報）／SV.L（設定値下限警報） 】 ・SV 小数点 と連動します。 【 MV.H（出力値上限警報）／MV.L（出力値下限警報）／ CT.H（ヒーター上限警報）／CT.L（ヒーター下限警報） 】 ・1 桁を指定します。 【TIME1（タイマー1 警報）／TIME2（タイマー2 警報）】 ・小数点なし とします。 ※(f) イベントパラメータ イベントモードが FAIL（FAIL 警報）または状態イベントの場合、書込みできません。
③	イベント 2	
④	イベント 3	
⑤	イベント 4	
⑥	P	対象 No.の PID「P」を 0～999.9 の範囲内で指定します。 ※0 = 二位置制御 を表します。
⑦	I	対象 No.の PID「I」を 0～9999 の範囲内で指定します。 ※0 = ∞ を表します。
⑧	D	対象 No.の PID「D」を 0～9999 の範囲内で指定します。 ※0 = 演算 OFF を表します。
⑨	出力リミッタ 下限	対象 No.の出力リミッタ 下限値を -5～100 の範囲内で指定します。 ※指定した値が ⑩出力リミッタ上限 と正規関係にない場合は書込みできません。
⑩	出力リミッタ 上限	対象 No.の出力リミッタ 上限値を 0～105 の範囲内で指定します。 ※指定した値が ⑨出力リミッタ下限 と正規関係にない場合は書込みできません。

⑪	実温度補償	対象 No.の実温度補償値を 0〜30000 の範囲内で指定します。 ※0 = 機能 OFF を表します。 ※小数点位置は (g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動します。 ※(d) プログラムパラメータ ー 全般 プログラム／定値運転切替 の指定値が定値運転の場合は書込みできません。

(f) [MODE4] イベントパラメータ

イベントパラメータを編集する機能を提供します。

<イベントパラメータ ー 各設定値名称>

下図 ①イベント No.、②拡張機能、③イベントモード、④イベント出力位相、⑤イベント不感帯 の各種設定値を用いてイベントパラメータを編集します。

番号	名称	説明
①	イベント No.	EV.1～EV.9 の設定ヘッダーを表します。変更はできません。
②	拡張機能	イベント拡張機能を なし／待機付き／保持付き／待機＋保持付き の中から選択し指定します。 ※EV.1～EV.4 のみ設定可能です。
③	イベントモード	イベントモードを NON（イベントなし）／ PV.H（絶対値上限警報）／PV.L（絶対値下限警報）／ DV.H（偏差上限警報）／DV.L（偏差下限警報）／ ADV.H（絶対値偏差上限警報）／ADV.L（絶対値偏差下限警報）／ SV.H（設定値上限警報）／SV.L（設定値下限警報）／ MV.H（出力値上限警報）／MV.L（出力値下限警報）／ CT.H（ヒータ上限警報）／CT.L（ヒータ下限警報）／ TIME1（タイマー1 警報）／TIME2（タイマー2 警報）／ FAIL（FAIL 警報）／C.RUN（定値運転 RUN 状態）／ PRST.M（プリセットマニュアル状態）／REM（リモート入力状態）／ SV.UP（SV 上昇状態）／SV.DW（SV 下降状態）／ STEP（プログラム運転のステップ切替）／ STEP1（プログラム運転のステップ 1 状態）／ STEP2（プログラム運転のステップ 2 状態）／ STEP3（プログラム運転のステップ 3 状態）／ STEP4（プログラム運転のステップ 4 状態）／ STEP5（プログラム運転のステップ 5 状態）／ STEP6（プログラム運転のステップ 6 状態）／ STEP7（プログラム運転のステップ 7 状態）／ STEP8（プログラム運転のステップ 8 状態）／ STEP9（プログラム運転のステップ 9 状態）／ STEP10（プログラム運転のステップ 10 状態）／ STEP11（プログラム運転のステップ 11 状態）／ STEP12（プログラム運転のステップ 12 状態）／ P.RUN（プログラム運転 RUN 状態）／ STOP（プログラム運転 STOP 状態）／ ADV（プログラム運転 ADVANCE 状態）／ RESET（プログラム運転 RESET 状態）／ END（プログラム運転 END 状態）／ CONST（プログラム運転 SV 保持状態）の中から選択し指定します。 ※EV.5～EV.9 では警報イベント以外の選択肢が指定可能です。

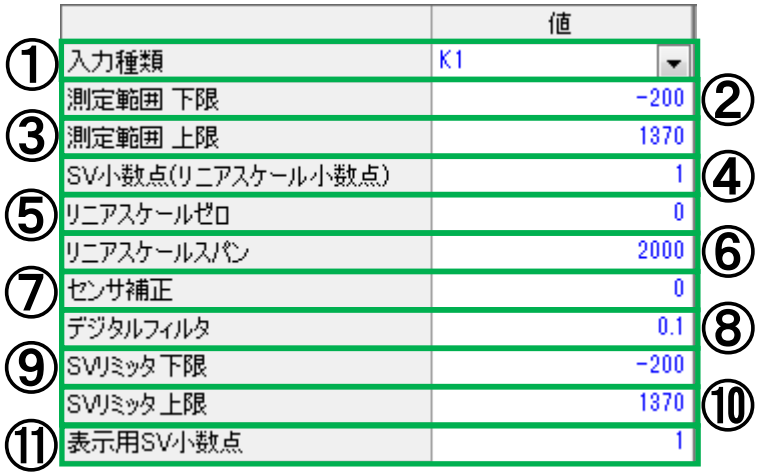
		※CT.H（ヒータ上限警報）／CT.L（ヒータ下限警報）は CT 付き仕様のみ書込み可能です。 ※TIME1（タイマー1 警報）／TIME2（タイマー2 警報）は DI 付き仕様のみ書込み可能です。 ※STEP（プログラム運転のステップ切替）／ STEP1（プログラム運転のステップ 1 状態）／ STEP2（プログラム運転のステップ 2 状態）／ STEP3（プログラム運転のステップ 3 状態）／ STEP4（プログラム運転のステップ 4 状態）／ STEP5（プログラム運転のステップ 5 状態）／ STEP6（プログラム運転のステップ 6 状態）／ STEP7（プログラム運転のステップ 7 状態）／ STEP8（プログラム運転のステップ 8 状態）／ STEP9（プログラム運転のステップ 9 状態）／ STEP10（プログラム運転のステップ 10 状態）／ STEP11（プログラム運転のステップ 11 状態）／ STEP12（プログラム運転のステップ 12 状態）／ P.RUN（プログラム運転 RUN 状態）／ STOP（プログラム運転 STOP 状態）／ ADV（プログラム運転 ADVANCE 状態）／ RESET（プログラム運転 RESET 状態）／ END（プログラム運転 END 状態）／ CONST（プログラム運転 SV 保持状態）はプログラム機能付のみ書込み可能です。
④	イベント出力位相	イベント出力位相設定を 通常位相の出力／逆位相の出力 のいずれかから選択し指定します。 ※EV.1～EV.2 は接続機器にイベント出力なし仕様が付加されている場合は書込みできません（固定で通常位相の出力となります）。 ※EV.3～EV.4 は接続機器に伝送信号出力 なし／4-20mA／0-1V／0-10V 仕様が付加されている場合は書込みできません（固定で通常位相の出力となります）。 ※EV.5～EV.9 は接続機器に通信インターフェース RS-422A+イベント出力 5 点（オープンコレクタ出力）／イベント出力 5 点（オープンコレクタ出力）仕様以外が付加されている場合は書込みできません（固定で通常位相の出力となります）。
⑤	イベント不感帯	イベント不感帯を 0～200（0～20000） の範囲内で指定します。 ※少数点位置は③イベントモード毎に下記のように指定されます。 【 PV.H（絶対値上限警報）／PV.L（絶対値下限警報）／ DV.H（偏差上限警報）／DV.L（偏差下限警報）／ ADV.H（絶対値偏差上限警報）／ADV.L（絶対値偏差下限警報）／ SV.H（設定値上限警報）／SV.L（設定値下限警報） 】 ・SV 小数点（MAX3 桁）＋1 桁 とします。 【 MV.H（出力値上限警報）／MV.L（出力値下限警報）／ CT.H（ヒータ上限警報）／CT.L（ヒータ下限警報） 】 ・1 桁を指定します。 ※③イベントパラメータ イベントモードが TIME1（タイマー1 警報）／TIME2（タイマー2 警報）／FAIL（FAIL 警報）または状態イベントの場合、書込みできません。

(g) [MODE5] 入力パラメータ

入力パラメータを編集する機能を提供します。

＜入力パラメータ － 各設定値名称＞

下図 ①入力種類、②測定範囲 下限、③測定範囲 上限、④SV 小数点(リニアスケール小数点)、⑤リニアスケールゼロ、⑥リニアスケールスパン、⑦センサ補正、⑧デジタルフィルタ、⑨SV リミッタ下限、⑩SV リミッタ上限、⑪表示用 SV 小数点 の各種設定値を用いて入力パラメータを編集します。



番号	名称	説明
①	入力種類	機器の入力種類を B／R／S／N／K1／K2／E／J／T／U／L／W-WRe5-26／W-WRe26／PlatinelⅡ／PtRh40-20／Au-Pt／20mV／100mV／5V／10V／Pt100Ω1／Pt100Ω2／JPt100Ω1／JPt100Ω2／Pt50Ω の中から選択し指定します。 ※入力種類を接続機器に書込むことでその他の複数のパラメータが連動して更新される為、入力種類の変更を行う際には単独で書込みを推奨します。
②	測定範囲下限	測定範囲の下限値を①入力種類 の測定レンジ範囲内で指定します。 ※指定した値が ③測定範囲上限 と正規関係にない場合は書込みできません。
③	測定範囲上限	測定範囲の上限値を①入力種類 の測定レンジ範囲内で指定します。 ※指定した値が ②測定範囲下限 と正規関係にない場合は書込みできません。
④	SV 小数点 ※リニアスケール小数点	SV 小数点／リニアスケール小数点を指定します。 ※①入力種類 が熱電対または測温抵抗体 に属する場合、本設定値は固定値となり任意に指定することはできません。 ※SV 小数点を接続機器に書込むことでその他の複数のパラメータ範囲が連動して更新される為、SV 小数点の変更を行う際には単独で書込みを推奨します。
⑤	リニアスケールゼロ	リニアスケール ゼロ位置を -19999～30000 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は ④SV 小数点 と連動します。 ※①入力種類 が 20mV／100mV／5V／10V 以外の場合は書込みできません。
⑥	リニアスケールスパン	リニアスケール スパンを -19999～30000 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は ④SV 小数点 と連動します。 ※①入力種類 が 20mV／100mV／5V／10V 以外の場合は書込みできません。
⑦	センサ補正	センサ補正値を -19999～20000 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は PV 小数点（①入力種類毎の固定値）＋1 桁 となります。
⑧	デジタルフィルタ	デジタルフィルタを 0.0～99.9 の範囲内で指定します。 ※0 = OFF を表します。
⑨	SV リミッタ下限	SV リミッタの下限値を指定します。 ※小数点位置は ④SV 小数点 と連動します。 ※指定した値が ⑩SV リミッタ上限 と正規関係にない場合は書込みできません。
⑩	SV リミッタ上限	SV リミッタの上限値を指定します。 ※小数点位置は ④SV 小数点 と連動します。 ※指定した値が ⑨SV リミッタ下限 と正規関係にない場合は書込みできません。

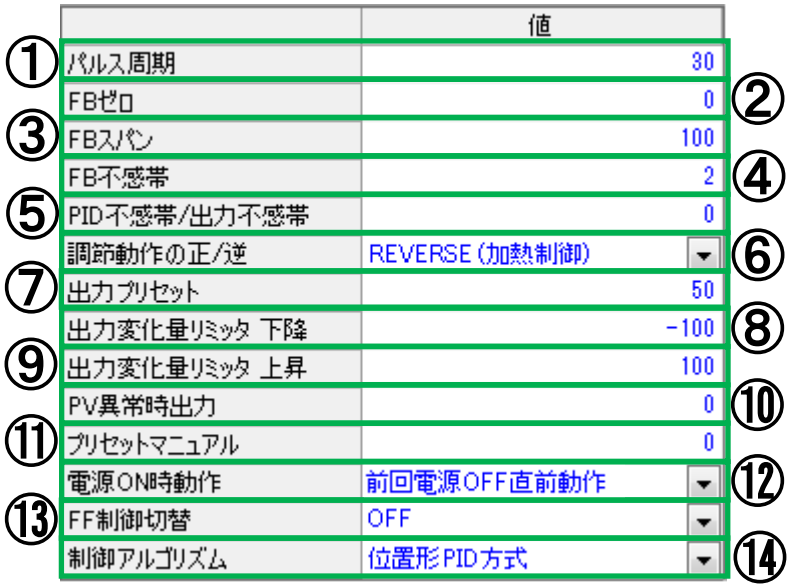
⑪	表示用 SV 小数点	運転画面 表示用 PV／SV 小数点位置を 0～4 の範囲内で指定します。

(h) [MODE6] 制御パラメータ

制御パラメータを編集する機能を提供します。

＜制御パラメータ ― 各設定値名称＞

下図 ①パルス周期、②FB ゼロ、③FB スパン、④FB 不感帯、⑤PID 不感帯/出力不感帯、⑥調節動作の正/逆、⑦出力プリセット、⑧出力変化量リミッタ 下降、⑨出力変化量リミッタ 上昇、⑩PV 異常時出力、⑪プリセットマニュアル、⑫電源 ON 時動作、⑬FF 制御切替、⑭制御アルゴリズム の各種設定値を用いて制御パラメータを編集します。



番号	名称	説明
①	パルス周期	パルス周期を 1～180 の範囲内で指定します。 ※接続機器の第 1 出力が オンオフパルス／SSR 駆動パルス出力形 の場合のみ書込みが可能です。
②	FB ゼロ	FB ゼロ位置を -5.0～104.9 の範囲内で指定します。 ※指定した値が ③FB スパン と正規関係にない場合は書込みできません。 ※接続機器にオンオフサーボ出力形仕様が付加されている場合のみ書込み可能です。
③	FB スパン	FB スパンを -4.9～105 の範囲内で指定します。 ※指定した値が ②FB ゼロ と正規関係にない場合は書込みできません。 ※接続機器にオンオフサーボ出力形仕様が付加されている場合のみ書込み可能です。
④	FB 不感帯	FB 不感帯を 1.0～20.0 の範囲内で指定します。 ※接続機器にオンオフサーボ出力形仕様が付加されている場合のみ書込み可能です。
⑤	PID 不感帯／ 出力不感帯	PID 不感帯／出力不感帯 を 0.0～9.9 の範囲内で指定します。
⑥	調整動作の正／逆	調整動作を DIRECT（冷却制御）／REVERSE（加熱制御）のいずれかから選択し指定します。
⑦	出力プリセット	出力プリセット値を -100.0～100.0 の範囲内で指定します。
⑧	出力変化量リミッタ 下降	出力変化量リミッタ下降値を -100.0～-0.1 の範囲内で指定します。
⑨	出力変化量リミッタ 上昇	出力変化量リミッタ上昇値を 0.1～100.0 の範囲内で指定します。
⑩	PV 異常時出力	PV 異常時出力値を -5.0～105.0 の範囲内で指定します。
⑪	プリセット マニュアル	プリセットマニュアル値を -5.0～105.0 の範囲内で指定します。
⑫	電源 ON 時動作	電源 ON 時動作を 前回電源 OFF 直前動作／定値運転 READY 状態/プログラム運転リセット状態 のいずれかから選択し指定します。

⑬	制御 アルゴリズム	制御アルゴリズム設定を位置形 PID 方式／速度形 PID 方式 の中から選択し指定します。 ※接続機器に PID 制御仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑭	FF 制御切替	FF 制御切替を OFF／ON いずれかから選択し指定します。 ※接続機器に Z 制御仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。

(i) [MODE7] 第 2 出力パラメータ

第 2 出力パラメータを編集する機能を提供します。

＜第 2 出力パラメータ ― 各設定値名称＞

下図 ①制御方式、②P、③I、④D、⑤出力ギャップ、⑥PID 不感帯/出力不感帯、⑦調節動作の正/逆、⑧出力プリセット、⑨スプリット Direct、⑩スプリット Reverse、⑪パルス周期、⑫出力リミッタ 下限、⑬出力リミッタ 上限、⑭出力変化量リミッタ 下降、⑮出力変化量リミッタ 上昇、⑯プリセットマニュアル の各種設定値を用いて第 2 出力パラメータを編集します。

番号	名称	説明
①	制御方式	制御方式を PID 制御演算／スプリット制御演算 のいずれかから選択し指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
②	P	PID「P」を 0.0～999.9 の範囲内で指定します。 ※0 = 二位置制御 を表します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
③	I	PID「I」を 0～9999 の範囲内で指定します。 ※0 = ∞ を表します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
④	D	PID「D」を 0～9999 の範囲内で指定します。 ※0 = 演算 OFF を表します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑤	出力ギャップ	出力ギャップ値を -100.0～100.0 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑥	PID 不感帯／ 出力不感帯	PID 不感帯／出力不感帯 を 0.0～9.9 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑦	調整動作の正／逆	調整動作を DIRECT（冷却制御）／REVERSE（加熱制御）のいずれかから選択し指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑧	出力プリセット	出力プリセット値を -100.0～100.0 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑨	スプリット Direct	スプリット Direct を 0.0～60.0 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑩	スプリット Reverse	スプリット Reverse を 40.0～100.0 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。

⑪	パルス周期	パルス周期を 1～180 の範囲内で指定します。 ※接続機器の第 2 出力が オンオフパルス／SSR 駆動パルス出力形 の場合のみ書込みが可能です。
⑫	出力リミッタ下限	出力リミッタ 下限値を -5.0～100.0 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。 ※指定した値が ⑬出力リミッタ上限 と正規関係にない場合は書込みできません。
⑬	出力リミッタ上限	出力リミッタ 上限値を 0.0～105.0 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。 ※指定した値が ⑫出力リミッタ下限 と正規関係にない場合は書込みできません。
⑭	出力変化量リミッタ下降	出力変化量リミッタ下降値を -100.0～-0.1 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑮	出力変化量リミッタ上昇	出力変化量リミッタ上昇値を 0.1～100.0 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑯	プリセットマニュアル	プリセットマニュアル値を -5.0～105.0 の範囲内で指定します。 ※接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。

(j) [MODEa] 通信パラメータ

通信パラメータを編集する機能を提供します。

＜通信パラメータ － 各設定値名称＞

下図 ①デジタル伝送種類 の各種設定値を用いて通信・伝送出力パラメータを編集します。

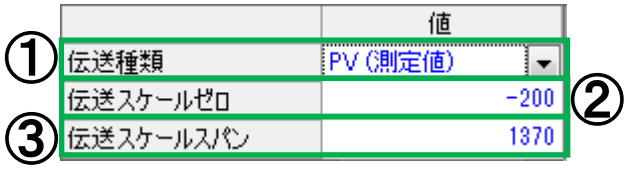
番号	名称	説明
①	デジタル 伝送種類	デジタル伝送種類の設定を SV（設定値）／PV（測定値）／MV（出力値）／MV2（出力値 2）／MFB（アナログ FB 伝送）の中から選択し指定します。 ※MV2（出力値 2）は接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。 ※MFB（アナログ FB 伝送）はオンオフサーボ出力形の場合のみ書込みが可能です。 ※接続機器に通信インターフェース付き仕様が付加されている場合のみ書込み可能です。

(k) [MODEb] 伝送出力パラメータ

伝送出力パラメータを編集する機能を提供します。

＜伝送出力パラメータ － 各設定値名称＞

下図 ①伝送種類、②伝送スケールゼロ、③伝送スケールスパン の各種設定値を用いて通信・伝送出力パラメータを編集します。



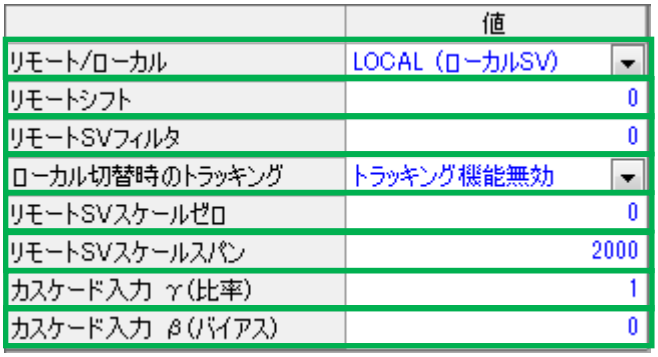
番号	名称	説明
①	伝送種類	伝送種類の設定を SV（設定値）／PV（測定値）／MV（出力値）／MV2（出力値 2）／MFB（アナログ FB 伝送）の中から選択し指定します。 ※MV2（出力値 2）は接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。 ※MFB（アナログ FB 伝送）はオンオフサーボ出力形の場合のみ書込みが可能です。 ※接続機器に伝送信号出力付き仕様が付加されている場合のみ書込み可能です。
②	伝送スケールゼロ	伝送スケールゼロ位置を -19999～30000 の範囲内で指定します。 ※接続機器に伝送信号出力付き仕様が付加されている場合のみ書込み可能です。 ※小数点位置は①伝送種類が SV（設定値）／PV（測定値）の場合は (g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動、MV（出力値）／MV2（出力値 2）／MFB（アナログ FB 伝送）の場合は小数点 1 桁となります。
③	伝送スケールスパン	伝送スケールスパンを -19999～30000 の範囲内で指定します。 ※接続機器に伝送信号出力付き仕様が付加されている場合のみ書込み可能です。 ※小数点位置は①伝送種類が SV（設定値）／PV（測定値）の場合は(g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動、、MV（出力値）／MV2（出力値 2）の場合は小数点 1 桁となります。

(l) [MODEc] リモート SV 入力パラメータ

リモート SV 入力パラメータを編集する機能を提供します。

＜リモート SV 入力パラメータ ― 各設定値名称＞

下図 ①リモート／ローカル、②リモートシフト、③リモート SV フィルタ、④ローカル切替時のトラッキング、⑤リモート SV スケールゼロ、⑥リモート SV スケールスパン、⑦カスケード入力γ（比率）、⑧カスケード入力β（バイアス）の各種設定値を用いてリモート SV 入力パラメータを編集します。



番号	名称	説明
①	リモート／ ローカル	リモート／ローカル設定を LOCAL（ローカル SV）／REMOTE（リモート SV）のいずれかから選択し指定します。 ※接続機器にリモート信号入力付きまたは通信インターフェイス付き仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
②	リモート SV シフト	リモート SV シフト値を -19999～20000 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は (g) 入力パラメータ SV 小数点（MAX3 桁）+ 1 桁 となります。 ※接続機器にリモート信号入力付きまたはまたは通信インターフェイス付き仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
③	リモート SV フィルタ	リモート SV フィルタ値を 0.0～99.9 の範囲内で指定します。 ※接続機器にリモート信号入力付きまたはまたは通信インターフェイス付き仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
④	ローカル切替時の トラッキング	ローカル切替時のトラッキング設定値を トラッキング機能無効／トラッキング機能有効 のいずれかから選択し指定します。 ※接続機器にリモート信号入力付きまたはまたは通信インターフェイス付き仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑤	リモート SV スケールゼロ	リモート SV スケールゼロ位置を -19999～30000 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は (g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動します。 ※接続機器にリモート信号入力付き仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑥	リモート SV スケールスパン	リモート SV スケールスパンを -19999～30000 の範囲内で指定します。 ※小数点位置は (g) 入力パラメータ SV 小数点 と連動します。 ※接続機器にリモート信号入力付き仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑦	カスケード入力 γ（比率）	カスケード入力値 γ を 0.00～1.00 の範囲内で指定します。 ※接続機器にリモート信号入力付き仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
⑧	カスケード入力 β（バイアス）	カスケード入力値 β を -99.9～100.0 の範囲内で指定します。 ※接続機器にリモート信号入力付き仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。

(m) [MODEd] 外部入力パラメータ

外部入力パラメータを編集する機能を提供します。

＜外部入力パラメータ ― 各設定値名称＞

下図 ①外部信号入力割付 No.1～7 の各種設定値を用いてシステムを編集します。

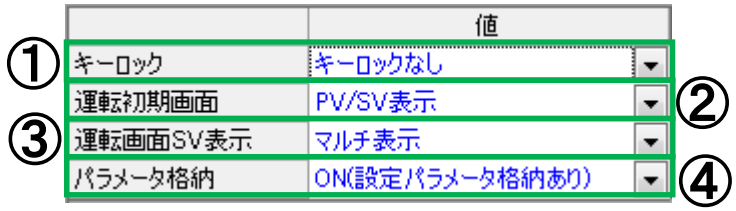
番号	名称	説明
①	外部信号入力割付 No.1～7	外部信号入力割付 No.1～7 を NON（割付無）／ READY（定値運転 RUN / READY 切替）／ MANUA（AUTO / マニュアル出力切替）／ PRAT.M（プリセットマニュアル）／ TIMER1（タイマー1）／ TIMER2（タイマー2）／ AL.RST（警報イベントリセット）／ SEL1（実行 No.選択 1_bit0）／ SEL2（実行 No.選択 2_bit1）／ SEL4（実行 No.選択 4_bit2）／ SEL8（実行 No.選択 8_bit3）／ PROGR（プログラム / 定値運転切替）／ P.RUN（プログラム運転 RUN / STOP）／ P.ADV（プログラム運転 ADVANCE）／ P.REST（プログラム運転 RESET）／ PTRN1（プログラムパターン 1_bit0）／ PTRN2（プログラムパターン 2_bit1）／ PTRN4（プログラムパターン 4_bit2） の中から選択し指定します。 ※接続機器に外部信号入力付き仕様が付加されている場合のみ書込み可能です。 ※接続機器にプログラム機能付き仕様が付加されている場合のみ PROGR（プログラム / 定値運転切替）／P.RUN（プログラム運転 RUN / STOP）／ P.ADV（プログラム運転 ADVANCE）／P.REST（プログラム運転 RESET）／ PTRN1（プログラムパターン 1_bit0）／PTRN2（プログラムパターン 2_bit1）／ PTRN4（プログラムパターン 4_bit2）の 書込みが可能です。

(n) [MODEt] システムパラメータ

システムパラメータを編集する機能を提供します。

＜システムパラメータ － 各設定値名称＞

下図 ①キーロック、②運転初期画面、③運転画面 SV 表示、④パラメータ格納 の各種設定値を用いてシステムパラメータを編集します。



番号	名称	説明
①	キーロック	キーロックの設定を キーロックなし／運転操作パラメータのキーロック／全パラメータのキーロック の中から選択し指定します。
②	運転初期画面	運転初期画面設定を PV/SV 表示／PV/ステップ時間表示／PV/第 1 出力表示／PV/第 2 出力表示 の中から選択し指定します。 ※PV/第 2 出力表示は接続機器に第 2 出力仕様が付加されている場合のみ書込みが可能です。
③	運転画面 SV 表示	運転画面 SV 表示設定を SV 表示／ブランク表示／マルチ表示 の中から選択し指定します。
④	パラメータ格納	パラメータ格納設定に ON（設定パラメータ格納あり）／OFF（設定パラメータ格納なし）のいずれかから選択し指定します。 ※(d) プログラムパラメータ － 全般 プログラム／定値運転切替 の指定値がプログラム運転で且つ、※(a) 運転情報 プログラム駆動 に プログラム運転が指定されている場合は書込みできません。

５－４．　データ集録の操作

データ集録では、５－２－２．機器登録画面 にて登録された機器が持つ、集録をサポートしているデータ値を対象に 集録／記録（ファイル保存）／リアルタイムトレンド表示／リアルタイムデータ表示 等の機能を提供します。

＜ランチャー画面 データ集録（未集録状態） 各部名称＞

下図 ①データ登録、②グループ登録、③集録開始 の機能を用いて集録用データの登録・グループの編集・集録の開始 までの処理を行います。

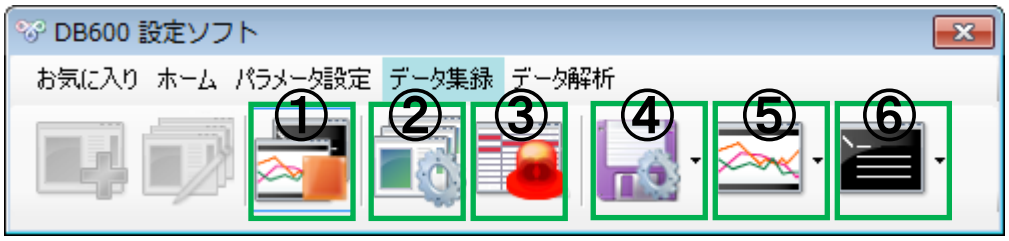
※無効状態のツールボタンは集録開始と共に有効になります。

番号	名称	説明	参照
①	データ登録	データ登録画面を表示します。集録用データ値の登録・編集・削除機能を提供します。	５－４－１
②	グループ登録	グループ登録画面を表示します。集録用グループの編集機能を提供します。 ※① データ登録 にて登録された集録用データは、グループに登録しない場合データ集録から除外されます。	５－４－２
③	集録開始	データ集録 定期通信を開始します。	-

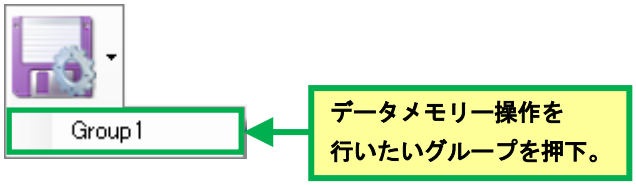
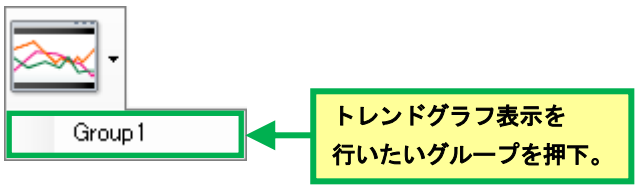
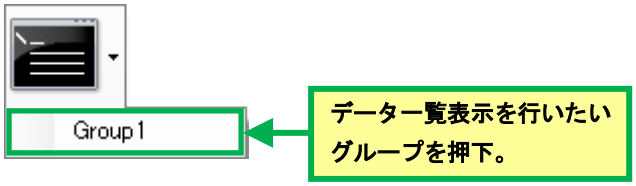
＜ランチャー画面 データ集録（集録中状態） 各部名称＞

下図 ①集録停止、②集録グループ管理、③警報一覧表示、④データメモリー操作、⑤トレンド表示、⑥データ一覧表示 の機能を用いて集録の停止・集録状態の監視 等の処理を行います。

※集録中は データ登録・グループ登録、およびホーム機能の ポート登録・機器登録 のツールボタンが無効になります。



番号	名称	説明	参照
①	集録停止	データ集録 定期通信を停止します。	-
②	集録グループ管理	集録グループの記録（データメモリー）開始／停止 制御と、警報状態の監視機能を提供します。	５－４－３
③	警報一覧表示	集録グループ、各集録データの毎の警報状態ならびに警報内容等のリアルタイム表示・確認機能を提供します。	５－４－４

④	データメモリー操作	・ドロップダウンボタン押下により集録グループの一覧が表示されます。 ・集録グループの一覧からデータメモリー操作を行いたいグループを選択し対象のグループを押下します。  ・データメモリー操作画面を表示します。	５－４－５
⑤	トレンド表示	・ドロップダウンボタン押下により集録グループの一覧が表示されます。 ・集録グループの一覧からトレンドグラフ表示を行いたいグループを選択し対象のグループを押下します。  ・トレンドグラフ表示画面を表示します。	５－４－６
⑥	データー覧表示	・ドロップダウンボタン押下により集録グループの一覧が表示されます。 ・集録グループの一覧からデーター覧表示を行いたいグループを選択し対象のグループを押下します。  ・リアルタイムデーター覧表示画面を表示します。	５－４－７

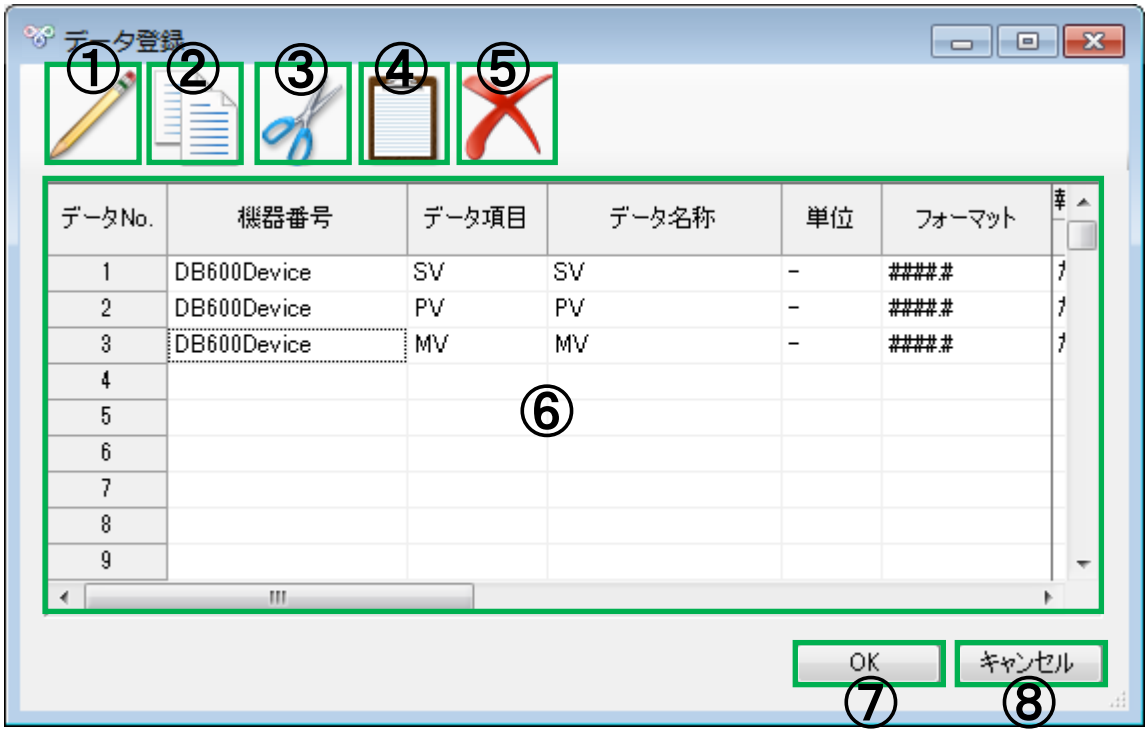
５－４－１．データ登録画面

集録したいデータ値の登録・編集・削除 機能を提供します。

※５－２－２．機器登録画面 にて登録された機器が持つ、集録をサポートしているデータ値が対象となります。

＜データ登録画面 各部名称＞

下図 ①編集、②コピー、③切り取り、④貼り付け、⑤削除、⑥集録用データ設定情報表示部、⑦OK、⑧キャンセル の機能を用いて集録用データの設定を行います。



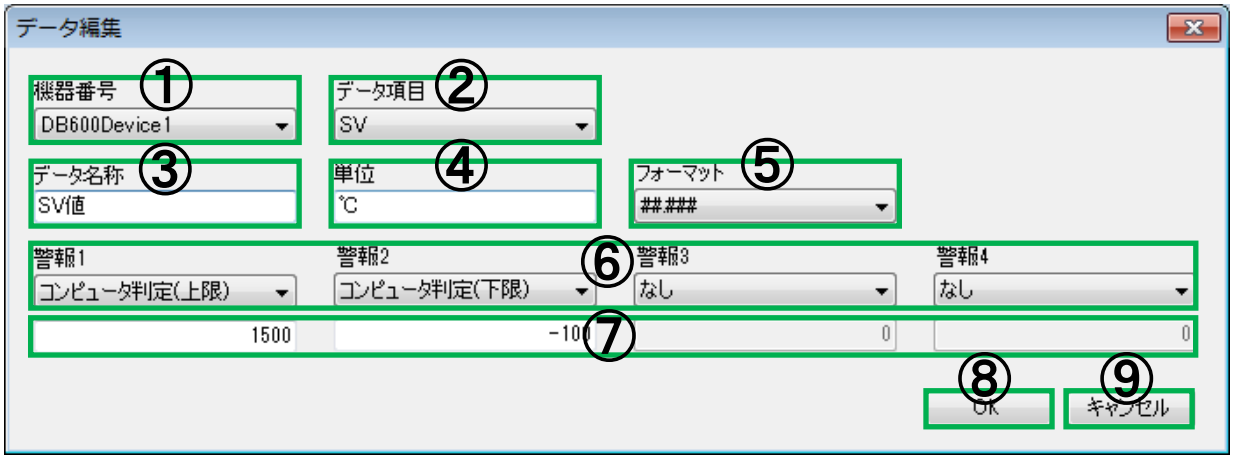
番号	名称	説明	参照
①	編集	データ編集画面を表示します。	５－４－１－１
②	コピー	集録用データ設定情報一覧上の選択範囲の設定情報をコピーします。 ※Ctrl＋C キーでショートカット可能です。 ※所属グループは初期化されます。	-
③	切り取り	集録用データ設定情報一覧上の選択範囲の設定情報を切り取ります。 ※Ctrl＋X キーでショートカット可能です。 ※所属グループは初期化されます。	-
④	貼り付け	②コピーまたは③切り取りにて保持した設定情報を選択した行以降に貼り付けます。 ※Ctrl＋V キーでショートカット可能です。	-
⑤	削除	登録済みの集録用データ設定情報から、選択したものを削除します。 ※複数削除が可能です。	-
⑥	集録用データ設定情報表示部	現在登録されている集録用データ設定情報の一覧が表示されます。 ※セルをダブルクリックすることで対象行の集録用データ設定が可能です。①と同様にデータ編集画面を表示します。	-
⑦	OK	データ登録画面を起動してから登録・編集・削除した内容を反映します。	-
⑧	キャンセル	データ登録画面を起動してから登録・編集・削除した内容をキャンセルします。	-

５－４－１－１．データ編集画面

データ登録画面 集録用データ設定情報の編集機能を提供します。

＜データ編集画面 各部名称＞

下図 ①機器、②データ、③データ名称、④単位、⑤フォーマット、⑥警報 1～4 種類、⑦警報 1～4 警報値、⑧OK、⑨キャンセル の機能を用いて集録用データ設定情報の編集またはキャンセルを行います。



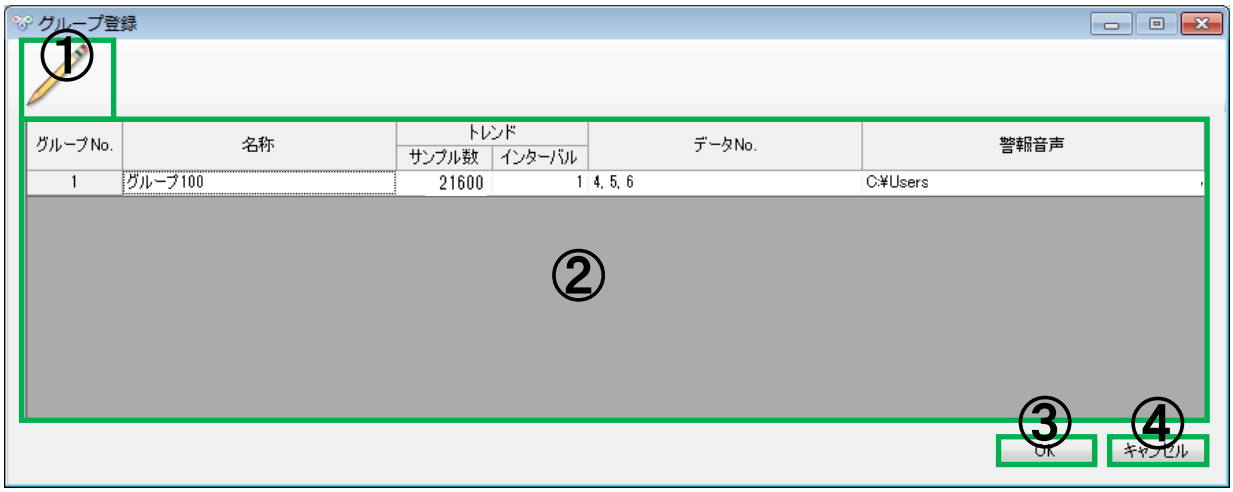
番号	名称	説明
①	機器	データ集録を行う機器を選択します。 ※５－２－２．機器登録画面 で登録された機器の中で集録用データを有するもののみ選択可能です。
②	データ	① で指定された機器が持つ集録データの種類を選択します。 ※指定された機器によって集録データの種類は異なります。
③	データ名称	集録データの表示用名称を指定します。30 文字までの入力が可能です。
④	単位	集録データの表示用単位を指定します。30 文字までの入力が可能です。
⑤	フォーマット	#####／####.#／###.##／##.###／#.####／0E+00／0.0E+00／0.00E+00／0.000E+00 の中から集録データ表示用フォーマットを選択し指定します。
⑥	警報 1～4 種類	警報種類を選択し指定します。 ※指定された機器・集録用データによって警報種類は異なります。
⑦	警報 1～4 警報値	⑥で指定された警報種類の警報値を-99999.9999～99999.9999 の範囲内で指定します。 ※警報種類：コンピュータ判定（上限）／コンピュータ判定（下限）が指定された場合のみ有効となります。それ以外の警報は機器に依存します。
⑧	OK	編集した集録用データ設定情報をデータ登録画面に反映します。
⑨	キャンセル	編集した集録用データ設定情報をキャンセルし編集前の状態に戻ります。

５－４－２．グループ登録画面

集録グループへのデータの追加・削除、その他の設定 機能を提供します。

＜グループ登録画面 各部名称＞

下図 ①編集、②グループ情報表示部、③OK、④キャンセル の機能を用いて集録グループの設定を行います。



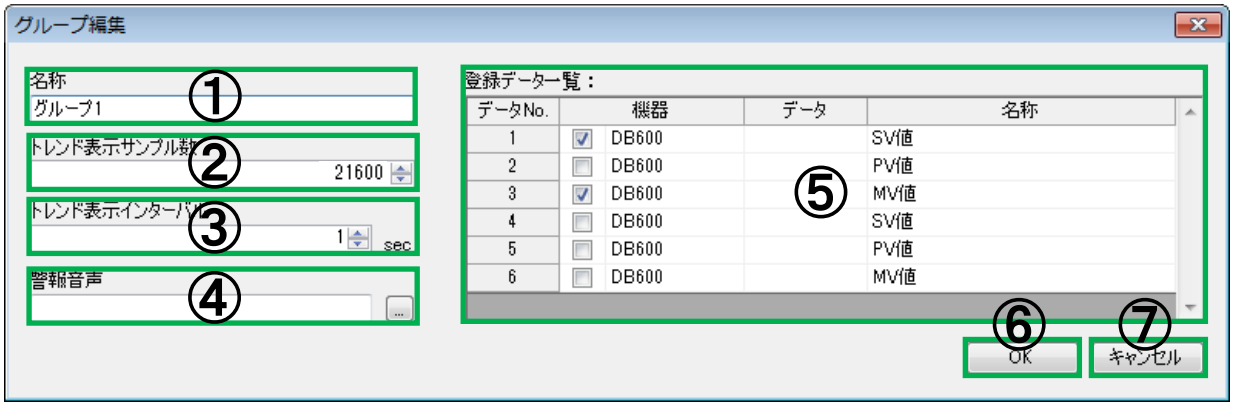
番号	名称	説明	参照
①	編集	選択した集録グループ設定情報からグループ編集画面を表示します。	５－４－２－１
②	グループ設定 情報表示部	集録グループ設定情報の一覧を表示します。 ※セルをダブルクリックすることで対象行の集録グループ設定が可能です。①と同様にグループ編集画面を表示します。	-
③	OK	グループ登録画面を起動してから編集した内容を反映します。	-
④	キャンセル	グループ登録画面を起動してから編集した内容をキャンセルします。	-

５－４－２－１．グループ編集画面

グループ登録画面 集録グループ設定情報の編集機能を提供します。

＜グループ編集画面 各部名称＞

下図 ①名称、②トレンド表示サンプル数、③トレンド表示インターバル、④警報音声、⑤登録データ一覧、⑥OK、⑦キャンセル の機能を用いて集録グループ設定情報の編集またはキャンセルを行います。



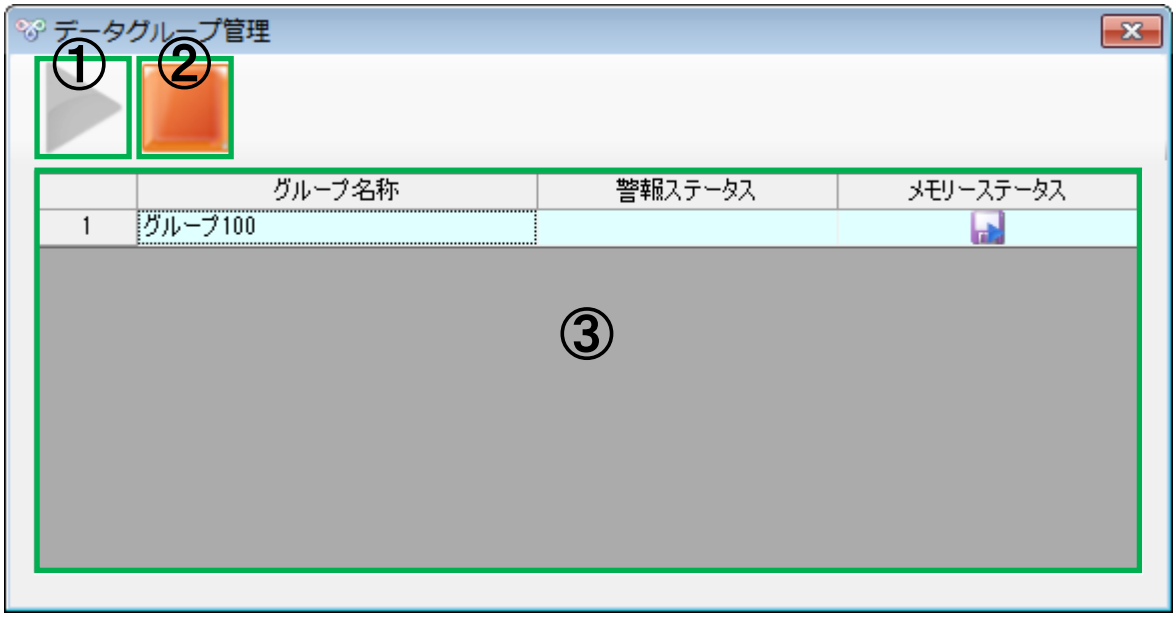
番号	名称	説明
①	名称	集録グループの表示名称を指定します。30 文字までの入力が可能です。
②	トレンド表示 サンプル数	集録時トレンドバッファサンプル数を 1～21600 の範囲内で指定します。
③	トレンド表示 インターバル	集録時トレンドバッファインターバルを 1～10 の範囲内で指定します。
④	警報音声	警報音声を *.wav 形式のファイルから選択し指定します。
⑤	登録データ一覧	５－４－１．データ登録画面 で登録された集録用データの一覧が表示されます。 ※チェック有り：グループに含める／チェックなし：グループから除外 となります。 ※複数の機器を同時にグループに含めることはできません。
⑥	OK	編集した集録グループ設定情報をグループ登録画面に反映します。
⑦	キャンセル	編集した集録グループ設定情報をキャンセルし編集前の状態に戻ります。

５－４－３．集録グループ管理画面

集録グループの警報状態表示ならびにデータメモリー開始／停止 機能を提供します。

＜集録グループ管理画面 各部名称＞

下図 ①データメモリー開始、②データメモリー停止、③集録グループ一覧表示部 の機能を用いてデータグループの管理・制御を行います。



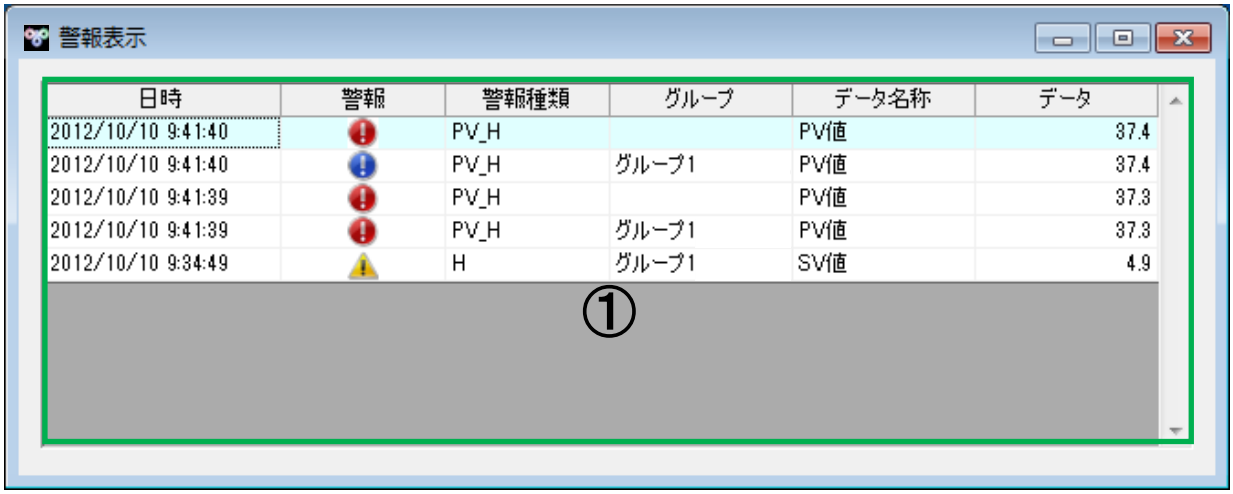
番号	名称	説明
①	データメモリー開始	選択行集録グループのデータメモリーを開始します。 ※開始／停止時にボタンの有効／無効が切り替わります。 ※データメモリーの詳細な設定に関しては ５－４－５ データメモリー操作 を参照して下さい。
②	データメモリー停止	選択行集録グループのデータメモリーを停止します。 ※開始／停止時にボタンの有効／無効が切り替わります。
③	集録グループ一覧表示部	現在集録中の、集録グループ情報の一覧を表示します。 グループ名称・警報ステータス・メモリーステータスらの情報が表示されます。 **【警報ステータス】** 集録グループ中に警報発生中のデータが存在する場合、下記アイコンが表示されます。 …警報発生中 **【メモリーステータス】** データメモリーの状態を下記４種類のアイコンで表します。 …停止（データメモリー未実行な状態です） …記録中（データメモリー実行中で且つファイル出力中の状態です） …待機（データメモリー実行中ですがファイル出力待機の状態です） ※メモリーモードが時刻指定の場合のみ発生します。 …異常（何らかの要因でデータメモリーが失敗している状態です） ※５－２－３ サマリ表示画面 にてエラー情報が確認できます。

５－４－４．警報表示画面

集録用データ毎の警報状態表示・確認 機能を提供します。

＜警報表示画面 各部名称＞

下図 ①警報一覧表示部 の機能を用いて発生した警報一覧の閲覧・確認を行います。



番号	名称	説明
①	警報一覧表示部	現在発生中、あるいは発生していた警報の一覧を表示します。発生した警報の日時・警報・警報種類・所属するグループ・データ名称・集録中のデータが情報として表示されます。 **【警報】** 発生中警報の状態を下記３種類のアイコンで表します。 …警報発生・オペレーター未確認（赤） …警報発生・オペレーター確認済（青） …警報発生 → 警報解除・オペレーター未確認（黄色） ※警報 列のアイコンをクリックすることでオペレーターによる確認が行われたと判断されます。確認時にアイコンの変化、または警報情報の削除が行われます。 また対象の警報が発生していたグループに対して警報音声が設定されていた場合、警報の解除に加え、オペレータによる確認があった後に警報音声の鳴動が停止します。

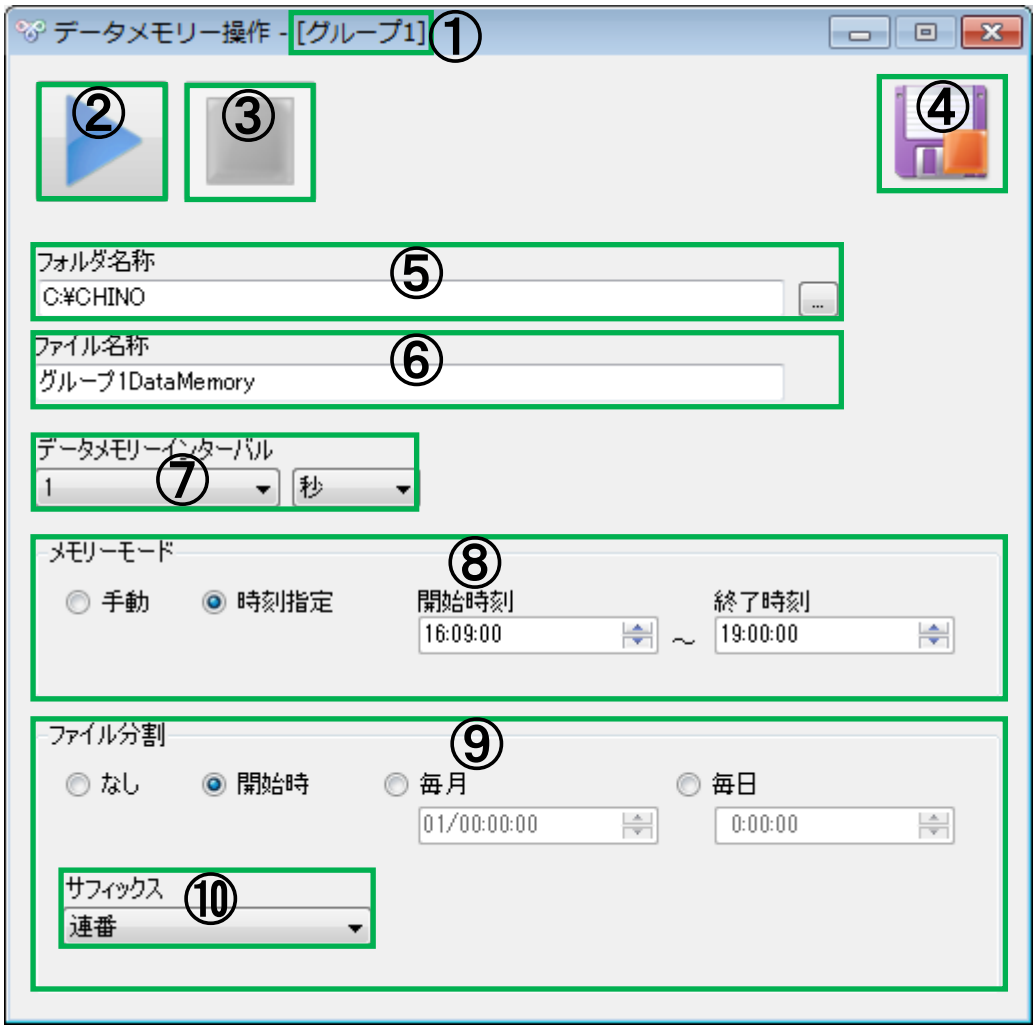
５－４－５．データメモリー操作画面

集録グループ毎のデータメモリー設定・制御 機能を提供します。

※設定情報の保存に関しては、データメモリーの開始 または画面を閉じる際に行います。設定情報編集後画面を閉じる場合のみ保存確認ダイアログが表示されます。

＜データメモリー操作画面 各部名称＞

下図 ①集録グループ名称、②データメモリー開始、③データメモリー停止、④データメモリーステータス、⑤保存 フォルダ名称、⑥保存 ファイル名称、⑦データメモリーインターバル、⑧メモリーモード設定部、⑨ファイル分割設定部 の機能を用いてデータメモリー設定・制御を行います。



番号	名称	説明
①	集録グループ名称	選択した集録グループの名称を表示します。
②	データメモリー開始	データメモリーを開始します。 ※開始／停止時にボタンの有効／無効が切り替わります。
③	データメモリー停止	データメモリーを停止します。 ※開始／停止時にボタンの有効／無効が切り替わります。
④	データメモリーステータス	対象集録グループのデータメモリー状態を表示します。 ※状態の変化と共にリアルタイムにて表示が切り替わります。
⑤	保存 フォルダ名称	保存先のフォルダを指定します。 ※直接入力は許容しません。
⑥	保存 ファイル名称	保存ファイル名称を指定します。

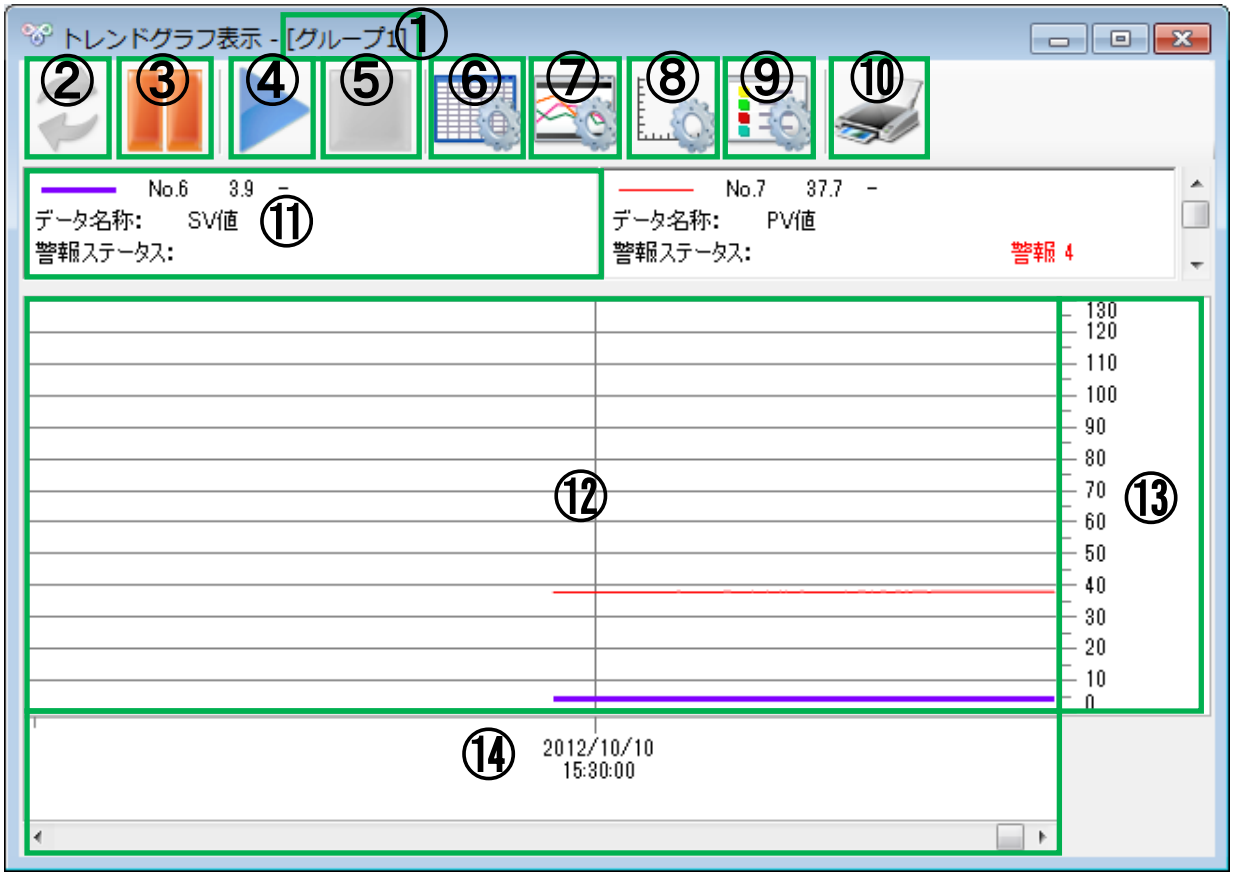
⑦	データメモリー インターバル	データメモリーのインターバルを 1／5／10[秒] の範囲から選択し指定します。
⑧	メモリーモード 設定部	メモリーモードを 手動／時間指定 のいずれかから選択し指定します。 ※時間指定を指定した場合は、更に開始時刻・終了時刻を指定して下さい。 ※開始時刻・終了時刻に同一時刻は指定できません。また、開始時刻 00:00:00・終了時刻 23:59:59 のように 1 秒ずらした設定を行うことで連続したデータメモリーが可能です。
⑨	ファイル分割 設定部	ファイル分割の種類を なし／開始時／毎月／毎日 の中から選択し指定します。 指定した条件に従い、データメモリー時のファイル分割を行います。 ※本設定はデータメモリーの際に保存されるファイルをサフィックス付加で分割する（または分割しない）タイミングの設定を指します。 ※なし 以外を指定した場合は ⑩ サフィックスの設定を行います。 ※毎月 を指定した場合はファイル分割の 日時 を指定します。 ※毎日 を指定した場合はファイル分割の 時刻 を指定します。
⑩	サフィックス	ファイル分割時のサフィックスを 連番／年月日時分秒／年月日時分／年月日時／年月日／年月 の中から選択し指定します。 ※指定されたサフィックスに従い、保存ファイル名称にサフィックスが付加されます。

５－４－６．トレンドグラフ表示画面

集録グループ毎の集録状態をグラフ化し表示する 機能を提供します。

＜トレンドグラフ表示画面 各部名称＞

下図 ①集録グループ名称、②更新再開、③更新一時停止、④データメモリー開始、⑤データメモリー停止、⑥データ設定、⑦グラフ領域設定、⑧スケール板設定、⑨数値データ設定、⑩印刷、⑪数値データ表示部、⑫グラフ領域、⑬スケール板、⑭時間軸スケール の機能を用いて集録グループ毎の集録状態グラフ表示を行います。



番号	名称	説明	参照
①	集録グループ名称	選択した集録グループの表示名称を表示します。	-
②	更新再開	トレンドグラフの更新が一時停止状態の時、更新を再開します。 ※更新／一時停止時にボタンの有効／無効が切り替わります。 ※グラフ領域の表示位置が、最新の位置にスクロールします。	-
③	更新一時停止	トレンドグラフが更新中の時、更新を一時停止します。 ※更新／一時停止時にボタンの有効／無効が切り替わります。	-
④	データメモリー開始	データメモリーを開始します。 ※開始／停止時にボタンの有効／無効が切り替わります。	-
⑤	データメモリー停止	データメモリーを停止します。 ※開始／停止時にボタンの有効／無効が切り替わります。	-
⑥	データ設定	データ設定画面を表示します。 ※設定情報はグループ毎に異なります。	５－４－６－１
⑦	グラフ領域設定	グラフ領域設定画面を表示します。 ※設定情報はグループ毎に異なります。	５－４－６－２
⑧	スケール板設定	スケール設定画面を表示します。 ※設定情報はグループ毎に異なります。	５－４－６－３

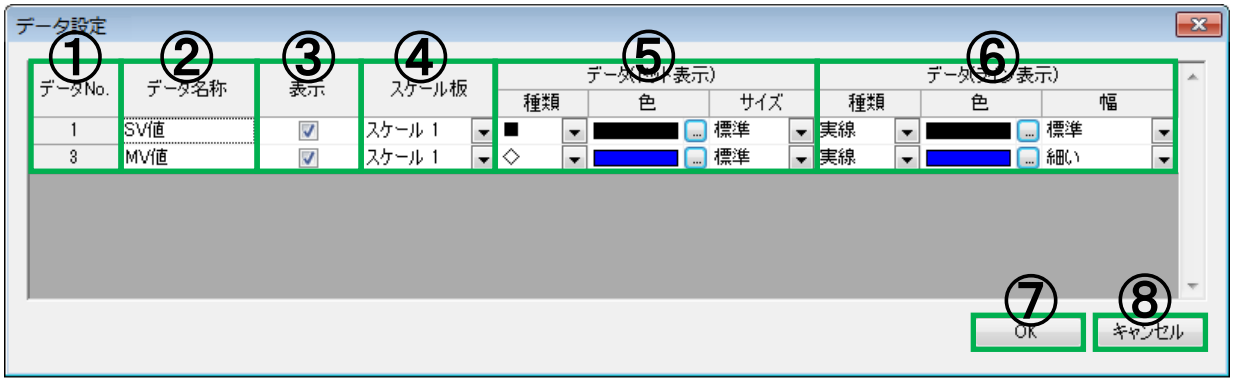
⑨	数値データ設定	数値データ設定画面を表示します。 ※設定情報はグループ毎に異なります。	５－４－６－４
⑩	印刷	画面イメージを印刷します。 ※印刷プレビューを表示します。	-
⑪	数値データ 表示部	集録中データ毎の情報 データ番号・凡例・データ名称・数値データ・単位・スケール番号・警報ステータス 等を表示します。	-
⑫	グラフ領域	集録データをリアルタイムにてグラフ描画します。	-
⑬	スケール板	トレンドグラフの温度領域を示すスケールを表示します。 ※スケール板の表示枠をマウスドラッグし、範囲を指定するとスケール板の表示サイズの変更が可能です。 ※スケール板の表示領域をマウスドラッグし、範囲を指定するとスケール範囲の拡大が可能です。拡大の解除には ５－４－６－３. スケール板設定画面 から設定の反映が必要です。	-
⑭	時間軸スケール	トレンドグラフの時系列を示すスケールを表示します。 ※マウスドラッグにて範囲を指定すると拡大表示されます。	-

５－４－６－１．データ設定画面

トレンドグラフ表示画面 データ設定情報の編集機能を提供します。

＜データ設定画面 各部名称＞

下図 ①データ No.、②データ名称、③表示、④スケール板、⑤ドット 設定部、⑥ライン設定部、⑦OK、⑧キャンセル の機能を用いてトレンドグラフの表示設定情報の編集またはキャンセルを行います。



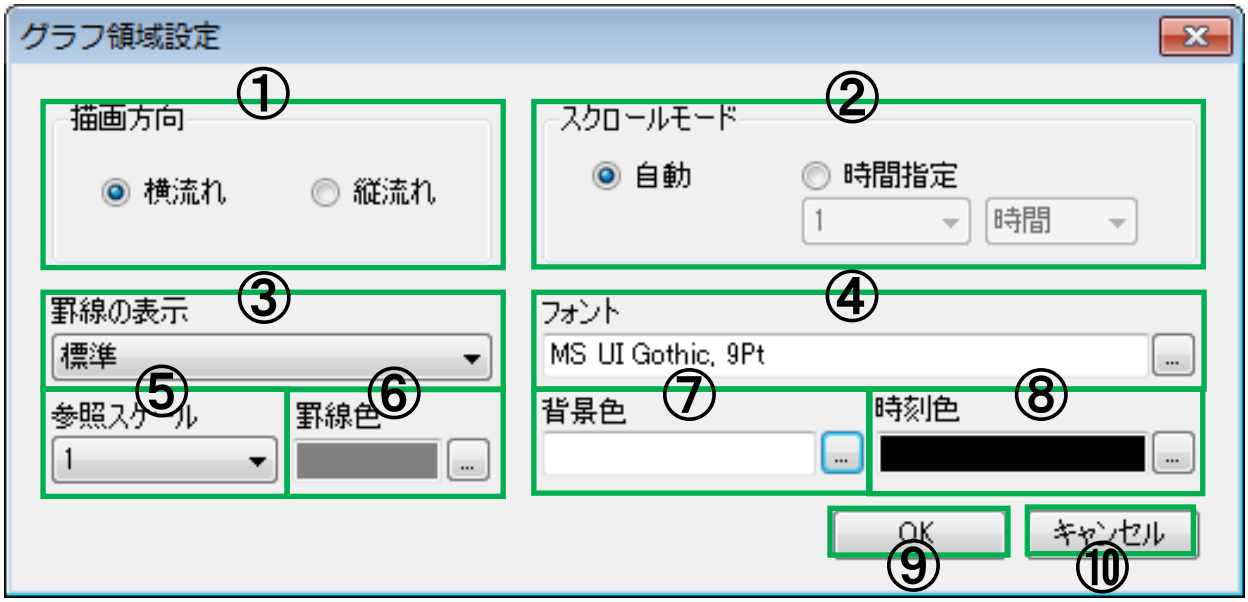
番号	名称	説明
①	データ No.	データ No.を表示します。変更はできません。
②	データ名称	データ名称を表示します。変更はできません。
③	表示	表示有無を指定します。 ※チェック有り：表示／チェックなし：非表示 となります。
④	スケール板	データ値をプロットする対象のスケール板を スケール 1／スケール 2／スケール 3／スケール 4 の中から選択し指定します。
⑤	ドット 設定部	表示するデータ値のドットの種類・色・サイズを指定します。 **【種類】** なし／□／■／◇／◆／△／▲／×／＊／○／●／＋ の中から選択し指定します。 **【色】** カラーダイアログから指定します。 **【サイズ】** 小さい／標準／大きい の中から選択し指定します。
⑥	ライン 設定部	表示するデータ値のラインの種類・色・幅を指定します。 **【種類】** なし／実線／鎖線／破線／一点鎖線／二点鎖線 の中から選択し指定します。 **【色】** カラーダイアログから指定します。 **【幅】** 細い／標準／太い の中から選択し指定します。
⑦	OK	データ設定画面上の設定情報を保持し、トレンドグラフ表示画面へ設定内容を反映します。
⑧	キャンセル	データ設定画面上の設定情報を無視し、トレンドグラフ表示画面への設定内容の反映をキャンセルします。

５－４－６－２．グラフ領域設定画面

トレンドグラフ表示画面 グラフ領域設定情報の編集機能を提供します。

＜グラフ領域設定画面 各部名称＞

下図 ①描画方向、②スクロールモード、③罫線の表示、④フォント、⑤参照スケール、⑥罫線色、⑦背景色、⑧時刻色、⑨OK、⑩キャンセル の機能を用いてトレンドグラフのグラフ領域設定情報の編集またはキャンセルを行います。



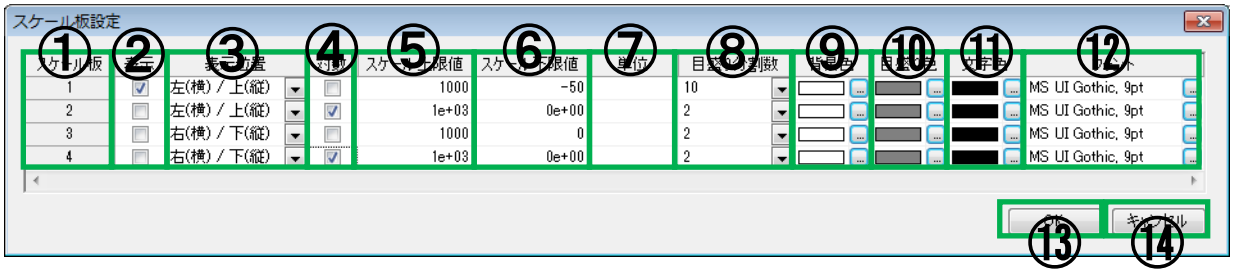
番号	名称	説明
①	描画方向	グラフのスクロール方法を 横流れ／縦流れ のいずれかから選択し指定します。
②	スクロール モード	スクロールの方法を 自動／時間指定 のいずれかから選択し指定します。 ※時間指定を指定した場合は、更に表示時間幅を 1~59 分／1~23 時間 の中から選択し 指定して下さい。
③	罫線の表示	罫線の表示種別を なし／標準（目盛り位置に表示）／詳細（補助目盛り位置にも表示）の中から選択し指定します。
④	フォント	グラフ領域および時間軸で使用するフォントを指定します。
⑤	参照スケール	罫線表示の対象となるスケール板を 1／2／3／4 の中から選択し指定します。
⑥	罫線色	罫線の描画色を指定します。
⑦	背景色	グラフ領域の背景色を指定します。
⑧	時刻色	時間軸の前景色を指定します。
⑨	OK	グラフ領域設定画面上の設定情報を保持し、トレンドグラフ表示画面へ設定内容を反映します。
⑩	キャンセル	グラフ領域設定画面上の設定情報を無視し、トレンドグラフ表示画面への設定内容の反映をキャンセルします。

５－４－６－３．スケール板設定画面

トレンドグラフ表示画面 スケール板設定情報の編集機能を提供します。

＜スケール板設定画面 各部名称＞

下図 ①スケール板、②表示、③表示位置、④対数、⑤スケール上限値、⑥スケール下限値、⑦単位、⑧目盛り分割数、⑨背景色、⑩目盛り色、⑪文字色、⑫フォント、⑬OK、⑭キャンセル の機能を用いてトレンドグラフにて使用するスケール板設定情報の編集またはキャンセルを行います。



番号	名称	説明
①	スケール板	1~4 のスケール板 No.を表示します。変更はできません。
②	表示	表示有無を指定します。 ※チェック有り：表示／チェックなし：非表示 となります。
③	表示位置	スケール板表示位置を 左（横）または上（縦）／右（横）または下（縦） のいずれかから選択し指定します。 ※５－４－６－２．グラフ領域設定画面 の 描画方向 設定を変更することで、左／上 または右／下 が自動で切り替わります。 ※(横)とは描画方向の横流れの場合を意味し、(縦)とは描画方向の縦流れの場合を意味します。
④	対数	スケール値表現を 通常／対数 のいずれかから選択し指定します。 ※チェック有り：対数／チェックなし：通常 となります。
⑤	スケール上限値	スケール板の上限値を-99999. 999～99999. 999の範囲内で指定します。 ※対数スケールの場合は指数書式となります。
⑥	スケール下限値	スケール板の下限値を-99999. 999～99999. 999 の範囲内で指定します。 ※対数スケールの場合は指数書式となります。
⑦	単位	スケール板に表示する単位を指定します。10 文字までの入力が可能です。
⑧	目盛り分割数	目盛りラインの分割数を 2／3／4／5／6／7／8／9／10／11／12／13／14／15／16／17／18／19／20 の中から選択し指定します。 ※対数スケールの場合は 9 固定となります。
⑨	背景色	スケール板の背景色を指定します。
⑩	目盛り色	目盛り線の描画色を指定します。
⑪	文字色	スケール値の前景色を指定します。
⑫	フォント	スケール値のフォントを指定します。
⑬	OK	スケール板設定画面上の設定情報を保持し、トレンドグラフ表示画面へ設定内容を反映します。
⑭	キャンセル	スケール板設定画面上の設定情報を無視し、トレンドグラフ表示画面への設定内容の反映をキャンセルします。

５－４－６－４．数値データ設定画面

トレンドグラフ表示画面 数値データ設定情報の編集機能を提供します。

＜数値データ設定画面 各部名称＞

下図 ①数値データ表示有無、②表示項目、③フォント、④文字色、⑤背景色、⑥表示位置、⑦OK、⑧キャンセル の機能を用いて数値データ設定情報の編集またはキャンセルを行います。

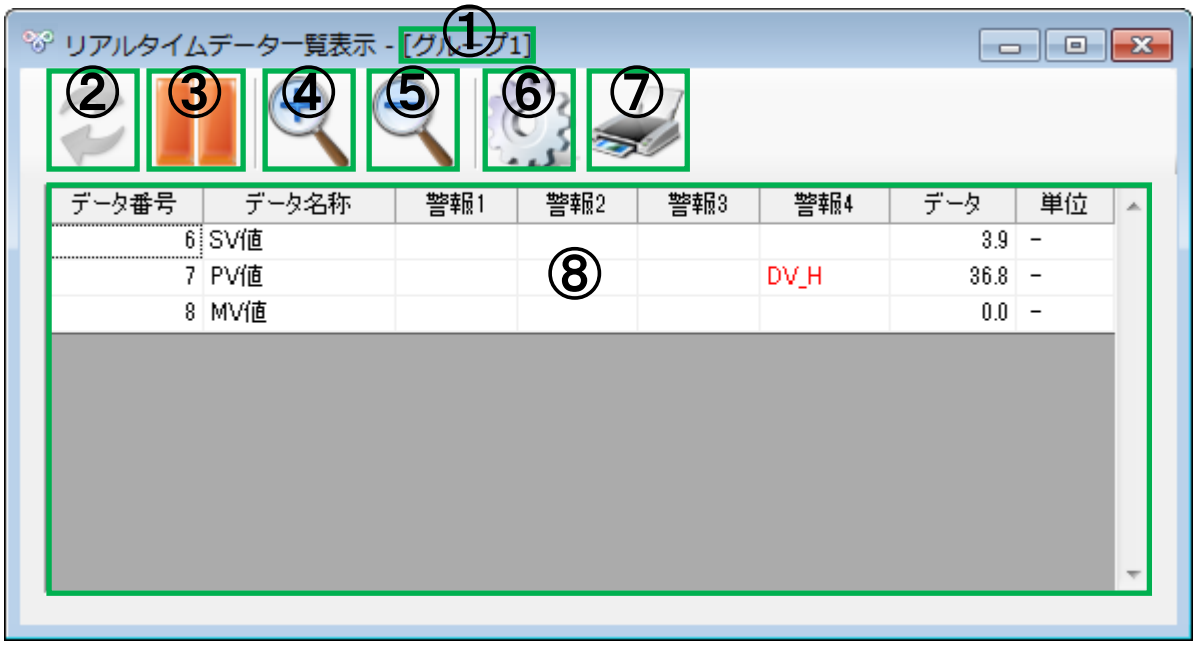
番号	名称	説明
①	数値データ表示有無	数値データの表示有無を指定します。 ※チェック有り：表示／チェックなし：非表示 となります。
②	表示項目	数値データに表示される項目の表示有無を指定します。 ※チェック有り：表示／チェックなし：非表示 となります。
③	フォント	数値データのフォント情報を指定します。
④	文字色	数値データの前景色を指定します。
⑤	背景色	数値データの背景色を指定します。
⑥	表示位置	数値データの表示位置を 上／下／左／右 の中から選択し指定します。
⑦	OK	数値データ設定画面上の設定情報を保持し、トレンドグラフ表示画面へ設定内容を反映します。
⑧	キャンセル	数値データ設定画面上の設定情報を無視し、トレンドグラフ表示画面への設定内容の反映をキャンセルします。

５－４－７．リアルタイムデーター一覧表示画面

選択した集録グループに含まれている集録中データの一覧を展開、リアルタイムにて更新表示する機能を提供します。

＜リアルタイムデーター一覧表示画面 各部名称＞

下図 ①集録データ名称、②更新再開、③更新一時停止、④拡大、⑤縮小、⑥表示設定、⑦印刷、⑧リアルタイムデーター一覧表示部 の機能を用いて集録中データー覧の表示・更新を行います。



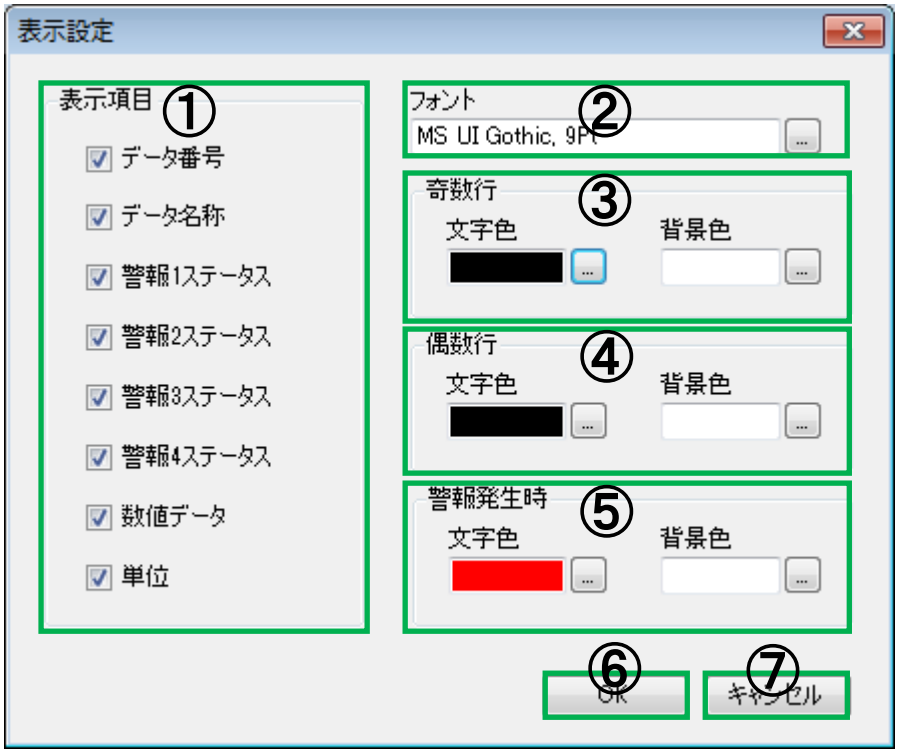
番号	名称	説明	参照
①	集録グループ名称	選択した集録グループの表示名称を表示します。	-
②	更新再開	データー覧の更新が一時停止状態の時、更新を再開します。 ※更新／一時停止時にボタンの有効／無効が切り替わります。	-
③	更新一時停止	データー覧が更新中の時、更新を一時停止します。 ※更新／一時停止時にボタンの有効／無効が切り替わります。	-
④	拡大	一覧表示のフォントサイズを拡大します。 ※最大で標準値の 2 倍まで拡大します。	-
⑤	縮小	一覧表示のフォントサイズを縮小します。 ※最大で標準値の 0.5 倍まで縮小します。	-
⑥	表示設定	リアルタイムデーター一覧の表示設定画面を表示します。 ※⑧リアルタイムデーター一覧表示部 のダブルクリックでも同様に動作します。	５－４－６－１
⑦	印刷	表示中のデーター一覧を印刷します。 ※印刷プレビューを表示します。	-
⑧	リアルタイムデーター一覧表示部	対象集録グループに含まれる集録中データ情報の一覧をリアルタイムにて表示します。	-

５－４－７－１．表示設定画面

リアルタイムデーター覧表示画面 表示設定情報の編集機能を提供します。

＜表示設定画面 各部名称＞

下図 ①表示項目、②フォント、③奇数行 セル設定、④偶数行 セル設定、⑤警報発生時 セル設定、⑥OK、⑦キャンセル の機能を用いてリアルタイムデーター覧の表示設定情報の編集またはキャンセルを行います。



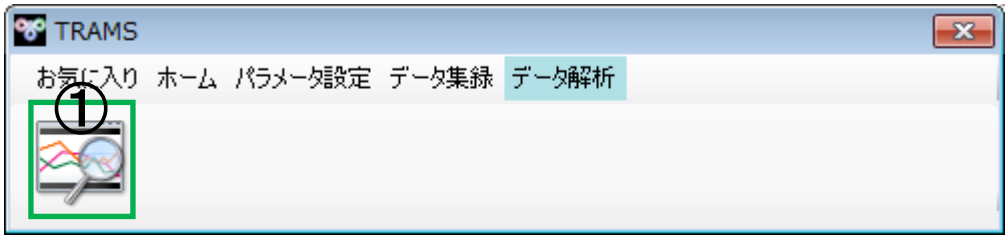
番号	名称	説明
①	表示項目	リアルタイムデーター覧に表示されている列毎の表示有無を指定します。 ※チェック有り：表示／チェックなし：非表示 となります。
②	フォント	リアルタイムデーター覧表示画面のフォント情報を指定します。
③	奇数行 セル設定	リアルタイムデーター覧表示画面の奇数行セルの文字色・背景色 を指定します。
④	偶数行 セル設定	リアルタイムデーター覧表示画面の偶数行セルの文字色・背景色 を指定します。
⑤	警報発生時 セル設定	リアルタイムデーター覧表示画面の警報発生セルの文字色・背景色 を指定します。
⑥	OK	表示設定画面上の設定情報を保持し、リアルタイムデーター覧表示画面へ設定内容を反映します。
⑦	キャンセル	表示設定画面上の設定情報を無視し、リアルタイムデーター覧表示画面への設定内容の反映をキャンセルします。

５－５．データ解析の操作

データ解析では、本アプリケーション データ集録 機能にて記録した集録データファイル／各機器側で記録した集録データファイル／本機能で保存した解析ファイルを展開・表示し解析を行う機能を提供します。

＜ランチャー画面 データ解析 各部名称＞

下図 ①データ解析 の機能を用いて集録データファイル等の展開・表示・解析 の処理を行います。



番号	名称	説明	参照
①	データ解析	・集録データファイル等を検索する為、ファイルオープンダイアログが表示されます。 ・指定したデータファイルを使用しデータ解析画面を表示します。 ・集録データファイルの結合を行いたい場合は、ファイルオープンダイアログ表示中に複数のファイルを選択します。	５－５－１

※集録データファイルの結合については、以下の条件が必要になります（条件の設定については、５－４－２－１．グループ登録画面・５－４－５．データメモリー操作画面を参照して下さい）。

・結合したい集録データファイルが同一のグループ構成であること（グループ名称・データ構成・データメモリーインターバルが同じものであること）。

・結合したい集録データファイルが同一の拡張子であること。

※集録データファイルを複数選択し、結合条件を満たしていない場合は結合されずに別画面で表示されます。

５－５－１．データ解析画面

本アプリケーションにて集録したデータ・機器側が集録したデータ、またはデータ解析機能にて保存した解析ファイルの持つ情報を展開・表示・解析する機能を提供します。

＜データ解析画面 各部名称＞

下図 ①解析ファイル名称、②各種ツールバー、③数値データ／バーグラフ 表示部、④トレンドグラフ表示部 の機能を用いて対象の解析ファイルの展開・表示とその解析を行います。

番号	名称	説明	参照
①	データ解析画面タイトル	データ解析 - ［解析ファイルが持つ解析ファイルタイトルプロパティ］- 解析ファイル名称の順に表示します。 ※解析データファイルタイトルの初期値は現在開かれているデータのグループ名称となります。	-
②	各種ツールバー	データ解析画面における各種機能を実行します。	５－５－１－１

③	数値データ／バーグラフ表示部	展開・表示されたトレンドグラフ上のカーソル等とリンクしたデータ値が表示されます。 表示するデータの種類は以下の 3 種類になります。 ・数値データ … カーソル A・B の数値データを表示します。他に時刻、時間差、データ差を表示します。 ・バーグラフ … カーソル A・B の棒グラフを隣り合わせに 2 本表示します。 ・積層グラフ … カーソル A・B のデータを 1 本の棒の中に積層したグラフとして表示します。 ※５－５－１－１．各種ツールバー (c)-2 データ設定画面 ⑥ライン設定 の変更がグラフ色に反映されます。	
④	トレンドグラフ表示部	解析データファイルが持つ集録データ値をグラフ化し表示します。	５－５－１－３

５－５－１－１．各種ツールバー

データ解析画面の各種機能を起動・実行する為のツールボタンとその切り替え機能を提供します。

＜各種ツールバー　操作の流れ＞

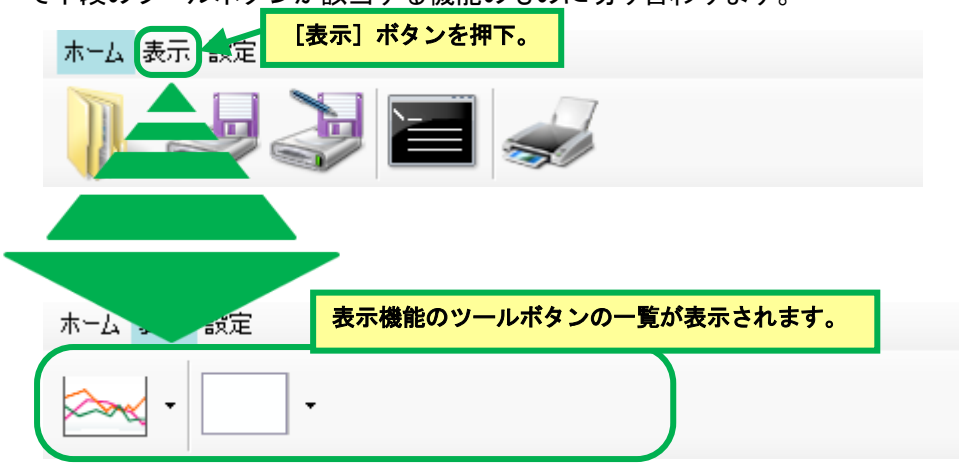
① データ解析画面を起動

データ解析画面を起動・表示すると［ホーム］メニュー状態で表示されます。

② 機能を選択

各種ツールバーでは大きく分けて３つの機能選択が可能です。

メニューバーの左から、［ホーム］［表示］［設定］となっており、各々のメニューボタンを押下することで下段のツールボタンが該当する機能のものに切り替わります。



③ 各種機能の起動

②機能の選択 後、下段のツールボタンを押下します
ツールボタン押下することで該当する機能・画面を起動することができます。

(a) ホームの操作

ホームでは、データ解析における基本的な機能を提供します。

＜各種ツールバー ホーム 各部名称＞

下図 ①ファイルを開く、②上書き保存、③名前をつけて保存、④データー覧表示、⑤画面イメージ印刷 の機能を用いてデータ解析における基本動作を行います。

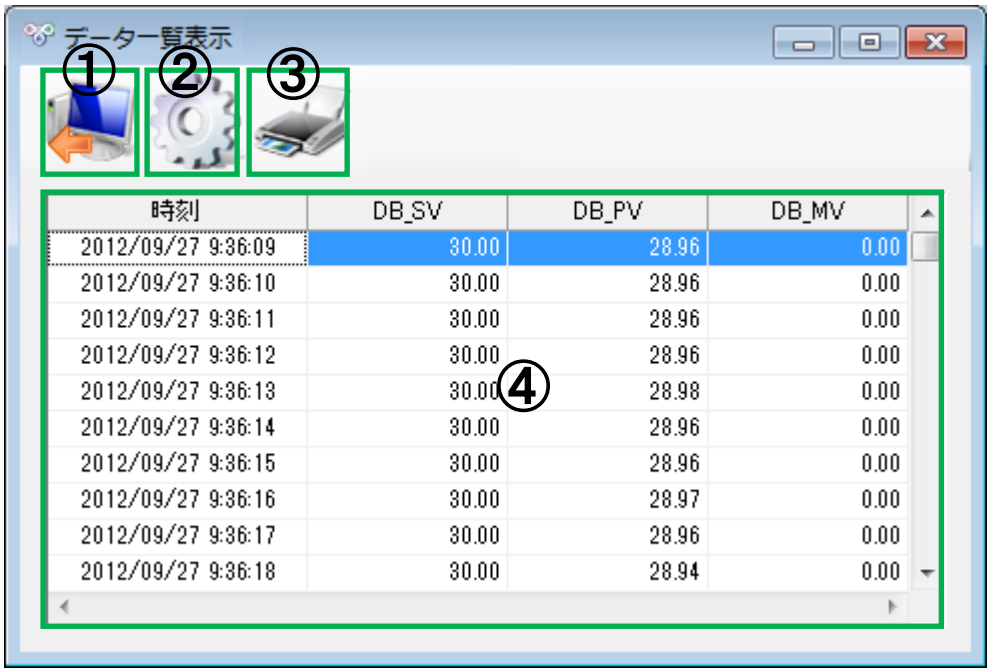
番号	名称	説明	参照
①	ファイルを開く	・ファイルオープンダイアログを表示します。 ・データファイルを指定し、データ解析画面に展開・表示します。 ※ *.dmf ファイルまたは *.zil ファイルが選択可能です。 ※結合が可能なデータ値は、元のデータに結合され展開・表示されます。それ以外の場合は別画面が起動し展開・表示されます。 ※画面数が規定の表示可能数を超えていた場合は起動できません（規定の画面数については ５－１．操作の流れ を参照して下さい）。	-
②	上書き保存	解析データファイルを保存します。 ※zil 形式で保存済みのファイルの場合は上書き保存、そうでない場合は名前をつけて保存を行います。	-
③	名前を付けて保存	任意のフォルダを指定し、名前をつけてファイル保存を行います。	-
④	データー覧表示	データー覧表示画面を表示します。	(a)－１
⑤	画面イメージ印刷	現在の画面イメージを印刷します。 ※印刷プレビューを表示します。	-

(a)－１．データー覧表示画面

データ解析画面 トレンドグラフ表示部にグラフ化され展開されているデータ値を数値一覧として展開・表示する機能を提供します。

＜データー覧表示画面 各部名称＞

下図 ①エクスポート、②表示設定、③印刷、④データー覧表示部 の機能を用いて解析データの一覧表示を行います。



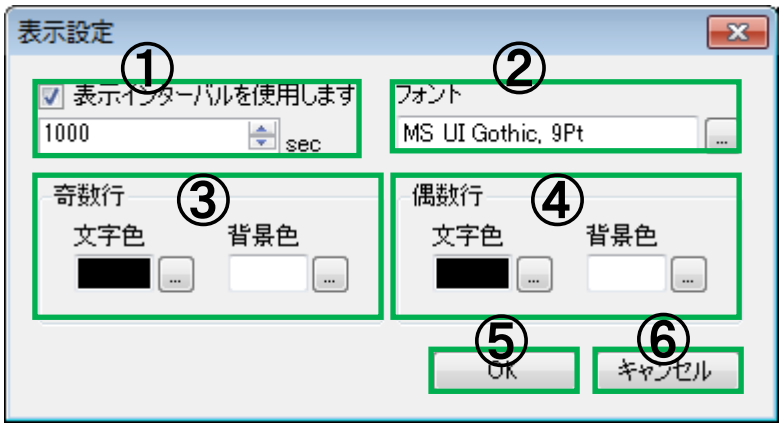
番号	名称	説明	参照
①	エクスポート	ファイル形式を ・CSV（カンマ区切り） ・テキスト（Tab 区切り） ・Excel（xlsx） の中から選択し出力先を指定してファイルを出力します。 ※Excel（xlsx）形式の場合のみグラフが付加されます。	-
②	表示設定	表示設定画面を表示します。	(a)－１－１
③	印刷	表示中のデーター覧を印刷します。 ※印刷プレビューを表示します。	-
④	データー覧 表示部	集録時刻と対象データの集録値の一覧を表示します。 ※データー覧表示部をダブルクリックすることで ５－５－１－３．トレンドグラフ表示部 に一覧カーソルが表示されます。詳細は５－５－１－３．トレンドグラフ表示部 ②一覧カーソル を参照して下さい。	-

(a)－１－１．表示設定画面

データー覧表示画面 表示設定情報を編集する機能を提供します。

＜表示設定画面 各部名称＞

下図 ①表示インターバル設定部、②フォント、③奇数行設定部、④偶数行設定部、⑤OK、⑥キャンセル の機能を用いて表示設定情報の編集を行います。



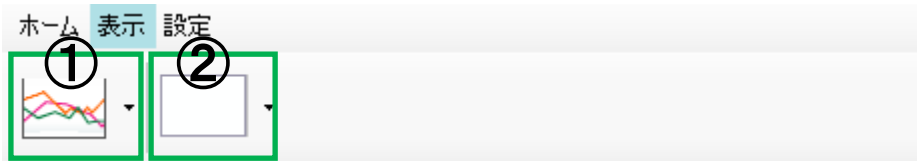
番号	名称	説明
①	表示インターバル設定部	一覧表示するデータ値 時刻の表示インターバルの使用有無、ならびに設定値を 1～86400［sec］の範囲内で指定します。 ※表示インターバルに従い、データー覧画面には指定された間隔ごとにデーター覧を表示します。
②	フォント	データー覧表示画面のフォント情報を指定します。
③	奇数行設定部	データー覧表示画面の奇数行セルの文字色・背景色 を指定します。
④	偶数行設定部	データー覧表示画面の偶数行セルの文字色・背景色 を指定します。
⑤	OK	表示設定画面上の設定情報を保持し、データー覧表示画面へ設定内容を反映します。
⑥	キャンセル	表示設定画面上の設定情報を無視し、データー覧表示画面への設定内容の反映をキャンセルします。

(b) 表示の操作

表示では、データ解析における表示設定の切り替え機能を提供します。

＜各種ツールバー 表示 各部名称＞

下図 ①表示期間切り替え、②罫線表示切り替え の機能を用いてデータ解析における表示設定の切り替えを行います。



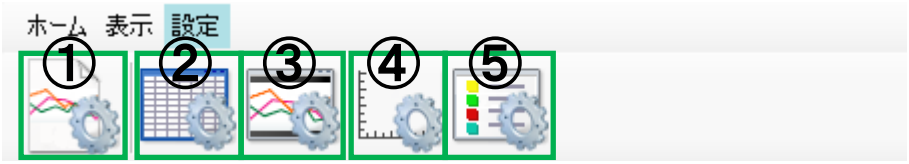
番号	名称	説明
①	表示期間切り替え	トレンドグラフ上の表示期間を 全期間／標準／AB カーソル間 の中から選択し指定します。 ドロップダウンボタンを押下し、下記アイコンを押下することで指定します。 ※AB カーソル間を選択している場合はボタンのアイコン部分をクリックすることで表示の更新が可能です（AB カーソルを配置 → ボタンクリックの流れ）。 …全期間 …標準 …AB カーソル間
②	罫線表示切り替え	トレンドグラフ上の罫線表示を なし／標準／詳細 の中から選択し指定します。 ドロップダウンボタンを押下し、下記アイコンを押下することで指定します。 …なし …標準 …詳細

(c) 設定の操作

設定では、データ解析における各種設定機能を提供します。

＜各種ツールバー 設定 各部名称＞

下図 ①解析ファイル設定、②データ設定、③グラフ領域設定、④スケール板設定、⑤数値データ／バーグラフ設定 の機能を用いてデータ解析における設定情報の編集を行います。



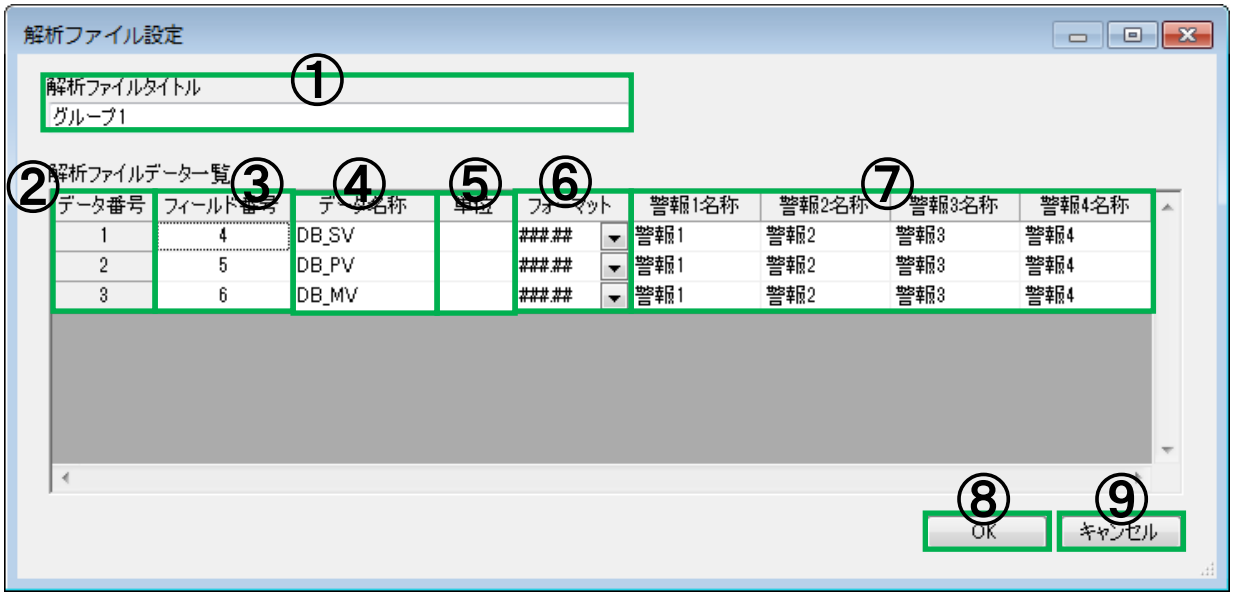
番号	名称	説明	参照
①	解析ファイル設定	解析ファイル設定画面を表示します。	(c)－１
②	データ設定	データ設定画面を表示します。	(c)－２
③	グラフ領域設定	グラフ領域設定画面を表示します。	(c)－３
④	スケール板設定	スケール板設定画面を表示します。	(c)－４
⑤	数値データ／バーグラフ設定	数値データ／バーグラフ設定画面を表示します。	(c)－５

(c)ー１．解析ファイル設定画面

データ解析画面 解析ファイル設定情報の編集機能を提供します。

＜解析ファイル設定画面 各部名称＞

下図 ①解析ファイルタイトル、②データ番号、③フィールド番号、④データ名称、⑤単位、⑥フォーマット、⑦警報 1~4 名称、⑧OK、⑨キャンセル の機能を用いて解析ファイル設定情報の編集を行います。



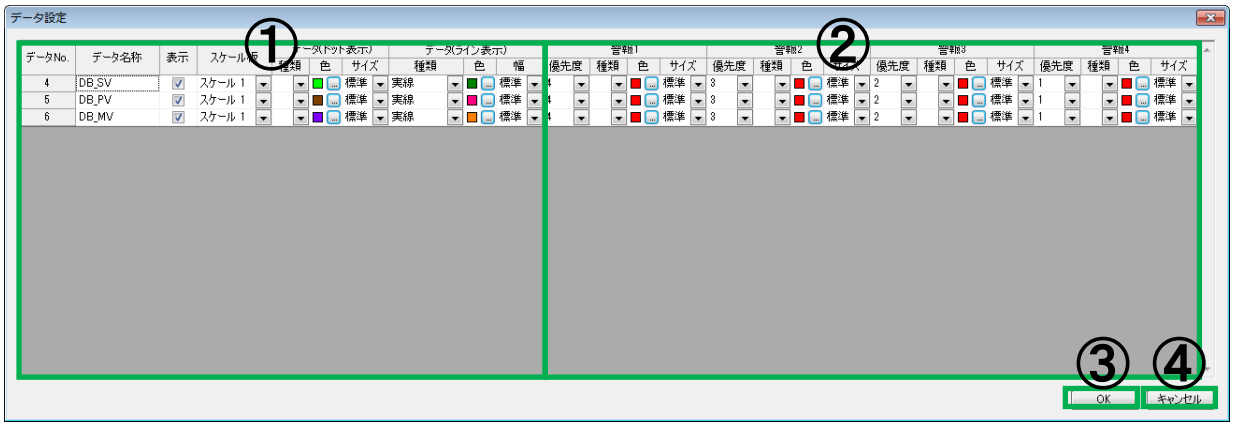
番号	名称	説明
①	解析ファイル タイトル	データ解析画面にて展開中の解析ファイルタイトルを指定します。30 文字までの入力が可能です。 ※指定した解析ファイルタイトルがデータ解析画面のヘッダー文字列に反映されます。
②	データ番号	データ解析画面上に存在するデータ値番号を表示します。変更はできません。
③	フィールド番号	集録時データ No.を表示します。変更はできません。
④	データ名称	データ名称を指定します。30 文字までの入力が可能です。
⑤	単位	単位を指定します。30 文字までの入力が可能です。
⑥	フォーマット	#####／####.#／###.##／##.###／#.####／0E+00／0.0E+00／0.00E+00／0.000E+00 の中から解析データの表示用フォーマットを選択し指定します。
⑦	警報 1~4 名称	各警報名称を指定します。30 文字までの入力が可能です。
⑧	OK	解析ファイル設定画面上の設定情報を保持し、データ解析画面へ設定内容を反映します。
⑨	キャンセル	解析ファイル設定画面上の設定情報を無視し、データ解析画面への設定内容の反映をキャンセルします。

(c)－２．データ設定画面

データ解析画面　データ設定情報の編集機能を提供します。

＜データ設定画面　各部名称＞

下図 ①基本設定部、②警報設定部、③OK、④キャンセル の機能を用いてデータ解析画面のデータ設定情報の編集またはキャンセルを行います。



番号	名称	説明
①	基本設定部	**※基本設定部　各部名称　を参照して下さい。**
②	警報設定部	**※警報設定部　各部名称　を参照して下さい。**
③	OK	データ設定画面上の設定情報を保持し、データ解析画面へ設定内容を反映します。
④	キャンセル	データ設定画面上の設定情報を無視し、データ解析画面への設定内容の反映をキャンセルします。

＜基本設定部 各部名称＞

下図 ①データ No.、②データ名称、③表示、④スケール板、⑤ドット 設定部、⑥ライン 設定部 の機能を用いてデータ解析画面のデータ設定情報 基本設定部の編集を行います。

番号	名称	説明
①	データ No.	集録時データ No.を表示します。変更はできません。
②	データ名称	データ名称を表示します。変更はできません。
③	表示	データ値の表示有無を指定します。 ※チェック有り：表示／チェックなし：非表示 となります。
④	スケール板	データ値をプロットする対象のスケール板を スケール 1／スケール 2／スケール 3／スケール 4 の中から選択し指定します。
⑤	ドット設定部	表示するデータ値のドットの種類・色・サイズを指定します。 **【種類】** なし／□／■／◇／◆／△／▲／×／＊／○／●／＋ の中から選択し指定します。 **【色】** カラーダイアログから指定します。 **【サイズ】** 小さい／標準／大きい の中から選択し指定します。
⑥	ライン設定部	表示するデータ値のラインの種類・色・幅を指定します。 **【種類】** なし／実線／鎖線／破線／一点鎖線／二点鎖線 の中から選択し指定します。 **【色】** カラーダイアログから指定します。 **【幅】** 細い／標準／太い の中から選択し指定します。

＜警報設定部 各部名称＞

下図 ①警報 1～4 設定部 の機能を用いてデータ解析画面のデータ設定情報 警報設定部の編集を行います。

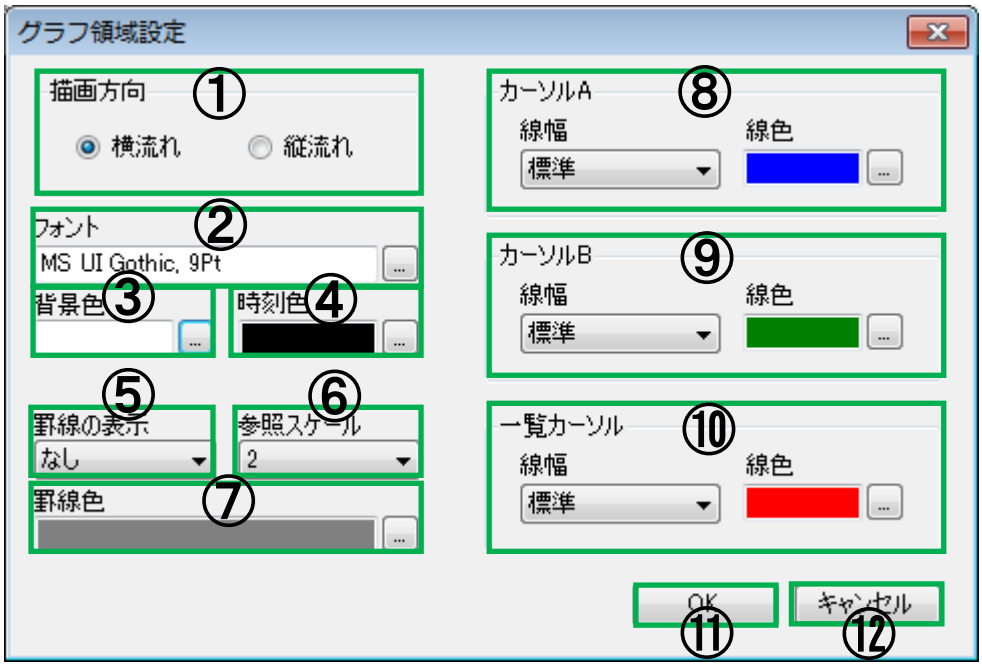
番号	名称	説明
①	警報 1～4 設定部	各警報部分にて表示するドットの種類・色・幅とその優先度を指定します。 **【優先度】** 1／2／3／4 の中から選択し指定します。 ※優先度は 1[高]～4[低] を表します。 **【種類】** なし／□／■／◇／◆／△／▲／×／✳／○／●／＋ の中から選択し指定します。 **【色】** カラーダイアログから指定します。 **【サイズ】** 小さい／標準／大きい の中から選択し指定します。

(c)－３．グラフ領域設定画面

データ解析画面 グラフ領域設定情報の編集機能を提供します。

＜グラフ領域設定画面 各部名称＞

下図 ①描画方向、②フォント、③背景色、④時刻色、⑤罫線の表示、⑥参照スケール、⑦罫線色、⑧カーソル A 設定部、⑨カーソル B 設定部、⑩一覧カーソル 設定部、⑪OK、⑫キャンセル の機能を用いてデータ解析画面のグラフ領域設定情報の編集またはキャンセルを行います。



番号	名称	説明
①	描画方向	グラフのスクロール方法を 横流れ／縦流れ のいずれかから選択し指定します。
②	フォント	グラフ領域および時間軸で使用するフォントを指定します。
③	背景色	グラフ領域の背景色を指定します。
④	時刻色	時間軸の前景色を指定します。
⑤	罫線の表示	罫線の表示種別を なし／標準（目盛り位置に表示）／詳細（補助目盛り位置にも表示）の中から選択し指定します。
⑥	参照スケール	罫線表示の対象となるスケール板を 1／2／3／4 の中から選択し指定します。
⑦	罫線色	罫線の描画色を指定します。
⑧	カーソル A 設定部	カーソル A の線幅・色を指定します。 **【線幅】** 細い／標準／太い の中から選択し指定します。 **【線色】** カラーダイアログから指定します。
⑨	カーソル B 設定部	カーソル B の線幅・色を指定します。 **【線幅】** 細い／標準／太い の中から選択し指定します。 **【線色】** カラーダイアログから指定します。
⑩	一覧カーソル 設定部	一覧カーソルの線幅・色を指定します。 **【線幅】** 細い／標準／太い の中から選択し指定します。 **【線色】** カラーダイアログから指定します。

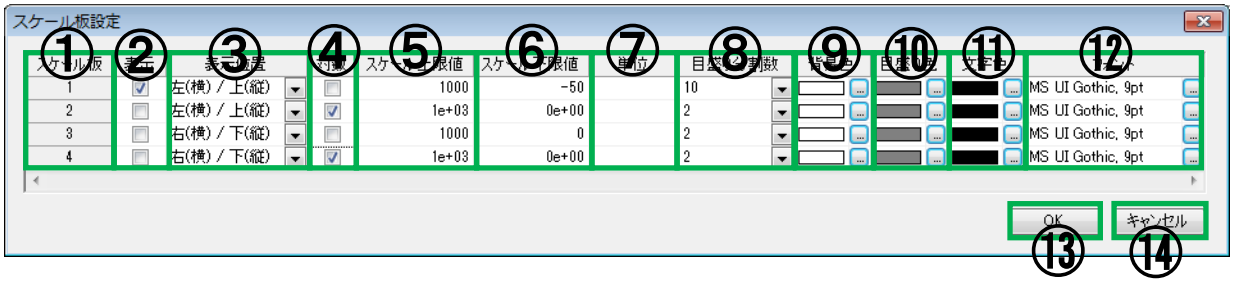
⑪	OK	グラフ領域設定画面上の設定情報を保持し、データ解析画面へ設定内容を反映します。
⑫	キャンセル	グラフ領域設定画面上の設定情報を無視し、データ解析画面への設定内容の反映をキャンセルします。

(c)－４．スケール板設定画面

データ解析画面 スケール板設定情報の編集機能を提供します。

＜スケール板設定画面 各部名称＞

下図 ①スケール板、②表示、③表示位置、④対数、⑤スケール上限値、⑥スケール下限値、⑦単位、⑧目盛り分割数、⑨背景色、⑩目盛り色、⑪文字色、⑫フォント、⑬OK、⑭キャンセル の機能を用いてトレンドグラフにて使用するスケール板設定情報の編集またはキャンセルを行います。



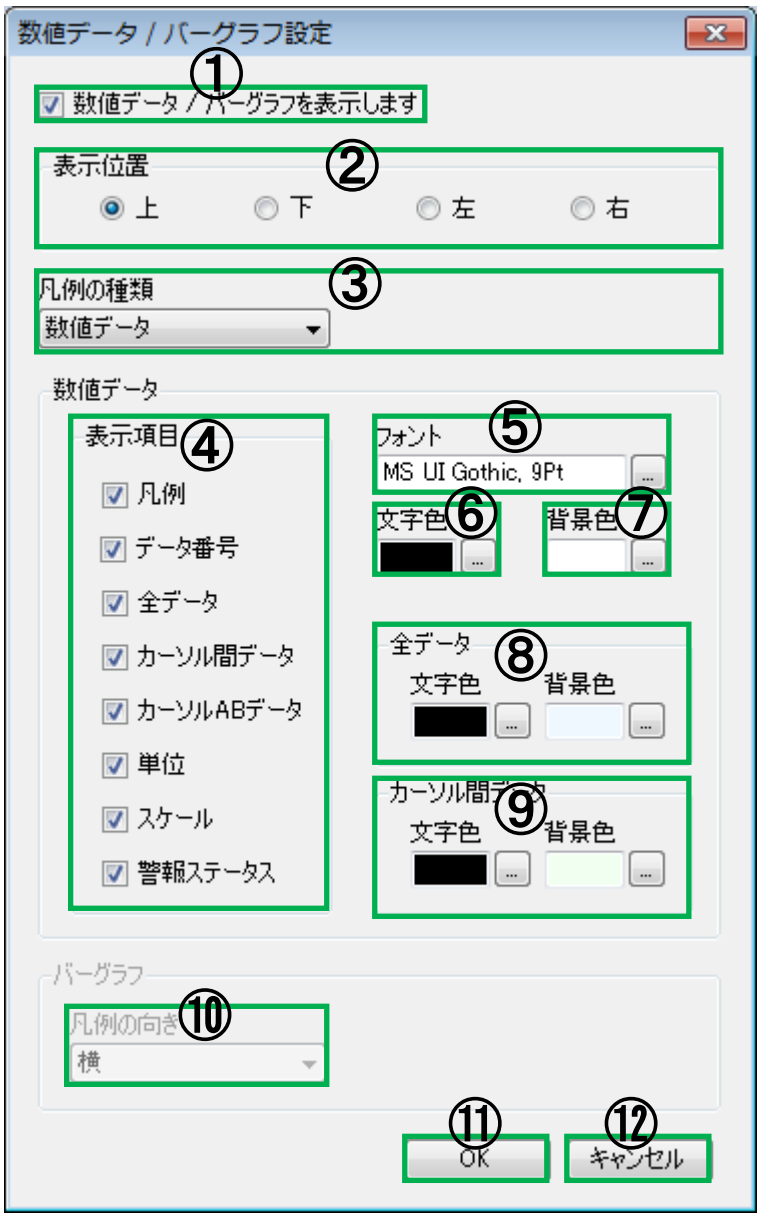
番号	名称	説明
①	スケール板	1~4 のスケール板 No.を表示します。変更はできません。
②	表示	スケール板の表示有無を指定します。 ※チェック有り：表示／チェックなし：非表示 となります。
③	表示位置	スケール板表示位置を 左（横）または上（縦）／右（横）または下（縦） のいずれかから選択し指定します。 ※(c)－３．グラフ領域設定画面 の 描画方向 設定を変更することで、左／上 または 右／下 が自動で切り替わります。
④	対数	スケール値表現を 通常／対数 のいずれかから選択し指定します。 ※チェック有り：対数／チェックなし：通常 となります。
⑤	スケール上限値	スケール板の上限値を-99999. 999～99999. 999 の範囲内で指定します。 ※対数スケールの場合は指数書式となります。
⑥	スケール下限値	スケール板の下限値を-99999. 999～99999. 999 の範囲内で指定します。 ※対数スケールの場合は指数書式となります。
⑦	単位	スケール板に表示する単位を指定します。3 せっていし 0 文字までの入力が可能です。
⑧	目盛り分割数	目盛りラインの分割数を 2／3／4／5／6／7／8／9／10／11／12／13／14／15／16／17／18／19／20 の中から選択し指定します。 ※対数スケールの場合は設定値を無視し、9 固定となります。
⑨	背景色	スケール板の背景色を指定します。
⑩	目盛り色	目盛り線の描画色を指定します。
⑪	文字色	スケール値の前景色を指定します。
⑫	フォント	スケール値のフォントを指定します。
⑬	OK	スケール板設定画面上の設定情報を保持し、トレンドグラフ表示画面へ設定内容を反映します。
⑭	キャンセル	スケール板設定画面上の設定情報を無視し、トレンドグラフ表示画面への設定内容の反映をキャンセルします。

(c)－５．数値データ／バーグラフ設定画面

データ解析画面 数値データ／バーグラフ設定情報の編集機能を提供します。

＜数値データ / バーグラフ設定画面 各部名称＞

下図 ①数値データ／バーグラフ表示有無、②表示位置、③凡例の種類、④数値データ 表示項目、⑤数値データ フォント、⑥数値データ 文字色、⑦数値データ 背景色、⑧数値データ 全データ設定部、⑨数値データ カーソル間データ設定部、⑩バーグラフ 凡例の向き、⑪OK、⑫キャンセル の機能を用いて数値データ／バーグラフ設定情報の編集またはキャンセルを行います。



番号	名称	説明
①	数値データ／バーグラフ 表示有無	数値データ／バーグラフの表示有無を指定します。 ※チェック有り：表示／チェックなし：非表示 となります。
②	表示位置	数値データ／バーグラフの表示位置を 上／下／左／右 の中から選択し指定します。
③	凡例の種類	凡例の種類を 数値データ／バーグラフ／積層グラフ の中から選択し指定します。 ※数値データを指定した場合、数値データ 設定部が有効になりバーグラフ設定部が無効になります。 ※バーグラフ／積層グラフ を指定した場合、バーグラフ設定部が有効になり数値データ設定部が無効になります。

④	数値データ 表示項目	数値データに表示される項目の表示有無を指定します。 ※チェック有り：表示／チェックなし：非表示 となります。
⑤	数値データ フォント	数値データのフォント情報を指定します。
⑥	数値データ 文字色	数値データの前景色を指定します。
⑦	数値データ 背景色	数値データの背景色を指定します。
⑧	数値データ 全データ設定部	数値データ 全データ関連列の文字色・背景色 を指定します。 ※初期値の背景色はカラー選択ダイアログの「作成した色(C)」に配置されています。
⑨	数値データ カーソル間 データ設定部	数値データ カーソル間データ関連列の文字色・背景色 を指定します。 ※初期値の背景色はカラー選択ダイアログの「作成した色(C)」に配置されています。
⑩	バーグラフ 凡例の向き	バーグラフの向きを指定します。
⑪	OK	数値データ設定画面上の設定情報を保持し、トレンドグラフ表示画面へ設定内容を反映します。
⑫	キャンセル	数値データ設定画面上の設定情報を無視し、トレンドグラフ表示画面への設定内容の反映をキャンセルします。

５－５－１－２．数値データ／バーグラフ表示部

データ解析画面 展開データを集計した数値データ、またはバーグラフの表示領域を提供します。

※５－５－１－３．トレンドグラフ表示部 と連動しておりトレンドグラフ上で AB カーソルの移動を行うことで再演算が実行され表示内容が変動します。

※(c)－５．数値データ／バーグラフ設定画面 にてバーグラフ／積層グラフ 表示に切り替えた場合はカーソル AB のデータ値をグラフ化した情報を表示します。

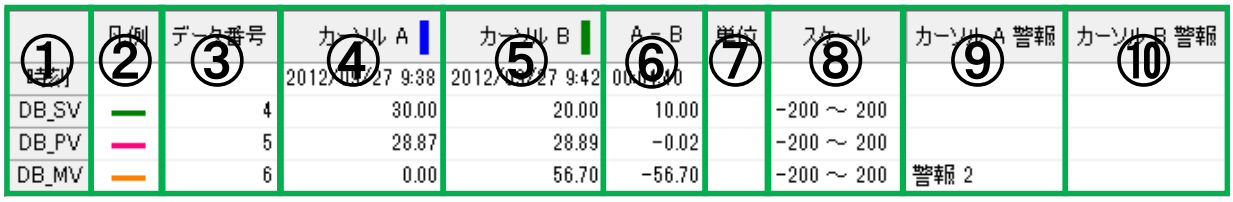
＜数値データ 各部名称＞

下図 ①基本データ・カーソル AB データ表示部、②全データ・カーソル間データ表示部 の機能を用いてデータ解析画面 数値データの表示を行います。

番号	名称	説明
①	基本データ・カーソル AB データ表示部	**※下記、＜基本データ・カーソル AB データ表示部 各部名称＞ を参照して下さい。** ※ダブルクリックにて (c)－５．数値データ／バーグラフ設定画面を表示します。
②	全データ・カーソル間データ表示部	**※下記、＜全データ・カーソル間データ表示部 各部名称＞ を参照して下さい。** ※ダブルクリックにて (c)－５．数値データ／バーグラフ設定画面を表示します。

＜基本データ・カーソル AB データ 各部名称＞

下図 ①データ名称、②凡例、③データ番号、④カーソル A、⑤カーソル B、⑥A－B、⑦単位、⑧スケール、⑨カーソル A 警報、⑩カーソル B 警報 の機能を用いて数値データ表示部を構成します。



番号	名称	説明
①	データ名称	行ヘッダーとしてデータ名称を表示します。
②	凡例	各データ値に対応した凡例ラインを表示します。
③	データ番号	各データ値の集録時データ番号を表示します。
④	カーソル A	各データ値中、カーソル A 位置の値を表示します。時刻行には対象データ値の時刻が表示されます。ヘッダー名横の表示カラーはカーソル色を表します。 ※５－５－１－３．トレンドグラフ表示部 カーソル AB を配置したタイミングで表示されます。カーソル A が削除されたタイミングでデータ値も削除されます。
⑤	カーソル B	各データ値中、カーソル B 位置の値を表示します。時刻行には対象データ値の時刻が表示されます。ヘッダー名横の表示カラーはカーソル色を表します。 ※５－５－１－３．トレンドグラフ表示部 カーソル AB を配置したタイミングで表示されます。カーソル B が削除されたタイミングでデータ値も削除されます。
⑥	A－B	④・⑤が表示中に カーソル A データ値 から カーソル B データ値 を引いた差分を表示します。 ※５－５－１－３．トレンドグラフ表示部 カーソル AB を配置したタイミングで表示されます。カーソル A またはカーソル B が削除されたタイミングで演算結果も削除されます。
⑦	単位	各データ値に指定されている単位を表示します。
⑧	スケール	各データ値に指定したスケール板のスケール情報を表示します。
⑨	カーソル A 警報	各データ値中、カーソル A 位置の警報ステータスを表示します。
⑩	カーソル B 警報	各データ値中、カーソル B 位置の警報ステータスを表示します。

＜全データ・カーソル間データ 各部名称＞

下図 ①全データ 最大値、②全データ 最小値、③全データ 平均値、④全データ標準偏差、⑤全データ中央値、⑥カーソル最大値、⑦カーソル最小値、⑧カーソル平均値、⑨カーソル標準偏差、⑩カーソル中央値 の機能を用いて数値データ表示部を構成します。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
50.00	20.00	22.34	5.14	20.00	50.00	20.00	28.07	7.78	30.00
29.31	28.84	29.08	0.15	29.10	28.92	28.84	28.87	0.02	28.86
100.00	0.00	75.41	40.29	99.90	100.00	0.00	19.90	28.11	0.00

番号	名称	説明
①	全データ 最大値	各データ値における全データ中の最大値を表示します。
②	全データ 最小値	各データ値における全データ中の最小値を表示します。
③	全データ 平均値	各データ値における全データ中の平均値を表示します。
④	全データ 標準偏差	各データ値における全データ中の標準偏差を表示します。
⑤	全データ 中央値	各データ値における全データ中の中央値を表示します。
⑥	カーソル 最大値	各データ値におけるカーソル AB 間データの最大値を表示します。
⑦	カーソル 最小値	各データ値におけるカーソル AB 間データの最小値を表示します。
⑧	カーソル 平均値	各データ値におけるカーソル AB 間データの平均値を表示します。
⑨	カーソル 標準偏差	各データ値におけるカーソル AB 間データの標準偏差を表示します。
⑩	カーソル 中央値	各データ値におけるカーソル AB 間データの中央値を表示します。

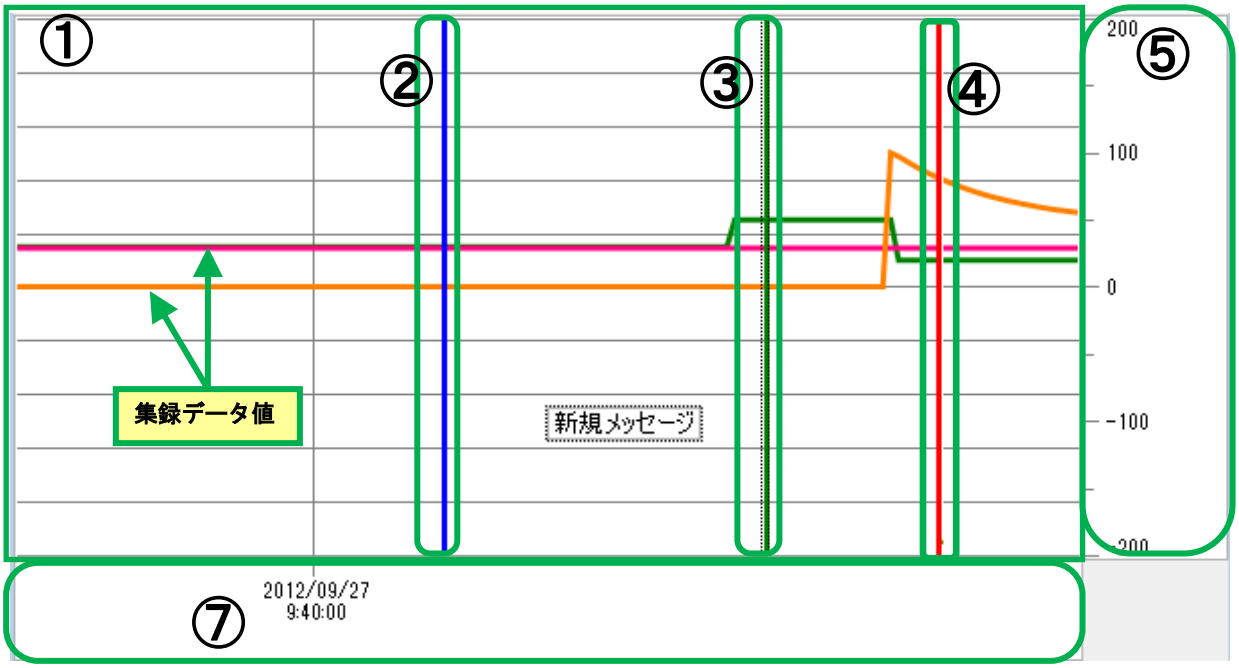
５－５－１－３．トレンドグラフ表示部

データ解析画面 解析データファイルが持つ集録データ値をグラフ化し表示する機能を提供します。

※５－５－１－２．数値データ／バーグラフ表示部 と連動しておりトレンドグラフ上で AB カーソルの移動を行うことで再演算が実行され表示内容が変動します。

＜トレンドグラフ表示部 各部名称＞

下図 ①グラフ領域、②A カーソル、③B カーソル、④一覧カーソル、⑤スケール板領域、⑥時刻軸領域 の機能を用いてデータ解析画面におけるトレンドグラフ表示・解析を行います。



番号	名称	説明	参照
①	グラフ領域	解析データ値をプロットしグラフ等の表示を行います。 ※参照スケールに準じた罫線・A カーソル・B カーソルが表示されます。 ※グラフ領域にて右クリックすることで⑤メッセージ の新規追加メニューが表示されます。	-
②	A カーソル	①グラフ領域 にてマウスクリックを行うことで A カーソルが表示されます。 ※A カーソルを選択状態にすることでマウスドラッグまたは矢印キー押下による移動と Delete キー押下による削除が可能です。	-
③	B カーソル	③A カーソル を表示後そのままマウスドラッグを行うことで B カーソルが表示されます。 ※B カーソルを選択状態にすることでマウスドラッグまたは矢印キー押下による移動と Delete キー押下による削除が可能です。	-
④	一覧カーソル	(a)－１．データー覧表示画面 ⑤データー覧表示部をダブルクリックすることで該当するデータ位置に一覧カーソルが表示されます。 ※一覧カーソルを選択状態にすることでマウスドラッグまたは矢印キー押下による移動と Delete キー押下による削除が可能です。 ※データー覧表示画面を閉じると一覧カーソルも同時に消えます。	-

⑤	スケール板領域	①グラフ領域 の罫線参照スケールを表示します。 ※スケール板の上限・下限等の設定は (c)－４．スケール板設定画面にて編集可能です。 ※複数のスケール板が表示されている場合、罫線参照スケールに設定したいスケール板をマウスクリックすることで切り替えることが可能です。 ※各データ値の参照スケールは (c)－２．データ設定画面で設定した内容となりますので注意が必要です。 ※スケール板の表示枠をマウスドラッグし、範囲を指定するとスケール板の表示サイズの変更が可能です。 ※スケール板の表示領域をマウスドラッグし、範囲を指定するとスケール範囲の拡大縮小が可能です。	-
⑥	時刻軸領域	①グラフ領域 の時刻軸を表示します。 ※マウスドラッグにて範囲を指定すると拡大表示されます。	-

５－６． お気に入りの操作

お気に入りでは、本アプリケーション ランチャー上で使用可能な各機能を任意で追加し、使用頻度の高い機能をよりスムーズに起動・実行できるユーザーサポート機能を提供します。

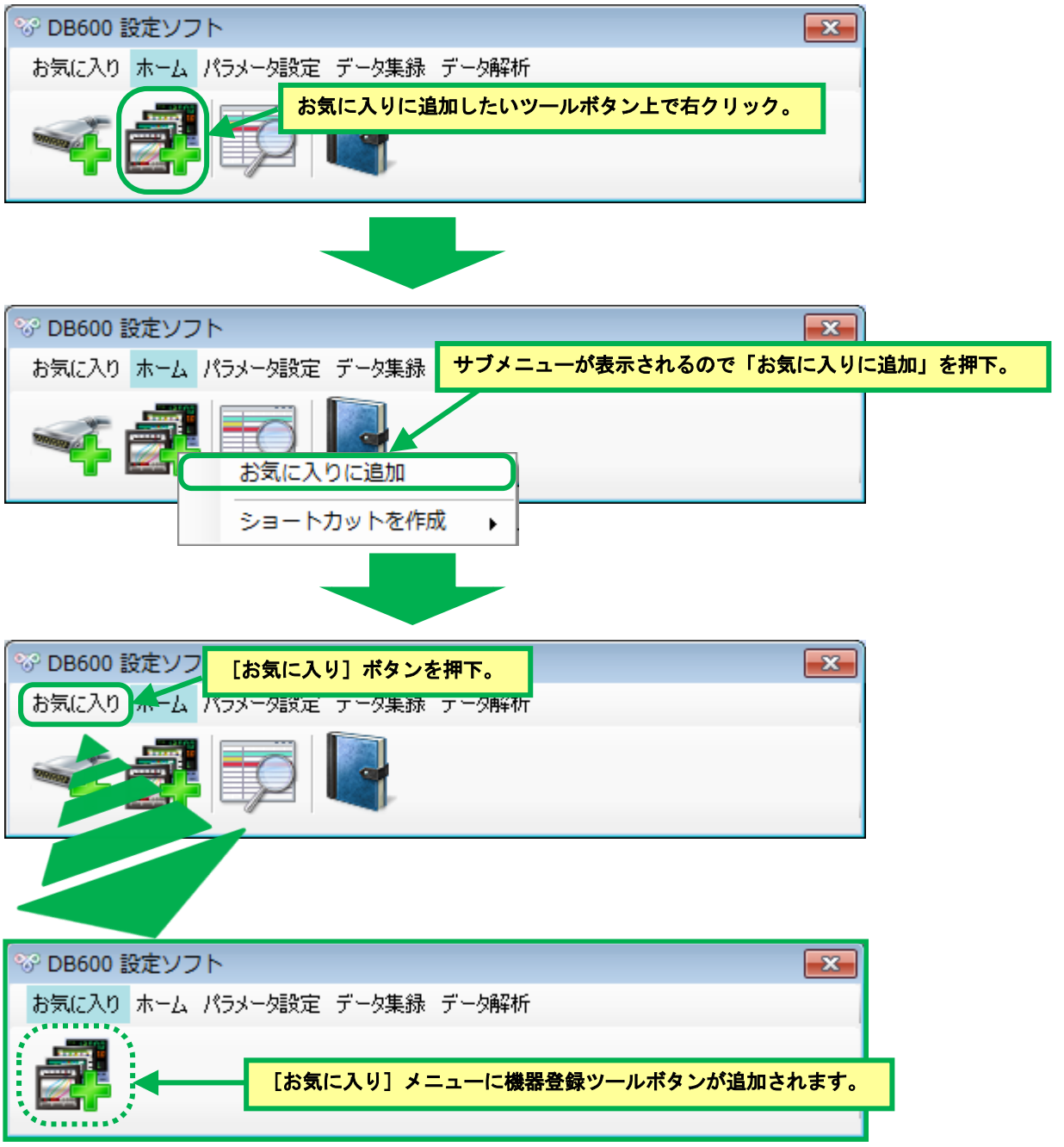
＜ランチャー画面 お気に入り 各部名称＞

下図 ①お気に入りツールボタン表示部 の処理を行います。

番号	名称	説明
①	お気に入りツールボタン表示部	ユーザーが任意に追加・登録したツールボタンを表示します。 **※＜お気に入り 追加の流れ＞ を参照して下さい。**

＜お気に入り 追加の流れ＞

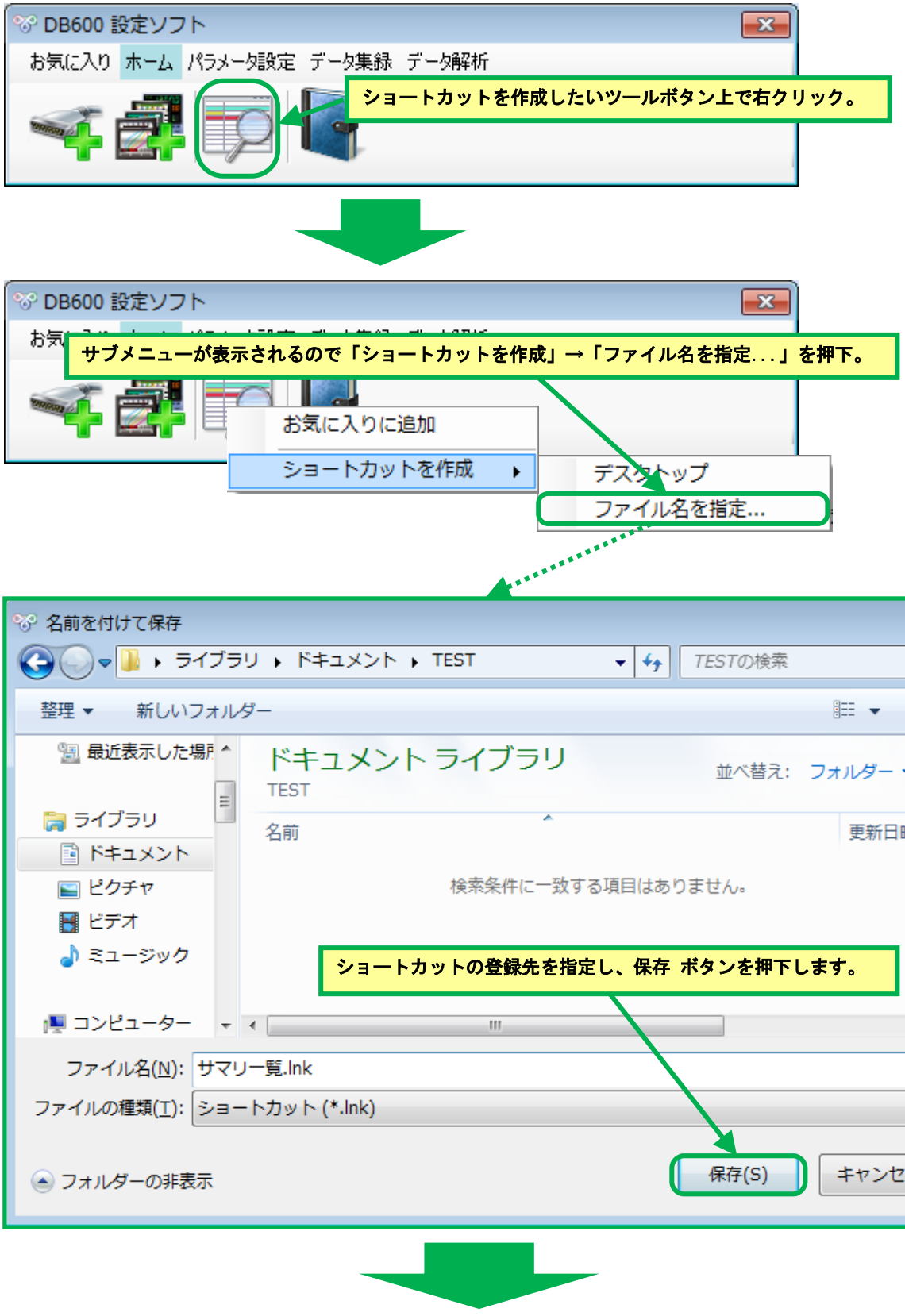
下図の流れに従い操作することで［お気に入り］メニューに任意のツールボタンを追加します。



＜ショートカット 作成の流れ＞

下図の流れに従い操作することで任意のツールボタンのショートカットを作成します。

※ショートカットはデスクトップ、またはファイル名を指定して任意の場所に配置可能です。



配置されたショートカットを押下することでアプリケーションを起動／対象機能を実行することが可能です。
※既にアプリケーションが起動中な場合は無効となります。

６．トラブルシューティング

本ソフトの動作や機能に異常が認められた時、現象とその原因・対処を示します。

No.	現　象	原因・対処
1	インストールが正常に完了しない。	ハードディスクの空き容量が十分にあることを確認して下さい（２－１項参照）。
2	ソフトが起動しない。	インストールが正常に行えていない可能性があります。一度アンインストールし、再インストールすることで、起動できるか確認して下さい。
3	正常に動作していたが、 急に動作不良が発生した。	本ソフトを終了し、もう一度、本ソフトを起動して下さい。 ※不慮のエラーにより終了した場合、保存していないデータのバックアップは行っておりませんので、再度設定しなおして下さい。

CHINO
CHINO CORPORATION

本社・技術開発センター　〒173-8632　東京都板橋区熊野町 32-8　TEL (03) 3956-2111 (大代)　FAX (03) 3956-6762

東京支店　〒173-8632　東京都板橋区熊野町 32-8
TEL(03)3956-2205(代)　FAX(03)3956-2477
東京営業所　〒173-8632　東京都板橋区熊野町 32-8
TEL(03)3956-2401(代)　FAX(03)3956-2477
立川営業所　〒190-0023　立川市柴崎町 3-11-4(千代田生命立川ビル)
TEL(042)521-3081(代)　FAX(042)521-3082
千葉営業所　〒260-0016　千葉市中央区栄町42－11(日本企業会館)
TEL(043)224-8371(代)　FAX(043)227-5131
横浜営業所　〒221-0052　横浜市神奈川区栄町5－1(横浜ｸﾘｴｰｼｮﾝｽｸｴｱ)
TEL(045)440-3171(代)　FAX(045)461-4657
厚木営業所　〒243-0018　厚木市中町 3-15-4(厚木Nﾋﾞﾙ)
TEL(046)295-9100(代)　FAX(046)295-9105
北部支店　〒330-0802　さいたま市大宮区宮町 2-81(大宮アネックスビル)
TEL(048)643-4641(代)　FAX(048)643-3687
大宮営業所　〒330-0802　さいたま市大宮区宮町 2-81(大宮アネックスビル)
TEL(048)643-4641(代)　FAX(048)643-3687
札幌営業所　〒060-0807　札幌市北区北七条西 2-20(東京建物札幌ビル)
TEL(011)757-9141(代)　FAX(011)758-8727
仙台営業所　〒980-0811　仙台市青葉区一番町 1-17-24(高裁前ビル)
TEL(022)227-0581(代)　FAX(022)227-0583
新潟営業所　〒950-0087　新潟市中央区東大通 1-2-30(第 3 マルカビル)
TEL(025)243-2191(代)　FAX(025)243-7619
前橋営業所　〒371-0024　前橋市表町2－2－6(前橋第一生命ビル)
TEL(027)221-6611(代)　FAX(027)221-6011
水戸営業所　〒310-0011　水戸市三の丸1－4－73(水戸三井ビル)
TEL(029)224-9151(代)　FAX(029)231-5576

大阪支店　〒564-0063　大阪府吹田市江坂町 1-23-101(大同生命江坂ビル)
TEL(06)6385-7031(代)　FAX(06)6386-7202
大阪営業所　〒564-0063　大阪府吹田市江坂町 1-23-101(大同生命江坂ビル)
TEL(06)6385-7031(代)　FAX(06)6386-7202
大津営業所　〒520-0043　大津市中央 3-1-8(大津第一生命ビル)
TEL(077)526-2781(代)　FAX(077)526-4549
岡山営業所　〒700-0984　岡山市北区桑田町 18-28(明治安田生命岡山桑田町ﾋﾞﾙ)
TEL(086)223-2651(代)　FAX(086)223-1525
高松営業所　〒760-0023　高松市寿町2－2－10(高松寿町プライムビル)
TEL(087)822-5531(代)　FAX(087)822-0016
広島営業所　〒732-0827　広島市南区稲荷町4－1(住友生命広島ビル)
TEL(082)261-4231(代)　FAX(082)264-2377
福岡営業所　〒812-0011　福岡市博多区博多駅前 1-15-20(NOF博多駅前ビル)
TEL(092)481-1951(代)　FAX(092)481-1954
北九州営業所　〒802-0081　北九州市小倉北区紺屋町 13-1(毎日西部会館ビル)
TEL(093)531-2081(代)　FAX(093)521-2984
名古屋支店　〒450-0001　名古屋市中村区那古野 1-47-1(名古屋国際ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ)
TEL(052)581-7595(代)　FAX(052)561-2683
名古屋営業所　〒450-0001　名古屋市中村区那古野 1-47-1(名古屋国際ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ)
TEL(052)581-7595(代)　FAX(052)561-2683
静岡営業所　〒420-0853　静岡市葵区追手町2－12(静岡安藤ビル)
TEL(054)255-6136(代)　FAX(054)255-6137
富山営業所　〒930-0004　富山市桜橋通り2－25(第一生命ビル)
TEL(076)441-2096(代)　FAX(076)441-2098

海外事業統括部　〒173-8632　東京都板橋区熊野町 32-8
TEL(03)3956-2171　FAX(03)3956-0915
民生機器営業部　〒173-8632　東京都板橋区熊野町 32-8
TEL(03)3956-2131　FAX(03)3956-8767
東京精工事業部　〒253-0016　神奈川県茅ヶ崎市小桜町 1-1
TEL(0467)53-1110　FAX(0467)53-0110

藤岡事業所　〒375-8505　群馬県藤岡市森1
TEL(0274)42-2111(代)　FAX(0274)42-2115
久喜事業所　〒346-0028　埼玉県久喜市河原井町 18(久喜菖蒲工業団地 4-2 号)
TEL(0480)23-2511(代)　FAX(0480)23-2514
山形事業所　〒994-0002　山形県天童市大字乱川 1515
TEL(023)607-2100(代)　FAX(023)652-0171

製品に関するお問い合わせは
コールセンター(お客様製品相談室)　0120－41－2070
携帯電話からも無料でご利用いただけます。
または最寄りの支店・営業所、代理店までご連絡ください。
※お問い合わせ時は形式コードと製造番号をお手元にご用意ください。
【受付時間】月曜日～金曜日(祝日、弊社休業日を除く)9:00～12:00／13:00～18:00

Printed in Japan